

公立鳥取環境大学 研究者総覧2020

RESEARCHERS FILE 2020

- 環境学部
- 経営学部
- 人間形成教育センター



公立鳥取環境大学
Tottori University of Environmental Studies

江崎 信芳

ESAKI, Nobuyoshi



学長

nobesaki@kankyo-u.ac.jp

Profile

研究者略歴

1973 (昭和48) 年 3月	京都大学農学部農芸化学科卒業
1975 (昭和50) 年 3月	京都大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了
1979 (昭和54) 年 3月	京都大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士課程修了
1979 (昭和54) 年 12月	京都大学化学研究所助手
1983 (昭和58) 年 7月	米国Massachusetts Institute of Technology客員研究員 (文部省在外研究員) (~ 1984年12月)
1989 (平成 元) 年 3月	京都大学化学研究所助教授
1996 (平成 8) 年 4月	京都大学化学研究所教授
2005 (平成17) 年 4月	京都大学化学研究所所長 (~ 2008年3月)
2008 (平成20) 年 10月	京都大学理事・副学長 (~ 2014年9月)
2014 (平成26) 年 9月	京都大学名誉教授
2015 (平成27) 年 3月	放送大学京都学習センター所長, 特任教授 (~ 2018年3月)
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学理事長兼学長

Research

取得学位	農学博士 (京都大学)
専門分野	酵素科学、応用微生物学
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 補酵素含有酵素の触媒機構 類似元素識別の酵素触媒機構 必須微量元素セレンの取込機構
受賞歴	1989 (平成 元) 年 4月 日本農芸化学奨励賞 2009 (平成21) 年 4月 Humboldt Research Award受賞 2013 (平成25) 年 4月 日本微量元素学会功績賞受賞
所属学会	日本化学会, 日本微量元素学会, バイオインダストリー協会, 日本農芸化学会, 日本生化学会

Data

研究等活動

【著書】

- ・[Chapter 18 Proteomic Insights of Psychrophiles], Psychrophiles: From Bioersivity to Biotechnology, 2nd Edition, 2017年, Springer Verlag (共著)
- ・[Chapter 10 Mechanism, structure, and biological role of selenocysteine lyase], Selenium Its Molecular Biology and Role in Human Health, Second Edition, 2016年, Springer Verlag (共著)
- ・[生化学基礎の基礎] 2002年, 化学同人 (共編)

【論文】

- ・[Global identification of genes affecting iron-sulfur cluster biogenesis and iron homeostasis] (共著), 2014年, J. Bacteriol., 196, pp1238-1249
- ・[Occurrence of a bacterial membrane microdomain at the cell division site enriched in phospholipids with polyunsaturated hydrocarbon chains] (共著), 2012年, J. Biol. Chem. 287, pp24113-24121
- ・[Substrate specificity of fluoroacetate dehalogenase: An insight from crystallographic analysis, fluorescence spectroscopy, and theoretical computations] (共著), 2012年, Chemistry - A European Journal 18, pp8392-840
- ・[Identification of novel mammalian phospholipids containing threonine, aspartate, and glutamate as the base moiety] (共著), 2011年 J. Chromatogr. B: Analyt. Technol. Biomed. Life Sci. 879, pp3296-3302
- ・[Favourable effects of eicosapentaenoic acid on the late step of the cell division in a piezophilic bacterium, Shewanella violacea DSS12 at high-hydrostatic pressures] (共著), 2011年, Environ. Microbiol. 13, pp2293-2298
- ・[Escherichia coli dihydropyrimidine dehydrogenase is a novel NAD-dependent heterotetramer essential for the production of 5,6-dihydrouracil] (共著), 2011年, J. Bacteriol. 193, pp989-993
- ・[Reaction mechanism and molecular basis for selenium/sulfur discrimination of selenocysteine lyase] (共著), 2010年, J. Biol. Chem. 285, pp12133-12139
- ・[2-Haloacrylate hydratase, a new class of flavoenzyme that catalyzes the addition of water to the substrate for dehalogenation] (共著). 2010年, Appl. Environ. Microbiol. 76, pp6032-6037

社会貢献活動

- ・IUPAC Subcommittee on Biotechnology委員 (2003 ~ 2011年)
- ・Extremophile誌編集委員 (2003 ~ 2013年)
- ・The Chemical Record誌編集委員 (2009 ~ 2013年)
- ・文部科学省科学技術学術審議会研究環境基盤部会専門委員 (2009 ~ 2014年)
- ・公益財団法人長瀬科学技術振興財団理事 (2009 ~ 2017年), 同評議員 (2017年~)
- ・公益財団法人野田産業科学研究所評議員 (2010年~)
- ・公益財団法人加藤記念バイオサイエンス研究振興財団評議員 (2010年~)

今井 正和

IMAI, Masakazu



副学長（教育、研究、情報、企画・評価担当）
人間形成教育センター長・教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

■主な担当科目 データベース

研究者略歴

1982 (昭和57) 年 3月	大阪大学基礎工学部制御工学科卒業
1984 (昭和59) 年 3月	大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了
1987 (昭和62) 年 3月	大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程修了
1987 (昭和62) 年 4月	大阪大学助手基礎工学部
1991 (平成 3) 年 7月	大阪大学講師基礎工学部
1993 (平成 5) 年 4月	奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授
1997 (平成 9) 年 9月	米国The University of Michigan客員助教授(～1998年7月)
2001 (平成13) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科教授
2003 (平成15) 年10月	放送大学客員教授(～2005年3月)
2005 (平成17) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科教授
2014 (平成26) 年 4月	鳥取環境大学人間形成教育センター センター長、副学長補佐(教育・学生生活・就職担当)
2014 (平成26) 年 6月	鳥取環境大学情報メディアセンター 副センター長
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター センター長、副学長補佐(教育担当、学生生活・就職担当、情報担当、企画・評価担当)、情報メディアセンター 副センター長、経営学部経営学科教授、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学副学長(教育担当、学生生活・就職担当、情報担当、企画・評価担当)、人間形成教育センター センター長、経営学部経営学科教授、大学院環境経営研究科経営学専攻教授
2017 (平成29) 年 4月	公立鳥取環境大学副学長(教育、研究、情報、企画・評価担当)、人間形成教育センター センター長、経営学部経営学科教授、大学院環境経営研究科経営学専攻教授

Research

■取得学位 工学博士(大阪大学)

■専門分野 インターネット応用、環境計測、デジタルアーカイブ

■現在の研究テーマ
・ネットワークを使用した密な気象データの収集
・ネットワークを用いた場の共有
・情報の蓄積と活用

■受賞歴
1996 (平成 8) 年3月 電子情報通信学会第7回データ工学ワークショップ(DEWS'96)最優秀論文賞
2004 (平成16) 年9月 電子情報通信学会情報システムソサエティ活動功労賞
2007 (平成19) 年1月 JGN2利用促進賞(地域貢献優秀賞)
(JBプロジェクト、地域間相互接続実験プロジェクトⅡ)
2008 (平成20) 年1月 JGN2アワード地域貢献・人材育成賞
(JBプロジェクト、地域間相互接続実験プロジェクトⅡ)
2015 (平成27) 年6月 中国情報通信懇談会 地域情報化貢献賞

■所属学会 IEEE、電子情報通信学会、情報処理学会、人工知能学会、システム制御情報学会、日本情報考古学会

Data

研究等活動

【著書】

- ・「第15話 ロボコップの作り方ー脳とコンピュータの違い」、地球環境時代のIT読本、2002年、丸善(共著)
- ・「第4章 電子図書館と分散大規模ネットワーク」、電子図書館とマルチメディア・ネットワーク、1996年12月、日本図書館協会(共著)

【論文】

- ・「Implementation of high-definition lecture recording system for daily use」(共著)、2013年、Proc. of EDUCON2013, pp. 510-525
- ・「Live E!を活用した小学生の理科学習を支援するシステム」(共著)、2012年、インターネットコンファレンス2012論文集, pp.115-116
- ・「クラウド時代のデータ保存」(単著)、2012年、印刷雑誌, Vol. 95, No. 3, pp.7-12
- ・「クラウド時代にどのようにデータを保存し、残していくか」、2011年、画像4学会合同研究会「画像資産の復元と伝承」
- ・「講義ビデオの活用に向けた講義音声の発話特徴分析」(共著)、2011年、情報処理学会教育学習支援情報システム研究会
- ・「鳥取-熊本間での講義ビデオ遠隔自動収録の試みについて」(共著)、2010年、情報処理学会教育学習支援情報システム研究会
- ・「Live E!データ可視化アプリケーションの開発」(共著)、2009年、電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会
- ・「Live E!センサの日南町への展開」(共著)、2009年、電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会
- ・「空間的に密な温度変化を計測するシステムの構築」(共著)、2009年、電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会
- ・「センサ設置場所が計測結果に与える影響」(共著)、2008年、電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会
- ・「考古学写真のメタデータとそのデータベース構築への応用」(単著)、2008年、情報処理学会デジタルドキュメント研究会
- ・「鳥取環境大学のセンサ設置についてー一日向のセンサ日陰のセンサー」(共著)、2007年、Live E! シンポジウム2007
- ・「メタデータを用いた考古学遺跡写真ライブラリの構築」(共著)、2007年、日本情報考古学会誌「情報考古学」、Vol. 13, No. 1
- ・「地域ネットワークを利用した高校への遠隔授業」(単著)、2007年、第8回 インターネットテクノロジーワークショップ
- ・「考古学写真デジタルライブラリ」(共著)、2007年、第8回 インターネットテクノロジーワークショップ
- ・「An Experiment Using JGN v6 at Tottori University of Environmental Studies」(共著)、2004年、Proc. of SAINT 2004 Workshops
- ・「Hand Pose Estimation for Vision-based Human Interfaces」(共著)、2003年、IEEE Transactions on Industrial Electronics, Vol. 50, No. 4
- ・「考古学遺跡写真ライブラリの構築」(共著)、2002年、日本情報考古学会誌「情報考古学」、Vol. 7, No. 2

社会貢献活動

- ・鳥取県ICT活用教育推進協議会座長(2014年)
- ・鳥取市公文書管理のあり方等研究会委員長(2015年)
- ・鳥取県私立学校審議会会長(2016年～)
- ・鳥取市公文書管理検討委員会委員長(2016年～)
- ・鳥取市特定個人情報保護評価審査会(2017年～)

遠藤由美子

ENDO, Yumiko



副学長 (学生生活・就職、広報、地域連携・国際交流担当)、
学生支援センター長
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail y-endo@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 人間環境実習・演習A・B、福祉住環境計画、エコハウス計画

研究者略歴

1977 (昭和52) 年 3月	武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業
1977 (昭和52) 年 4月	エンドウプランニング (インテリア・家具デザイン)
1989 (平成 1) 年 4月	遠藤建築スタジオ 共同主宰 (建築設計・監理)
1993 (平成 5) 年 4月	近畿大学工学部建築学科非常勤講師
2002 (平成14) 年 4月	広島国際大学 工学部 建築学科、住環境学科非常勤講師
2009 (平成21) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部建築・環境デザイン学科准教授
2010 (平成22) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授 (兼任) 公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授 (兼任)
2016 (平成28) 年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2017 (平成29) 年 2月	公立鳥取環境大学 副学長

Research

■専門分野 建築・インテリア設計、エコハウス

■現在の研究テーマ
・住空間と家具のデザイン
・もので育てる (遊具、手づくり教材)
・エコハウス/環境共生住宅
・空き家の調査・活用

■受賞歴
1997 (平成 9)年 呉市「美しい街づくり賞」(共同/泉が丘の家)
2001 (平成13)年 ひろしま街づくりデザイン賞 (共同/キューブハウス)
2001 (平成13)年 ひろしま建築文化賞 入選 (共同/板橋さざなみ幼稚園ANNEX)
2008 (平成20)年 ひろしま街づくりデザイン賞 (共同/聖モニカ幼稚園多目的ホール)

■所属学会 建築学会, こども環境学会

■資格 一級建築士, インテリアプランナー, 福祉住環境コーディネーター二級, 高校教員資格 (インテリア)

Data

研究等活動

【設計活動】
・久保川邸 (広島市西区)
・グループホーム「もやい志和」(東広島市)
・若桜町の農家断熱改修 (若桜町)
・呉南特別支援学校 特別支援学校教室・講堂新築工事 基本設計

社会貢献活動

(委員)
・関西広域連合協議会委員
・「因州和紙あかり展」(あおや和紙工房) 選考審査員
・若桜町情報公開・個人情報保護審議会 委員
・鳥取県教育委員会公募型プロポーザル方式受注者選定審査会委員
(活動)
・鳥取市ものづくりアドバイザーとして児童と保護者対象「段ボール手織り機でつくるコースター」講座
・「木育キャラバン トークセッション」鳥取県林水産部森林・林業振興局
・「住宅の健康に対する影響について」国交省/スマートウェルネス住宅等推進事業:暮らしから始める健康講座講演
・やすみニSL博物館夏休みイベント、「段ボールで作るミニSL」講座指導

小林 朋道

KOBAYASHI, Tomomichi



環境学部長、
環境経営研究科環境学専攻長、
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

[✉ t-kobaya@kankyo-u.ac.jp](mailto:t-kobaya@kankyo-u.ac.jp)

Profile

主な担当科目	生物学概論, 自然環境保全概論, 動物行動学, 保全生態学
研究者略歴	<ul style="list-style-type: none"> 1981 (昭和56) 年 3月 岡山大学理学部生物学科卒業 2004 (平成16) 年 1月 鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科助教授 2006 (平成18) 年 4月 鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科・大学院環境情報学研究所教授 2012 (平成24) 年 4月 鳥取環境大学環境学部環境学科教授 2014 (平成26) 年 4月 鳥取環境大学副学長補佐(研究・社会貢献・国際交流担当) 2015 (平成27) 年 4月 公立鳥取環境大学副学長補佐(研究担当、地域貢献・国際交流担当)、環境学部環境学科教授、大学院環境情報学研究所教授 2016 (平成28) 年 4月 公立鳥取環境大学環境学部長、大学院環境経営研究科副研究科長、環境学専攻長 2018 (平成30) 年 4月 公立鳥取環境大学環境学部長、大学院環境経営研究科研究科長、環境情報学部研究科長
取得学位	理学博士 (京都大学)
専門分野	動物行動学, 進化心理学
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 脊椎動物の行動や生態に関する研究とそれに基づいた生息地保全活動 人と自然の精神的関わりに関する動物行動学的解析
受賞歴	1993 (平成5) 年4月 岡山県野崎教育賞
所属学会	日本動物行動学会, 日本生態学会, 日本環境教育学会

Research

研究等活動	<p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「先生、アオダイショウがモモンガ家族に迫っています」鳥取環境大学の森の人間動物行動学 (単著) 2019年6月、築地書館 「フィールドワークという魔力」中央公論 Digital Digest (共著) 2019年9月 中央公論社 「先生、脳の中で自然が叫んでいます！」鳥取環境大学の森の人間動物行動学 (単著) 2018年8月、築地書館 「先生、オサムシが研究室を掃除しています！」鳥取環境大学の森の人間動物行動学 (単著) 2018年5月、築地書館 「進化教育学入門-動物行動学から見た学習」(単著) 2017年1月、春秋社 「ホモ・コントリビューエンス」(分担著) 2017年11月、未來社 「先生、犬の搜索をサンショウウオにさせるのですか！」鳥取環境大学の森の人間動物行動学 (単著) 2017年5月、築地書館 「先生、イソギンチャクが腹痛を起こしています！鳥取環境大学の森の人間動物行動学」(単著) 2016年6月、築地書館 「先生、洞窟でコウモリがアナグマと同居しています！鳥取環境大学の森の人間動物行動学」(単著) 2015年6月、築地書館 「ヒトの脳にはクセがある 動物行動学的人間論」(単著) 2015年1月、新潮社 「ヒト、動物に会う コバヤシ教授の動物行動学」(単著) 2014年3月、新潮社 「絵でわかる動物の行動と心理」(単著) 2013年4月、講談社 「なぜヤギは車好きなのか？鳥取環境大学のヤギの動物行動学」(単著) 2012年5月、朝日新聞出版 「利己的遺伝子から見た人間」(単著) 2012年3月、PHP研究所 「先生、キジがヤギに縄張り宣言をしています！鳥取環境大学の森の人間動物行動学」(単著) 2011年3月、築地書館 「ヒトはなぜ拍手をするのか-動物行動学から見た人間」(単著) 2010年12月、新潮社 「動態研究の方法」(分担著)、2010年8月、人類動態学会 「タコガエル鳴く森へ出かけよう！」(単著) 2009年6月、技術評論社 <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ニホンモモンガに外部寄生するノミ <i>Monopsyllus argus</i> は自然宿主と非自然宿主の体毛を識別するか (単著) 山陰自然史研究26巻 2020年 トガリネズミ <i>Chimarrogale platycephalus</i> は水中で“スクーバタンク”を利用している可能性がある (共著) 山陰自然史研究26巻 2020年3月 鳥取県内における洞窟性コウモリの生息状況 鳥取県立博物館研究報告 (単著) 55巻2018年3月 ニホンモモンガ <i>Pteromys momonga</i> によるフクロウの鳴き声に対する反応 山陰自然史研究24巻 2017年3月 ユビナガコウモリに外部寄生するケブカクモバエの宿主識別行動 (単著)、2015年12月、自然環境科学研究 第28巻 Why do small Japanese flying squirrels <i>Pteromys momonga</i> prefer to use bark of Japanese cedar as a nest material? II. Study of heart-trapping capacity. (単著) 2014年8月 Natutal Environmental Science Reserch 27巻 巣箱利用から見た鳥取県芦津溪谷におけるニホンモモンガ、ヤマネ、ヒメネズミの生息場所選択性 (単著)、鳥取県立博物館研究報告、第50巻 ニホンモモンガ <i>Pteromys momonga</i> 成獣による巣内同居の誘発要因の分析 (単著)、2013年1月 鳥取県立博物館研究報告、第49巻 鳥取県芦津溪谷のニホンモモンガ <i>Pteromys momonga</i> の生態的諸知見 (単著)、2012年12月 自然環境科学研究 第25巻 Why do small Japanese flying squirrels <i>Pteromys momonga</i> prefer to use bark of Japanese cedar as a nest material? (単著)、2012年12月 Natural Environmental Science Research 第25巻 動物行動学から見たヒトの脳のクセ (単著)、2012年8月 学士院会報 第895巻 鳥取県智頭町芦津森林で見られた樹上性齧歯類や潮流の巣箱の使い分け (単著)、2011年3月 鳥取県立博物館研究報告 A preliminary study of aggressive behavior in Siberian chipmunk <i>Eutamias sibiricus</i> pups: the behavioral pattern and its possible antipredator function (単著)、2010年6月 鳥取環境大学紀要 ヒメネズミ <i>Apodemus argenteus</i> の幼獣で発見された捕食者の臭いに対する新しいタイプの行動 (単著)、2010年3月 山陰自然史研究 植門近くの河川敷に創出した水場へのスナヤツメとアカハライモリの定着・繁殖 (単著)、2010年3月 鳥取県立博物館研究報告 アカハライモリの幼体および成体の陸上での分布状況 (単著)、2009年4月 自然環境科
社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> 「動物行動学から見た動物やヒト」, 「野生動物の保全活動」についての講演 野生生物の生息地の保全と結びつけた地域の活性化活動

Data

根本 昌彦

NEMOTO, Akihiko



副学部長
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

nemoto@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** 森林科学概論、森林資源管理論、森林政策論

■ **研究者略歴**

1986 (昭和61) 年 3月	北海道大学農学部林学科卒業
1988 (昭和63) 年 3月	北海道大学大学院農学研究科修士課程修了
1998 (平成10) 年 5月	カナダブリティッシュ・コロンビア大学学術博士 (Ph.D.)
1998 (平成10) 年 8月	(財) 林業経済研究所 研究員
1999 (平成11) 年 4月	(財) 木材総合情報センター 専門調査員
2003 (平成15) 年 4月	全国森林組合連合会
2005 (平成17) 年 4月	同連合会組織部組織グループ長
2006 (平成18) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科教授
2006 (平成18) 年10月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2009 (平成21) 年 4月	鳥取環境大学環境マネジメント学科教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻教授

Research

■ **取得学位** Ph.D. (ブリティッシュ・コロンビア大学)

■ **専門分野** 森林資源管理学

■ **現在の研究テーマ** ・「持続可能な森林管理」の達成に向けた政策など

■ **受賞歴** 2003 (平成15) 年林業経済学会奨励賞

■ **所属学会** 林業経済学会, 環境社会学会ほか

Data

■ **研究等活動**

【著書】

- ・「カナダーなかなか進まない先住民による森林管理」、「森林環境2006」、2006年、朝日新聞社
- ・「森林認証制度の国際動向」、「森林認証と林業・木材産業」、2004年、林業改良普及協会
- ・「森林認証制度の可能性—国際的森林認証の動向とインドネシア・マレーシアの試み」、「アジアにおける森林の消失と保全」、2003年、中央法規出版会

【論文】

- ・カナダ、トルドー政権下の環境および森林・木材政策 - 「森林バイオエコノミー」の動向に注目して - 、2018年、森林技術 No.912、日本森林技術協会
- ・オーストラリアの違法伐採対策の展開と日本への教訓、2018年、木材情報 No.321、日本木材総合情報センター
- ・世界の植林地造成の現状と将来展望-文献調査による論点の整理-、2017年、公立鳥取環境大学紀要vol.15
- ・熱帯林破壊を先導するアブラヤシ農園の拡大 - マレーシア、サバ州における土地利用の展開を事例として - 、2015年、鳥取環境大学紀要 vol.14
- ・世界の違法伐採問題の現局面、2013年、木材情報 No.263、日本木材総合情報センター
- ・環境・先住民と森林管理問題、2012年、山林 No.1542、大日本山林会
- ・人工林の世界的拡大と森林管理問題、2012年、木材情報 No.251、日本木材総合情報センター
- ・森林組合運動と森林認証制度の導入、2007年、にじ No.617、協同組合経営研究所
- ・カナダにおける「持続可能な森林経営」の現状と課題、2003年、林業経済 Vol.56,5
- ・Dynamics of Aboriginal Land Use Institutions : The Rise and Fall of Community Control Over Reserve Systems in the Lii'wat Nation, Canadian Journal for Native Studies, Vol.22.2, 2002年
- ・カナダ先住民と土地財産権・リルワットネーション居留地におけるコモンズの形成と衰退、1999年、環境社会学研究vol.5.

【報告書】

- ・オーストラリアの違法木材対策、2018年、日本木質バイオマスエネルギー協会
- ・県産材認証制度の実態と問題点に関する調査報告書 2014年、日本木材総合情報センター
- ・合法木材供給システムモニタリング報告書、2010年、全国木材組合連合会

足利 裕人

ASHIKAGA, Hiroto



特任教授

所属…環境学部 環境学科

URL <http://space.geocities.jp/ashix58/>

E-mail ashikaga@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目

物理学概論1, 2, 理科指導法1, 2, 3, 物理学実験

■研究者略歴

1973 (昭和48) 年 3月	広島大学理学部物性学科卒業
1975 (昭和50) 年 3月	広島大学理学部研究科物性学専攻博士前期課程修了、修士 (理学)
1975 (昭和50) 年 4月	兵庫県立白霧工業高等学校教諭
1978 (昭和53) 年 4月	兵庫県立明石西高等学校教諭
1981 (昭和56) 年 4月	兵庫県立高砂南高等学校教諭
1993 (平成 5) 年 4月	兵庫県立神戸高等学校教諭
1995 (平成 7) 年 4月	兵庫県立温泉高等学校教諭
1996 (平成 8) 年 4月	鳥取県立八頭高等学校教諭
1998 (平成10) 年 4月	鳥取県立青谷高等学校教諭
2003 (平成15) 年 4月	鳥取県教育センター情報教育課課長
2004 (平成16) 年 4月	鳥取県立青谷高等学校教諭
2006 (平成18) 年 4月	鳥取県立鳥取工業高等学校教諭
2011 (平成23) 年 4月	鳥取環境大学人間形成教育センター教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2019 (平成31) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科特任教授

Research

■取得学位

修士 (理学) (広島大学)

■専門分野

理科教育, 情報教育, 物理学

■現在の研究テーマ

- ・ 中等教育における放射線計測の実験の定量化(H27 ~ 29年度科学研究費助成金)
- ・ 作って・測って・判断できる放射線計測システムの構築(H24 ~ 26年度科学研究費助成金)
- ・ 小中学校における自然体験とIT学習を組み合わせた環境学習の効果についての研究 (H24 ~ 25年度鳥取県環境学術研究等補助金)
- ・ 間違った科学概念及び疑似科学の研究

■受賞歴

- 2001 (平成13) 年3月 第5回サイエンス展示・実験ショーアイデアコンテスト 日本科学未来館館長賞「ブロッケン・スクリーン」
- 2005 (平成17) 年3月 第53回日本教職員発明展 弁理士会会長賞「モアレ距離計」
- 2009 (平成21) 年3月 日本化学会 化学教育有功賞「体験型教材の開発と、地域における化学教育への貢献」

■所属学会

日本物理教育学会

■資格

高校普通免許 1級理科, 高等学校教諭一種情報

Data

■研究等活動

【著書】

- ・ 「文部科学省放射線副読本を活用した授業のための実験教材およびテキスト」 (共著) .2018年, 総合印刷出版
- ・ 「歴史で学ぶ物理学入門 改訂版」 (単著) .2015年, ふくろう出版
- ・ 「しっかり学べる基礎物理学」 (共著) .2014年, 電気書院
- ・ 「新編センサー 物理基礎 改訂版」 (共著) .2013年, 啓林館
- ・ 「高等学校物理基礎、物理、同指導書」 (共著) .2016年・2017年, 啓林館
- ・ 「高等学校情報A、B、C」 (共著) .2004年, 啓林館
- ・ 「ドリルと演習シリーズ「基礎物理学」」 (共著) .2011年, 電気書院
- ・ 「実験で実践する 魅力ある理科教育—高校編—」 (共著) .2011年, オーム社
- ・ 「すぐ使える型紙つき つくる科学の本2」 (編著) .2004年, C-task
- ・ 「高等学校情報サポノートシリーズ 全9巻」 (監修) .2002年, 大日本図書・ADWIN
- ・ 「すぐ使える型紙つき つくる科学の本」 (編著) .2001年, C-task
- ・ 「シミュレーションで学ぶ万有引力と運動の3法則「ニュートンユニバース」」 (共著) .2000年, 文部省委託研究, 大日本図書
- ・ 「仮説実証物理「ガリレオタウン」」 (共著) .文部省委託研究, 大日本図書
- ・ 「グラフ電卓で楽しむプログラミングワールド」 (単著) .1997年, 大河出版
- ・ 「カ学シミュレーション入門」 (単著) .1993年, 現代数学社

【研究論文】

- ・ 「磁場による偏向を用いたβ線のエネルギー分布の測定」 (単著, 日本物理教育学会第35回年会発表予稿集, 2018, pp.110-pp.111)
- ・ 「温泉水中の²¹⁴Pbを用いた²¹²Pbの半減期の測定」 (単著, 応用物理学会春季学術講演会予稿集.) 2018, 65 t h.18a-P1-46
- ・ 「トロン温泉の教材化」 (単著, 応用物理学会春季学術講演会予稿集.) 2017, 64 t h.16a-p1-40
- ・ 「温泉水を用いた²¹⁴Pbの半減期の教材化」 (単著, 応用物理学会春季学術講演会ガイドブック.) 2016, 63 r d, pp.41
- ・ 「霧箱中の飛跡で求めるβ線のエネルギー分布」 (単著, 応用物理学会春季学術講演会ガイドブック.) 2015, 62nd, pp.58
- ・ 「作って・測って・判断できる放射線教育システムの構築」 (共著) . 大学の物理教育/日本物理学会, 2012, vol.18, No.3, pp.118-pp.121
- ・ 「安価な放射線検出器の概要」 (共著) .2012年, 日本物理学会第67回年次大会予稿集, p.26
- ・ 「単極モーターに働く電磁力の考察」 (単著) .2011年, 第28回物理教育研究大会講演予稿集, pp.62-pp.63
- ・ 「真空鈴の指導の適正化」 (単著) .2011年, 日本理科教育学会全国大会発表論文集第9号, p.160
- ・ 「三朝温泉での放射線計測フィールドワーク」 (単著) .2010年, 放射線と産業, Radiation & Industries, 126, pp.20-pp.24

【報告書等】

- ・ 「飛ぶ蝶のしおり」, 理科の探検, 33号, p66-69, 2018
- ・ 「身近なもので炎色反応」, 理科の探検, 29号, p28-29, 2017
- ・ 「授業で使えるニセ科学商品」, 理科の探検, 24号, p100-101, 2017
- ・ 「地球モデルを見直そう」, 理科の探検, 23号, pp28-29, 2016
- ・ 「これって燃料電池」 (単著) . 理科の探検, 秋号, pp.87-89, 2015
- ・ 「作って・測って・判断できる放射線教育システムの構築」 (共著) . 科研費報告書, Mar. 2015
- ・ 「熱電流実験器の復元とその教材化」 (単著) .2009年, 科学実験教材教育研究年報創刊号, pp.2-pp.7
- ・ 「ホイートストンのカレイドフォンの復元とその教材化」 (単著) .2009年, 科学実験教材教育研究年報創刊号, pp.8-pp.13

■社会貢献活動

- ・ 「科学の甲子園」鳥取県大会審査委員長
- ・ 「科学の甲子園Jr」鳥取県大会審査委員長
- ・ 子ども達の科学教室「科学遊び広場」代表
- ・ サイエンスカフェ鳥取代表
- ・ わかとり科学技術育成会副会長
- ・ 鳥取県ICTコンソーシアム幹事

中橋 文夫
NAKASHI, Fumio



教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

nak-fumi@kankyo-u.ac.jp

Profile

主な担当科目 都市の自然環境形成、景観計画と保全管理、グリーンビルディング

研究者略歴

Table with 4 columns: Year, Month, and Position/Institution. Lists career milestones from 1973 to 2016.

取得学位

博士(総合政策)(関西学院大学)

専門分野

造園学、ランドスケープデザイン・公園経営論、リスクマネジメント

現在の研究テーマ

- 緑の強靱化、リスクランドスケープに関する研究
緑の柔構造都市に関する研究
グリーンインフラストラクチャー

受賞歴

一般財団法人 日本造園修景協会阪奈と支部 田中賞受賞 平成26年6月
公益信託エスベック地球環境研究・技術基金エスベック環境研究奨励賞 令和元年7月22日

所属学会

日本造園学会、社叢学会、国土研究会、日本造園修景協会、空手道研究会

資格

技術士(都市及び地方計画)、1級建築士、1級造園施工管理技士、博士(総合政策)

Research

研究等活動

- 著書: 緑のプレゼンテクニック(共著)2015年学芸出版社
公園緑地のマネジメント(単著)2006年学芸出版社
技術士受験テクニックII 建設部門傾向と対策(共著)1995年吉井書店
まちづくりと文化(共著)1991年都市文化社
研究論文: 災害現場から導く緑の柔構造都市計画技術の提言2019~2020年
鳥取市有隣荘庭園における文化財調査と保全活用計画 2018年
本市の空手道発祥地川西が五輪採択を機会に発信する空手道振興のエリアマネジメント

Data

社会貢献活動

- 湯梨浜町景観形成条例等検討委員会委員 2020年2月4日から景観形成条例等が策定されるまで
鳥取県緑の伝道師 2019年10月~
鳥取県景観審議会会長 2015年4月1日~2019年3月31日
鳥取グリーンサロン山水会(鳥取大学、鳥取県との有志による研究会)世話役 2015年~

石井 克典

ISHII, Katsunori



教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■主な担当科目 地球観測学, 環境データベース論, 環境情報学概論

■研究者略歴

1977 (昭和52) 年 3月	大阪府立大学工学部電気工学科卒業
1979 (昭和54) 年 3月	大阪府立大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻修了
1979 (昭和54) 年 4月	日本電信電話公社 武蔵野電気通信研究所
1987 (昭和62) 年 2月	日本電信電話株式会社 電子機構技術研究所 主任研究員
1995 (平成 7) 年11月	日本電信電話株式会社 境界領域研究所 主幹研究員
1996 (平成 8) 年11月	日本電信電話株式会社 法人営業本部 都市開発営業部 部長
1999 (平成11) 年 7月	NTTコミュニケーションズ(株)ソリューション事業部 部長
1999 (平成11) 年10月	東京工業大学大学院理工学研究科 (工系) 客員助教授 (常勤)
2001 (平成13) 年 3月	東京工業大学 博士 (工学)
2003 (平成15) 年 4月	日本電信電話株式会社 情報流通基盤総合研究所主幹研究員
2004 (平成16) 年10月	鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科教授
2009 (平成21) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻教授

Research

■取得学位 博士 (工学) (東京工業大学)

■専門分野 環境システム学, 感情工医学, 信号処理

■現在の研究テーマ

- ・人間中心環境システムに関する研究
- ・マルチモーダル型メンタルヘルス・トラッキングシステムの研究
- ・こころの健康増進を可能とする対話システムの研究
- ・国立病院機構鳥取医療センター「ロボット棟棟プロジェクト共同事業に関する研究開発」

■受賞歴

- | | |
|------------------|--------------------------------------|
| 1989 (平成元) 年12月 | 日本電信電話株式会社 社長表彰 |
| 1990 (平成2) 年10月 | 日本電信電話記念日支店長表彰 |
| 2009 (平成21) 年 3月 | 全国大会優秀賞 (情報処理学会)「コピキタスな廃食油回収システムの提案」 |
| 2014 (平成26) 年 6月 | 総務省「中国地域の情報化および情報通信の普及促進に関する功績」 |

■所属学会 人間情報学会

Data

■研究等活動

- 【著書】
- ・「IoHを指向する感情・思考センシング技術」編著 (監修) 2019年8月、シーエムシー出版
 - ・「こちら公立鳥取環境大学 環境学部です！」(共著)「環境がこころを作り、こころが環境を作る」(単著) 2019年3月、今井出版
- 【論文】
- ・「マルチモーダル感情分析システムとその応用」, 2019年8月, 「IoHを指向する感情・思考センシング技術」第16章 (共著)
 - ・「感情工医学をベースにした鳥取での社会学連携」, 2016年9月, 「ネイチャーインタフェイス」誌, 第67号 (単著)
 - ・「感情工医学をベースにした鳥取での社会学連携」, 2016年4月, WIN定例講演会・人間情報学会 (単著)
 - ・「感情分析を適用した機械対話による気分改善の効用実験」, 2016年4月, 人間情報学会 (共著)
 - ・「インテルRealSense™を活用したマルチモーダル感情分析システムの開発とその評価」, 2016年3月, 情報処理学会 (共著)
 - ・「インテルRealSense™を応用したマルチモーダル感情分析システムの開発」, 2015年12月, 人間情報学会 (共著)
 - ・「機械対話に基づく感情遷移推定と症状処方への応用」, 2014年3月, 電子情報通信学会総合大会 (共著)
 - ・「時間領域有限差分法を用いた高効率人体通信データ伝送の解析」, 2012年3月, 電子情報通信学会総合大会 (共著)
 - ・「ホスピタリティ・マネジメントと匂い〜嗅覚研究のひとつのアプローチとして〜」, 2009年5月, AROMA RESEARCH Current Topics, No. 38 (Vol. 10/ No.2 2009)
 - ・「コピキタスな廃食油回収システムの提案」, 2009年3月10日～12日, 情報処理学会2009年全国大会 (共著)
 - ・「廃食油回収コミュニティ形成のための情報管理方式」, 2009年3月10日～12日, 情報処理学会2009年全国大会 (共著)
 - ・「体内通信を利用したe-健康コンサルティング・サービス」, 2008年1月, 情報処理学会研究報告, Vol.2008, No.10, 2008-DD-64(1) / 2008-EIP-39(1) (共著)
- 【報告書】
- ・「平時/災害時における住民への最適な情報配信システムに関する調査事業」, 総務省平成25年度ICT街づくり推進事業成果報告書, 2014年3月 (共著)
 - ・「鳥取県情報システム全体最適化検討委員会報告書」, 2010年3月 (共著)
- 【特許】
- ・「機械対話による感情推定システム及びそのプログラム」, 2013年7月 (共同出願) 特許第6343823号
 - ・「マルチモーダル型トラッキングシステム及びそのプログラム」, 2012年3月 (共同出願) 特許第5987238号

■社会貢献活動

- ・中小企業庁: 対話ロボット, IoT機器を用いた患者状態把握による「認知症診断支援サービス」の事業化
- ・株式会社LASSIC受託研究: 機械対話に基づく感情遷移推定と生活支援サービスへの効用実証 (継続), 2017～2019年
- ・データ活用人材育成eラーニング (鳥取県戦略産業雇用創造プロジェクト CMX II, 2016～2018年度)
- ・防災ランドスケープによる鳥取県土緑の強靱化計画実施方法の研究 (鳥取県環境学術研究等振興事業, 2015～2017年度)
- ・Health 2.0 Asia出展 (感情工医学研究所の成果) 2015年
- ・APEC Challenge 2015出展 (感情工医学研究所の成果) 2015年
- ・株式会社LASSIC受託研究: 機械対話に基づく感情遷移推定と生活支援サービスへの効用実証, 2014～2016年
- ・母子父子寡婦福祉資金貸付償還システム構築委員会委員長 (2015年)
- ・鳥取県庁給与・勤怠管理システム構築委員会委員長 (2014～2015年)
- ・鳥取県庁財務関係システム構築委員会委員長 (2014～2015年)
- ・鳥取県庁共通基盤システム構築委員会委員長 (2014～2015年)
- ・鳥取県庁新基幹業務システム構築委員会委員長 (2014～2015年)
- ・鳥取県基幹システム再構築委員会委員長 (2014～2015年)
- ・鳥取県土砂災害情報システム開発委員会委員長 (2014年)
- ・鳥取市住民情報システム開発委員会委員長 (2014年)
- ・鳥取県災害情報システム構築委員会委員長 (2013年)
- ・鳥取県立厚生病院総合医療情報システム更新委員会委員 (2013年)

前田 哲雄

MAETA, Tetsuo



教授

所属…環境学部 環境学科

Profile

■ **主な担当科目** 教職論、道徳教育指導論、特別活動の理論と方法、教職実践演習

■ **研究者略歴**

1979 (昭和54) 年 3月	鳥取大学教育学部小学校教員養成課程卒業
1980 (昭和55) 年 4月	鹿野町立勝谷小学校教諭
1986 (昭和61) 年 4月	青谷町立中郷小学校教諭
1995 (平成 7) 年 4月	青谷町立青谷小学校教諭
2001 (平成13) 年 4月	鳥取市立鹿野小学校教頭
2006 (平成18) 年 4月	鳥取市立青谷小学校教頭
2008 (平成20) 年 4月	鳥取市立大正小学校校長
2011 (平成23) 年 4月	鳥取市立浜村小学校校長
2014 (平成26) 年 4月	鳥取市立青谷中学校校長
2017 (平成29) 年 4月	鳥取市教育センター主任教育相談員
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授

Research

■ **取得学位** 教育学士 (鳥取大学)

■ **専門分野** 道徳教育 学校経営

■ **現在の研究テーマ** ・人物の生き方に学ぶ道徳教育
・自主的、自治的な活動を生かした学校経営

■ **所属学会** 日本道徳教育学会、日本特別活動学会、日本生活科・総合的学習教育学会

■ **資格** 小学校普通免許1級 中学校普通免許2級数学

Data

■ **研究等活動**

- 【著書】
 - ・「道徳教育を学ぶための重要項目100」(共著)、2016年、教育出版社
- 【論文】
 - ・「人物の生き方に学ぶ道徳教育」、2015年、日本道徳教育学会『道徳と教育』(第333号)
 - ・「生きるモデルに学ぶ道徳の時間」、2009年、『鳥取県道徳教育研究会記念誌』
 - ・「心と学びのひとりだちをめざして」、2016年、『鳥取教弘教育実践研究論文集』第8号
 - ・「子どもたちの力で創り出すよりよい学級・学校生活」、2014年、『平成25年度鳥取市教育論文』
- 【学会発表】
 - ・「実践に基づく道徳授業の新しい提案」、2014年、日本道徳教育学会(第84回大会)
- 【報告書】
 - ・日本道徳教育学会(第80回大会)「道徳授業成否の鍵は資料にあり」、2013年、『日本道徳教育学会報』第26号
- 【会報寄稿】
 - ・「偉人等の「人生の転機」に焦点をあてた道徳授業の必要性」2020年、『日本道徳教育学会報』第61号

■ **社会貢献活動**

- ・日本道徳教育学会評議員
- ・日本道徳教育学会鳥取県支部長
- ・鳥取県道徳教育研究会顧問
- ・鳥取県教職員育成協議会委員
- ・鳥取市教育センター運営協議会委員
- ・鳥取市社会教育委員及び鳥取市公民館運営審議会委員
- ・鳥取県立青谷高等学校活性化を支援する会会長
- ・鳥取県立青谷高等学校学校評議員
- ・退職校長会気高支部講演会「道徳の時代がやってきた」
- ・鳥取西中学校保護者講演会「夢や志をもつことに力点を」
- ・鳥取市教育委員会子育て親育ち講演会「家庭と学校の役割 ～家庭で、子どもに身につけさせたいこと～」
- ・米子市小学校教育研究会道徳部会講演会「道徳科の授業づくりで大切にしたいこと」

田島 正喜

TAJIMA, Masaki



サステナビリティ研究所長
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

taji-msk@kankyo-u.ac.jp

Profile

Research

Data

■主な担当科目 環境とエネルギー、地域エネルギーシステム論、循環型社会形成概論、循環型社会形成実習・演習 A, B、温暖化対策エネルギー技術特論

■研究者略歴

1981 (昭和56) 年 3月	東京工業大学工学部化学工学科卒業
1983 (昭和58) 年 3月	東京工業大学大学院総合理工学研究科電子化学専攻修士課程修了
1983 (昭和58) 年 4月	東京ガス株式会社入社 (～2016年12月)
2002 (平成14) 年 1月	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) エネルギー・環境技術開発室出向 (～2005年4月)
2009 (平成21) 年 3月	東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻博士課程修了
2011 (平成23) 年 4月	九州大学大学院工学研究院機械工学部門教授 (～2015年3月)
2015 (平成27) 年 4月	地球環境産業技術研究機構 (RITE)CO2貯留G出向 (～2017年3月) 九州大学水素エネルギー国際研究センター客員教授 (～現在)
2017 (平成29) 年 4月	公立大学法人公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻教授
2020 (令和 2) 年 4月	公立大学法人公立鳥取環境大学サステナビリティ研究所長

■取得学位 博士 (農学) (東京大学)

■専門分野 環境・エネルギーシステム論、水素製造システム、バイオマスエネルギー変換技術

■現在の研究テーマ

- ・バイオマス (下水汚泥、バイオエタノール等) からの水素製造システム (水素ステーション) 開発
- ・地産地消エネルギーシステムによるコジェネレーション評価
- ・CO2削減システム (ゼロエミッション) 検討
- ・燃料電池自動車、電気自動車からの電力供給を含むスマートエネルギーネットワーク構築研究

■受賞歴 2016年 (平成28) 年8月 産学官連携功労者表彰 国土交通大臣賞 (内閣府)

2018年 (平成30) 年2月 新エネルギー財団会長賞 (新エネ大賞)

■所属学会 日本エネルギー学会、触媒学会

■資格 高圧ガス保安法製造保安責任者、危険物取扱者 (甲種)、エネルギー管理士 (熱)、ガス主任技術者 (甲種)

■研究等活動

- 【著書】**
- ・「SDGsを考える——歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会」(共著)、2020年、ナカニシヤ出版
 - ・「水素エネルギー社会」(共著)、2008年、エネルギー・資源学会
 - ・Hydrogen Energy Engineering : A Japanese perspective (Green Energy and Technology) Co-author, Springer, 1st ed. 2016
- 【論文】**
- ・下水汚泥消化ガスからの水素製造技術における高沸点炭化水素の影響 (共著)、2018、第55回下水道研究発表会講演集
 - ・燃料電池自動車用水を下水から製造し、供給する「水素リター都市プロジェクト」(単著)、2015、産官学連携ジャーナル誌、Vol.11, No.9
 - ・日本におけるバイオマスをを用いた水素ステーション構築の潜在的実現性検討 (共著)、2009、日本太陽エネルギー学会誌第35巻第5号
 - ・首都圏におけるバイオマス種に応じた水素ステーションの実現性検討 (共著)、2008、日本太陽エネルギー学会誌第34巻第8号
 - ・Feasibility for Formation of Hydrogen Stations with Various Biomass Resources in Japan, 2008 (with S. YOKOYAMA and K. IMOU), Proc. of Renewable Energy 2008
 - ・Estimation Method for the Creation of Hydrogen Stations with Woody Biomass and Livestock Excreta in Japan, 2008 (with K. IMOU and S. YOKOYAMA), International Energy Journal, Vol.9
 - ・Estimation Method for the Construction of Hydrogen Society with Various Biomass Resources in Japan - Project of Cost Reductions in Biomass Transport and Feasibility for Hydrogen Station with Biomass -, 2007(with K.IMOU and S.YOKOYAMA), Proc. of World Academy of Science, Engineering and Technology, Vol.22
- 【報告書・講演会】**
- ・「水素社会における下水汚泥の有効利用」、2018、日本産業機械工業会環境ビジネス委員会講演会
 - ・「地球温暖化の基礎知識と最新情報 水素エネルギー社会への期待」、2018、とっとりエコサポーターズ養成講座
 - ・「地球温暖化と目指すべきエネルギー社会」、2018、公立鳥取環境大学公開講座
 - ・「バイオマスからの水素製造プロジェクト～鳥取での期待～」、2018、公立鳥取環境大学との産学官連携に関する懇談会
 - ・「下水汚泥からの水素製造システム開発」、2017、一般財団法人大阪科学技術センター地球環境技術推進懇談会水再生・バイオソリッド研究会
 - ・「下水汚泥エネルギー化による水素社会構築の可能性」、2017、公益財団法人愛知水と緑の公社第36回下水道研究報告会
 - ・「バイオマスー水素製造モデルの推進ー下水汚泥からの水素ステーション構築プロジェクト」、2017、一般財団法人エンジニアリング協会研究開発企画委員会循環型社会システム研究部会講演会
 - ・「バイオエネルギーの活用による水素社会構築の意義」、2016、一般財団法人エネルギー総合工学研究所2016年度6月度月例研究会
 - ・基調講演「なぜ今、水素社会なのか?」、2015、下水道展「15東京「水素社会と下水道」
 - ・「下水汚泥等からの水素製造に関する研究ーバイオマスからの水素ステーション形成の考え方」、2014、第27回下水汚泥の有効利用に関するセミナー 日本下水道協会主催
 - ・「下水汚泥消化ガスを原料とした水素ステーション構築の可能性調査」、2013、再生可能エネルギー先端技術展2013福岡水素エネルギー戦略会議セミナー
 - ・バイオマス種に応じた水素社会の構築予測ーバイオマスの収集・運搬コスト削減と水素ステーションの実現可能性予測ー (共著)、2008、農業機械学会第67回年次大会講演要旨
- 【特許】**
- ・「燃焼ガスの供給方法、及びその燃焼ガスを供給するためのパイプライン」(単独)、2010

■社会貢献活動

- ・広島県北広島町バイオマス利用協議委員会 委員長 (2019年～2020年度)
- ・「鳥取新庁舎を中心としたエネルギーの地産地消と面的利用」委員会、鳥取市 委員長 (2018年度)
- ・鳥取市立病院ESCO事業プロポーザル審査委員会 委員長 (2018年度)
- ・鳥取県商工労働部指定管理候補者審査・指定管理施設運営評価委員会 委員長 (2018年度)
- ・福岡グリーン水素活用推進協議会、福岡市 顧問 (2017年～2020年度)
- ・鳥取県商工労働部指定管理施設運営委員会、指定管理候補者審査委員会 委員長 (2017年度)
- ・国土交通省「水素社会における下水道資源利活用検討委員会」委員長 (2015年～2016年度)
- ・長崎県下水処理場水素製造施設導入可能性調査評価委員長 (2015年度)
- ・福岡県福岡水素戦略会議高効率水素製造分科会座長 (2012年～2015年度)
- ・内閣府総合科学技術会議外部専門家 (社会基盤) (2009年度)
- ・水素供給・利用研究組合 (HySUT)技術開発本部副本部長 (2009年～2011年度)
- ・IEAバイオエネルギー執行委員会日本代表委員 (2002年～2005年)

浅川 滋男

ASAKAWA, Shigeo



教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

研究室ブログ <http://asaxlablog.blog.fc2.com/>

✉ asax@kankyo-u.ac.jp

■主な担当科目 歴史遺産保全論、地域生活文化論、住まいと建築の歴史、人間環境実習・演習A・B、人間環境概論

■研究者略歴

1979 (昭和54) 年 3月	京都大学工学部建築第2学科卒業
1981 (昭和56) 年 3月	京都大学大学院工学研究科修士課程修了
1982 (昭和57) 年 9月	北京語言学院で中国語を研修
1983 (昭和58) 年 8月	同済大学 (上海) 留学 (～1984年8月)
1987 (昭和62) 年 3月	京都大学大学院工学研究科博士課程単位取得
1987 (昭和62) 年 4月	奈良国立文化財研究所入所
1991 (平成 3) 年 4月	学術振興会特定国派遣研究員 (中国社会科学院考古研究所等、～7月)
1994 (平成 6) 年 4月	京都大学大学院人間・環境学研究科併任助教授 (住環境保全論～2001年1月)
1997 (平成 9) 年 4月	奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部遺構調査室長 (～2001年3月)
2001 (平成13) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科教授
2005 (平成17) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科教授
2009 (平成21) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科長 (～2012年3月)
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学学科教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学学科教授、大学院環境情報学研究科教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻教授

■取得学位 工学博士 (京都大学)

■専門分野 文化遺産学, 住環境保全論, 建築人類学 / 考古学

■現在の研究テーマ

- ・ブータン仏教の調伏と黒壁の瞑想洞穴
- ・チベット仏教のストゥーパ (宝塔) とマニタイ (真言刻みの板石堆積) の研究
- ・ベニス憲章と奈良ドキュメントー世界遺産批評
- ・摩尼山の文化的景観 (名勝) の活用整備
- ・科学的年代測定と建築史研究

■受賞歴

- 1996 (平成 4) 年12月 鳥取県優秀図書 (『橋津の藩倉』)
- 2004 (平成16) 年 6月 東北建築賞 (『御所野縄文博物館』)
- 2008 (平成20) 年11月 安土城・摺見寺再建学生設計競技「優秀賞」(研究室として受賞)

■所属学会 日本建築史学会, 日本中国考古学会

■資格 木造建築士, 2級建築士

■研究等活動

【著書】

- ・『建築フィールドワークの系譜』(共著) 2018年
- ・『建築考古学の実証と復元研究』(単著) 2013年
- ・『出雲大社の建築考古学』(編著) 2010年
- ・『ロシア極東の民族考古学ー温帯森林猟漁民の居住と生業ー』(共著) 2005年
- ・『埋もれた中近世の住まい』(編著) 2001年
- ・『離島の建築』(単著) 2000年
- ・『先史日本の住居とその周辺』(編著) 1998年
- ・『住まいの民族建築学ー江南漢族と華南少数民族の住居論ー』(単著) 1994年

【論文】

- ・『家庭処女ー回憶八十年代』(中文・単著) 2020年
- ・『從東大寺頭塔看宝塔的起源ー与藏传佛教卒塔婆的結構和配置相比較』(中文・単著) 2019年
- ・『科学性年代測定と建築史研究ー日本木造建築構件和不丹土石版築的分子分析ー』(中文・単著) 2019年
- ・『賽の河原』の風景ー摩尼山地蔵堂の考証と復元ー』(単著) 2019年
- ・『奇跡の雪山ーブータンとチベットの七年間ー』(共著) 2019年
- ・『西ブータンの崖寺と民家ー八地区を中心にー』(共著) 2018年
- ・『日本の建築考古学ー魏志倭人伝和三世紀的大型房子』(中文・単著) 2018年
- ・『松原田中遺跡の地中梁と布掘掘形に関する復元的考察』(共著) 2018年
- ・『旧大雲院本坊指図の考証と復元』(共著) 2017年
- ・『ブータンの崖寺と冥想洞穴(1)(2)』(共著) 2016～2017年
- ・『出雲市青木遺跡の原始大社造に関する復元的考察』(共著) 2016年

【報告書】

- ・『能海寛を読むー「世界に於ける仏教徒」の口語訳と批評ー』2020年
- ・ペマ・ギャルツェン他『ラ・ジャー天の鳥』(訳) 2019年
- ・クンサン・チョデン『メンパツォー炎立つ湖ー』『心の余白』『グルリンポチェがやってくる』(訳) 2015～2017年
- ・『大雲院の建造物と仏教美術』2017年 『大雲院仏教美術目録』2016年
- ・『倉吉の歴史まちづくり』『地蔵盆を未来へー倉吉の歴史まちづくり (II)ー』2015～2016年
- ・『近世木造建造物の科学的年代測定に関する基礎的研究』2015年
- ・『聖なる巖 (いわお)ー窟 (いわや) の建築化をめぐる比較研究ー』2013年
- ・『摩尼寺「奥の院」遺跡ー発掘調査と復元研究ー』2012年
- ・『大山・隠岐・三徳山ー山岳信仰と文化的景観ー』2011年
- ・『文化的景観としての水上集落論ー世界自然遺産ハロン湾の地理情報と居住動態の分析』2010年

■社会貢献活動

- ・鳥取市文化財保護審議委員会副会長
- ・登録記念物「摩尼山」活用整備委員会委員長
- ・中村元記念館東洋思想文化研究所研究員
- ・《Journal of Cultural Heritage》論文審査員

荒田 鉄二



人間形成教育センター副センター長
教授

ARATA, Tetsuji

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

t2-arata@kankyo-u.ac.jp

Profile

主な担当科目	環境と倫理、環境と文明、環境学概論
研究者略歴	<ul style="list-style-type: none"> 1985 (昭和60) 年 3月 千葉大学 園芸学部 環境緑地学科 卒業 1985 (昭和60) 年 4月 株式会社 エックス都市研究所 研究員 1992 (平成 4) 年 3月 東京農工大学 大学院 農学研究科 環境保護学専攻 (修士課程) 修了 1993 (平成 5) 年 7月 株式会社 環境文明研究所 主任研究員 2003 (平成15) 年 4月 NPO法人 循環共生社会システム研究所 主任研究員 2004 (平成16) 年 4月 吉備国際大学 政策マネジメント学部 (環境リスクマネジメント学科) 准教授 2009 (平成21) 年 4月 鳥取環境大学環境マネジメント学科准教授 2012 (平成24) 年 4月 鳥取環境大学環境学部環境学科准教授 2013 (平成25) 年 4月 鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授 2015 (平成27) 年 4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授 2016 (平成28) 年 4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授 2018 (平成30) 年10月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授、大学院環境経営研究科環境学専攻教授

Research

取得学位	修士 (農学) (東京農工大学)
専門分野	環境哲学, 文明論, 持続性論
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・持続不可能性の根源に関する研究 ・文明の避難場所づくりに関する研究 ・環境と経済を巡る認識、期待および判断に関する研究
所属学会	地球システム・倫理学会, 環境社会学会 ほか

Data

研究等活動	<p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012年 環境マインド養成講座 第3部 (共著), 2012年, 環境教育センター (人間環境大学内) <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文明の避難場所づくり (単著), 環境と文明, Vol.21 No.9, 2013年, NPO法人環境文明21 ・成長と大きさの限界について (単著), KIESS MAIL NEWS, 2013年, NPO法人循環共生社会システム研究所 ・生き延びるための食と農 (単著), 環境と文明, Vol.22 No.5, 2014年, NPO法人環境文明21 ・若者の環境意識: 経済成長と地球環境問題の関係 (単著), 環境と文明, Vol.23 No.1, 2015年, NPO法人環境文明21 ・進歩と救い (単著), KIESS MAIL NEWS, 2015年, NPO法人循環共生社会システム研究所 ・ローカリゼーションのすすめ (単著), 環境と文明, Vol.24 No.2, 2016年, NPO法人環境文明21 ・人と自然: 橋は燃やされたージャン・アンビュルジェによる環境倫理の根拠づけ (単著), KIESS MAIL NEWS, 2016年, NPO法人循環共生社会システム研究所 ・マインドセットを変える (単著), KIESS MAIL NEWS, 2016年, NPO法人循環共生社会システム研究所 ・収量逓減の法則 (単著), KIESS MAIL NEWS, 2018年5月, NPO法人循環共生社会システム研究所 ・精神を病んだ21世紀社会vs環境文明21 (単著), 環境と文明, Vol.26 No.11, 2018年, NPO法人環境文明21 ・ローマは1日にして滅びずーガブリエルとオルテガをめぐってー (単著), KIESS MAIL NEWS, 2018年12月, NPO法人循環共生社会システム研究所 ・過剰開発: ドイツに行って考えたこと, KIESS MAIL NEWS, 2020年1月, NPO法人循環共生社会システム研究所 <p>【報告書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究 (平成25年度環境研究総合推進費補助金研究事業) 報告書 (共著), 2014年, 鳥取環境大学 ・日本海に面した海岸における海ごみの発生抑制と回収の促進に関する研究 (平成23年度循環型社会形成推進科学研究費補助金研究) 報告書 (共著), 2012年, 鳥取環境大学 <p>【社会貢献活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員: 鳥取県森林環境保全税関連事業評価委員会委員 (平成25～31年度) 委員: 鳥取地方労働審議会委員 (平成25～31年度) 理事: NPO法人 循環共生社会システム研究所 講演: 「人と自然: 橋は燃やされた」、NPO法人KIESS土曜倶楽部 (京都市: 平成27年12月19日) 出前授業: 「環境を巡る認識、期待と判断」、兵庫県立川西緑台高校 (平成27年7月8日)
--------------	---

吉永 郁生

YOSHINAGA, Ikuo



地域イノベーション研究センター長
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■ 主な担当科目	海洋環境学概論, 自然環境保全実習・演習A, 自然環境保全概論, 水域生態学, 漁業資源保全学
■ 研究者略歴	
1985 (昭和60) 年 3月	京都大学農学部水産学科卒業
1987 (昭和62) 年 3月	京都大学大学院農学研究科修士課程水産学専攻修了, 同博士後期課程進学
1990 (平成 2) 年 5月	同上退学, 京都大学農学部助手
1991 (平成 3) 年 5月	京都大学農学博士学位取得
1996 (平成 8) 年 9月	文部省在外研究員としてアメリカ合衆国オレゴン州立大学に留学 (~1997年7月)
2007 (平成19) 年 4月	京都大学大学院農学研究科助教
2013 (平成25) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター長・大学院環境情報学研究科環境学専攻教授

Research

■ 取得学位	農学博士 (京都大学)
■ 専門分野	海洋微生物学, 微生物生態学
■ 現在の研究テーマ	・硝化、脱窒、アナモックスなど、水域の窒素循環に関わる微生物の研究 ・汽水域の微生物の研究 ・海洋の微細藻・大型海藻・海草に生じる微生物被膜の研究 ・東日本震災で被害を受けた沿岸海域の復興過程の微生物学的研究 ・鳥取県の水産業の振興 ・有明海再生のための提言
■ 受賞歴	1997年 4月 水産学会奨励賞 2008年11月 日本微生物生態学会論文賞
■ 所属学会	日本微生物生態学会, 日本水産学会, 日本農芸化学会, マリンバイオテクノロジー学会, 藻類学会, International Society of Microbial Ecology, American Society of Microbiology
■ 資格	衛生管理者, 潜水士

Data

■ 研究等活動	
【著書】	<ul style="list-style-type: none"> ・「有明海再生への道」(共著)、2014年、花乱社 ・「海の環境微生物学-増補改訂版」(共著)、2011年、恒星社厚生閣 ・「難培養微生物研究の最新技術 II—ゲノム解析を中心とした最前線と将来展望— (Current Technology and Perspectives for Yet-uncultivated Microbial Resources)」(共著)、2010年、シーエムシー出版 ・「微生物ってなに?—もっと知ろう!身近な生命」(共著、2006年、日科技連
【論文】	<ul style="list-style-type: none"> ・「東日本大震災後の気仙沼湾底質におけるn-ヘキサン抽出物重量法による流出油の影響評価の検討」、2016年、沿岸海洋研究 ・「環境微生物の視点から見た貝殻敷設の有用性」、2014年、『月刊海洋』532号、海洋出版 ・「森里海連環の哲学からみた有明海の窮状と新たな視点としての微生物の役割」、2013年、『アカデミア』140号、日本学士会 ・「津波の海に生きる未来創生—気仙沼舞根湾調査」(共著)、2012年、『海洋と生物』203号、生物研究社 ・「シャットネラ殺藻細菌の扶育場としてのバイオフィルム」、2012年、日本水産学会誌 ・「環境中の窒素の循環とあらたな経路としてのアナモックス」(共著)、2012年、日本水産学会誌 ・「Germination fluctuation of toxic <i>Alexandrium tamarense</i> and <i>A. catenella</i> cysts and its relationship with bloom occurrences in Kesenuma Bay, Japan」(共著)、2017年、Harmful Algae. ・「Complete Genome Sequence of <i>Bradyrhizobium</i> sp. S23321: Insights into Symbiosis Evolution in Soil Oligotrophs」(共著)、2012年、Microb. Environ. ・「Detection of Anammox Activity and 16S rRNA Genes in Ravine Paddy Field Soil」(共著)、2012年、Microb. Environ. ・「Evidence of Exponential Growth of an Anammox Population in an Anaerobic Batch Culture」(共著)、2012年、Microb. Environ. ・「Diversity of anaerobic ammonium oxidation (anammox) bacteria in the sediment of a eutrophic freshwater lake」(共著)、2011年、Microb. Environ. ・「Algicidal bacteria in particle-associated form and in free-living form during a diatom bloom in the Seto Inland Sea, Japan」(共著)、2010年、Aquat. Microb. Ecol. ・「環境中のアナモックス細菌と窒素循環」(共著)、2009年、化学と生物
【報告書】	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然機能を活用した流出油の分解過程の解明-人工漂着油分解過程の細菌相調査」(共著)、2003年、生物的油濁処理技術開発・効果的利用検討事業報告書、財団法人漁場油濁被害救済基金
■ 社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人「SPERA森里海・時代を拓く」 理事 (2013~) ・出前授業 (岡山県大安寺高校、岡山県明誠高校、鳥取県青谷高校、福岡県伝習館高校など) 講師 (2014~) ・市民講座「森は海の恋人の理念に基づく新たな地域社会を目指して」 講師 (2018) ・シニア自然大学 (大阪市、朝日新聞社後援)「水の講座」 講師 (2018) ・岩美町水産業再生委員会 委員 (2014~) ・環境省ETV事業審査部会委員 (2014~) ・日本農芸化学会鳥取支部 参与 (2016~) ・鳥取県試験場評価委員 (2017~) ・鳥取市環境審議会委員 (2018~)

張 漢賢

CHONG, Hon Shyan



国際交流センター長
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

shyan@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 人間居住論, 都市居住計画, 途上国の都市発展

■研究者略歴

1992 (平成 4) 年 3月	京都大学工学部 建築学第二学科卒業
1994 (平成 6) 年 3月	京都大学大学院工学研究科 修士課程修了 (環境地球工学専攻 居住空間工学講座)
1994 (平成 6) 年 4月	株式会社高橋上田設計事務所 設計担当
1996 (平成 8) 年 4月	AKITEK WAC (マレーシア) アシスタント・アーキテクト
2000 (平成12) 年11月	京都大学博士 (工学)
2001 (平成13) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助手
2005 (平成17) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助教授
2006 (平成18) 年10月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻助教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2013 (平成25) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科教授・大学院情報学研究科環境情報学専攻教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授・大学院情報学研究科環境情報学専攻教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学国際交流センター長

Research

■取得学位 京都大学博士 (工学)

■専門分野 都市計画学, 都市生活空間計画, 人間居住論

■現在の研究テーマ ・持続的な都市居住を可能にする都市空間、市街地の形成・管理手法
・アジア・ヨーロッパの都市型住宅 (ショップハウス、タウンハウス) の形成と保全
・都市・まちの「居場所」または「サード・プレイス」について

■受賞歴 1994 (平成6) 年9月 日本建築学会優秀修士論文賞

■所属学会 日本建築学会, 日本都市計画学会, 都市住宅学会

Data

■研究等活動

【著書】

・「Planning for a Better Urban Living Environment in Asia」(共著)、2000、Ashgate

【論文】

- ・「カフェで運営されるこども食堂の多様な利用」(共著)、2020、日本建築学会中国支部研究報告集第43巻
- ・「鳥取市の介護予防に向けた取り組み「O (オー) 教室」の実態把握」(共著)、2019、日本建築学会中国支部研究報告集第42巻
- ・「倉吉市白壁土蔵群周辺における「萌えおこし」によるまちづくり」(共著)、2017、日本建築学会中国支部研究報告集第40巻
- ・「鳥取市中心市街地における街路の空間特性に関する研究」(共著)、2017、日本建築学会中国支部研究報告集第40巻
- ・「行動観察調査からみたカフェの居方—携帯電話使用・机の種類の影響—」(共著)、2017、日本建築学会中国支部研究報告集第40巻
- ・「鳥取県における文化芸術活動団体の活動維持と底辺拡大について (その1、2)」(共著)、2015、2016、日本建築学会中国支部研究報告集第38巻・39巻
- ・「地域と若者をつなげる「コミュニティの場」の創出と持続的利用—京都市内におけるケーススタディー」(共著)、2014、日本建築学会中国支部研究報告集第37巻
- ・「マロッカ・ジョージタウン世界遺産管理の課題—ボトムアップ保存手法構築の視点から—」、2013、日本建築学会中国支部研究報告集第36巻
- ・「鳥取市ついでニュータウンにおける地域組織の現状—その活動と地域とのかかわり方—」(共著)、2012、日本建築学会中国支部研究報告集第35巻
- ・「旧東京市営店舗向住宅の持続的利用に関する調査研究」(共著)、2011、日本建築学会中国支部研究報告集第34巻
- ・「アジア都市のショップハウスに関する研究 その8 マレーシア・ジョージタウンにおける家賃統制令撤廃前後の統制家屋の維持管理の実態」、2001、日本建築学会大会学術講演梗概集F
- ・「シンガポールにおける歴史的ショップハウス市街地の『政府主導・民間提案型』都市保存の制度」(共著)、2001、日本建築学会計画系論文集
- ・「マレーシア・クアラルンプールにおけるショップハウスの空間構成とその利用実態」(共著)、1999、日本建築学会計画系論文集
- ・「マレーシアにおけるショップハウスの供給」(共著)、1998、日本建築学会計画系論文集

【総説】

・「都市と建築の秩序」、2011、日本建築学会建築雑誌、Vol.126、No.1618

【報告書】

- ・「鳥取県の文化芸術活動実態調査報告書」(共著)、2017、鳥取県文化団体連合会
- ・「西スマトラ州パタン歴史地区の再生に関するワークショップ」報告書(共著)、2016、東京文化財研究所
- ・「台北における歴史的建造物の活用：ショップハウスを中心に」、2014、『遺跡学研究』第11号、日本遺跡学会
- ・「「パブリック」で考える歴史的市街地空間と人間の係わり方—世界遺産マロッカとジョージタウンの比較から—」、「パブリックな存在としての遺跡・遺産、平成24年度 遺跡等マネジメント研究集会 (第2回) 報告書」、2013、奈良文化財研究所
- ・「鳥取市における市営住宅居住者のまちなか居住ニーズ」、2007、鳥取市まちなかまちづくり市民活動促進事業報告書

■社会貢献活動

- ・鳥取県都市計画審議会委員、鳥取市景観形成審議会
- ・北栄町空き家等審議会、新温泉町空屋等対策協議会
- ・公益財団法人鳥取童謡・おもちゃ館理事

中治 弘行

NAKAJI, Hiroyuki



教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

URL <http://d4407.kankyo-u.ac.jp/>

E-mail nakaji@kankyo-u.ac.jp

■ **主な担当科目** 環境物理学、木質構造計画、自然素材と環境、物理学実験

■ 研究者略歴

1994 (平成 6) 年 3月	京都大学工学部建築学科卒業
1996 (平成 8) 年 3月	京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
1999 (平成11) 年 3月	京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻博士後期課程単位認定退学
1999 (平成11) 年 4月	豊橋技術科学大学工学部建設工学系助手 (～2005年3月)
1999 (平成11) 年 7月	京都大学博士 (工学)
2005 (平成17) 年 4月	高松工業高等専門学校建設環境工学科講師 (～2006年9月)
2006 (平成18) 年10月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助教授
2007 (平成19) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科・大学院環境情報学専攻環境情報学専攻准教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学准教授、大学院環境情報学専攻環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学教授、大学院環境経営研究科環境学専攻教授

■ **取得学位** 京都大学博士 (工学)

■ **専門分野** 木造住宅の耐震性能評価

■ **現在の研究テーマ**

- ・ 土塗り壁の耐震性能に関する研究
- ・ 伝統的構法木造住宅の耐震性能向上に関する研究
- ・ 木造建物と地震災害・防災

■ **所属学会** 日本建築学会

■ **資格** 危険物取扱乙4類, 床上操作式クレーン技能講習修了証, 玉掛け技能講習修了証

■ 研究等活動

【学位論文】

・ 「木造建物の耐震性能評価に関する研究」 (登録番号 課程工博第1860号 京都大学)

【著書】

- ・ 伝統的構法のための木造耐震設計法: 石場建てを含む木造建築物の耐震設計・耐震補強マニュアル, 伝統的構法木造建築物設計マニュアル編集委員会, 2019, 学芸出版社
- ・ 高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル, 高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル作成検討委員会, 2014.
- ・ 「東三河伝統民家耐震調査実験報告書」 (共著, 2005年3月)
- ・ 「1995年兵庫県南部地震—木造建物の被害—」 (共著, 1995年9月)

【論文】

- ・ 東で分割された土塗り垂れ壁付大断面木造軸組の耐震性能評価実験. 共著(筆頭). 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.91-98, 2019.
- ・ 土塗り壁の耐力を用いた土塗り小壁の骨格曲線の再評価. 共著. 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.209 - 214, 2019.
- ・ 土塗り大壁真壁併用壁の復元力特性に関する研究. 共著. 日本建築学会中国支部研究報告集第43巻, 2020.
- ・ 土塗り小壁付大断面木造軸組の耐震性能評価実験. 共著(筆頭). 日本建築学会中国支部研究報告集第42巻, 2019.
- ・ 高さの異なる土塗り小壁付木造軸組の耐力実験. 共著. 日本建築学会中国支部研究報告集第42巻, 2017.
- ・ 垂れ壁と腰壁で分割された無開口土塗り壁の復元力特性. 共著(筆頭). 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.23-30, 2018.
- ・ 土塗り壁の耐力を用いた土塗り小壁の骨格曲線評価. 共著. 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.15-22, 2018.
- ・ 伝統的な土塗り壁の復元力特性に関する実験的研究. 共著. 日本建築学会中国支部研究報告集第41巻, 2018
- ・ 土塗り壁の復元力特性に関する実大実験と理論的検討 その1全面壁と垂れ壁腰壁の実大実験. 共著(筆頭). 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2018
- ・ 土塗り壁の復元力特性に関する実大実験と理論的検討 その2 設計用復元力との比較. 共著. 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2018
- ・ 実大実験に基づく土塗り小壁付木造軸組の復元力特性(共著). 歴史都市防災論文集Vol.11, pp.103-110, 2017.
- ・ 伝統構法木造軸組における土塗り小壁の復元力評価法(共著). 歴史都市防災論文集Vol.11, pp.95-102, 2017.
- ・ Influence of Penetrating Tie Beams Visible from the Front of Wall on Restoring Force Characteristics of Mud-Walls(共著), 14th World Conference on Timber Engineering, 2016年8月
- ・ 「顕しの貴がある土壁の復元力特性」(共著), 第9回歴史都市防災シンポジウム, 2015年7月
- ・ 「EVALUATION OF RESTORING FORCE CHARACTERISTICS OF MUD-WALLS CONSIDERING EFFECT OF WALL-HEIGHT FOR SEISMIC STRUCTURAL DESIGN」(共著), 13th World Conference on Timber Engineering, 2014年8月
- ・ 「SEISMIC PERFORMANCE OF MUD-WALLS WITH SILL BASED ON FULL-SCALE CYCLIC LOADING TESTS」(共著), 12th World Conference on Timber Engineering 2012, 2012年7月
- ・ 「異なる強度を持つ壁土を用いた土壁耐力の推定」(共著), 日本建築学会構造系論文集第76巻第660号, pp.347-352, 2011年2月
- ・ 「鳥取県の工法による土塗り壁を有する木造軸組架構の耐力特性評価」(共著), 第13回日本地震工学シンポジウム論文集, 2010年11月
- ・ 「SEISMIC CAPACITY EVALUATION OF MUD-PLASTERED WALLS CONSIDERING STRENGTH OF MUD」(共著), WCTE 2010 - 11th World Conference on Timber Engineering, (2010)
- ・ 「壁土材料試験体の定温乾燥機による乾燥」(共著), 日本建築学会大会梗概集, A-1 分冊, pp.459-460, 2009年
- ・ 「鳥取県中部地方の工法による土塗り壁の実大せん断加力実験」(共著), 日本建築学会大会梗概集, C-1 分冊, pp.257-258, 2009年
- ・ 「Seismic Performance Verification of Traditional Wooden House Based on Cyclic Loading Tests and Analytical Methods」(共著), WCTE 2008 - 10th World Conference on Timber Engineering, (2008)
- ・ 「東三河伝統構法民家の耐震性能評価のための静的繰り返し加力実験」(共著), 日本建築学会構造系論文集, P133～P140, 2007年2月
- ・ 「The Scale Effects on the Reinforced Concrete Columns with High Strength Materials」(共著), Proceedings of The US-Japan Joint Seminar on Performance-Based Seismic Design, 2001, P297～P308, 2001年8月
- ・ 「木造住宅土塗り壁の実大実験による耐震性能の再検討」(共著), 日本建築学会構造系論文集 No. 515, P115～P122, 1999年1月

■ 社会貢献活動

- ・ 日本建築学会近畿支部木造部会幹事(2016年4月～2019年3月)
- ・ 日本建築学会近畿支部木造部会主査(2012年4月～2016年3月)
- ・ 旧加悦町役場庁舎耐震改修検討委員会(2018年4月～2019年3月)
- ・ 高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル作成検討委員会委員(2013年4月～2014年3月)
- ・ 「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験」検討委員会委員(2010年4月～2013年3月)
- ・ 重要文化財松江城天守保存活用計画策定委員会委員(2012年3月22日～2014年3月21日)
- ・ 鳥取環境大学公開講座(2013年度、2011年度ほか)

Profile

Research

Data

藤田恵津子

FUJITA, Etsuko



准教授

所属…環境学部 環境学科

Profile

■ **主な担当科目** 教育心理学, 特別支援教育の理論と実践, 生徒・進路指導論

■ **研究者略歴**

- 2002 (平成14) 年 3月 京都教育大学大学院教育研究科学校教育専修教育臨床心理学分野修了 (教育学修士)
- 2002 (平成14) 年 4月 京都教育大学附属桃山中学校帰国生徒学級相談室 相談員 (～2011年)
- 2004 (平成16) 年 4月 大阪府・市立学校 スクールカウンセラー (～2012年)
- 2004 (平成16) 年 4月 滋賀県警察本部生活安全部少年課大津少年サポートセンター 少年相談専門員 (～2012年)
- 2005 (平成17) 年 4月 大阪府私立幼稚園連盟キンダーカウンセラー (～現在)
- 2007 (平成19) 年 4月 神戸親和女子大学教育専攻科非常勤講師 (～2012年)
- 2007 (平成19) 年 4月 京都教育大学教育学部非常勤講師 (～2012年)
- 2012 (平成24) 年 4月 鳥取環境大学環境学部環境学科講師
- 2013 (平成25) 年10月 鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
- 2015 (平成27) 年 4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授

Research

■ **取得学位** 教育学修士 (京都教育大学)

■ **専門分野** 臨床心理学, 教育心理学, 発達心理学

■ **現在の研究テーマ** ・心理教育 (怒りのマネージメント、ストレス・マネージメント)
個別カウンセリングに加え、日常生活に必要な心理的知識やコミュニケーション・スキルは心の健康のために有益なことである。
・心理臨床とサブカルチャー
「思春期の成長」、「大人のセルフケア」としての役割をもつサブカルチャーを心理臨床的視点から考える。
・異文化適応
定移住による多様な文化背景をもつ子どもが増加しており、学習や対人関係、アイデンティティ、適応など課題も複雑化している。心理職は文化の多様性を理解した上で、彼らのより良い発達や環境にかかわっていくことが求められている。

■ **所属学会** 日本心理臨床学会, 日本教育心理学会

■ **資格** 公認心理師、臨床心理士

Data

■ **研究等活動**

【著書】

- ・「学校カウンセリング入門」(共著)、2016年9月、ミネルヴァ書房
- ・「はじめて学ぶ生徒指導・教育相談」(共著)、2016年4月、金子書房
- ・「学校臨床 子どもをめぐる課題への視座と対応」(共著)、2012年1月、金子書房
- ・「発達が気になる子どもの理解と支援のためのスモールステップ@子どもを育てる連携プレー」(共著)、2011年4月、学事出版

【論文】

- ・「一卵性双生児の母親面接」、2020年3月、京都教育大学心理教育相談室紀要第17号
- ・「自分の人生を振り返る高齢女性の面接過程」、2019年3月、京都教育大学心理教育相談室紀要第16号
- ・「自分のキャリアを模索する青年期女性の面接過程」、2018年3月、京都教育大学心理教育相談室紀要第15号
- ・「摂食障害を抱える母親の面接過程」、2017年3月、京都教育大学心理教育相談室紀要第14号
- ・「明確な主訴を持たない母親の面接過程」、2016年3月、京都教育大学心理教育相談室紀要第13号
- ・「性的アイデンティティの課題を抱える中学生の面接過程」、2014年3月、京都教育大学心理教育相談室紀要第11号
- ・「幼稚園児の母親を対象とするグループカウンセリングの取り組み」、2013年3月、鳥取環境大学紀要第10号
- ・「境界を生きるといふことー国際結婚をしたある日本人女性のケースを通して」、2013年3月、京都教育大学心理教育相談室紀要第10号
- ・「怒りのマネージメントを活用した帰国子女の女子大学生との面接過程」、2012年3月、異文化間教育学会奨励研究論文集
- ・「育児不安を抱える母親の面接過程ー地域における継続的支援の一考察ー」、2011年3月、京都教育大学心理教育相談室紀要第8号

【翻訳】

- ・「コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術」(共訳)、2011年4月、金子書房

■ **社会貢献活動**

- ・鳥取県青少年問題協議会委員
- ・鳥取県教科用図書選定審議会 委員
- ・八頭町立中学校保護者講演会講師
- ・八頭町子育て支援事業 船岡地域保育所「子育てサポート講座」研修・講座講師
- ・熊本市緊急派遣スクールカウンセラー
- ・大阪府守口市教育委員会教育専門相談員
- ・大阪府臨床心理士会「こころの健康電話相談」相談員
- ・大阪弁護士会「こどもの日無料電話相談」相談員

笠木 哲也

KASAGI, Tetsuya



准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ kasagi-t@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** 生態学基礎, 植物学概論, 生態系サービス論

■ **研究者略歴**

1992 (平成 4) 年 3月	宇都宮大学農学部卒業
1992 (平成 4) 年 4月	(株)カーター・アート環境計画 (現 (株)環境・グリーンエンジニア)
1997 (平成 9) 年 3月	北海道大学大学院地球環境科学研究科博士前期課程修了
2002 (平成14) 年 9月	北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了
2004 (平成16) 年10月	金沢大学地域連携推進センター研究員 (～2015年3月)
2006 (平成18) 年 4月	金沢大学環日本海域研究センター研究員 (～2016年3月)
2007 (平成19) 年 4月	石川県立総合看護専門学校非常勤講師 (～2014年9月)
2013 (平成25) 年10月	石川工業高等専門学校非常勤講師 (～2015年3月)
2015 (平成27) 年 4月	遊学館高等学校講師 (～2016年3月)
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部准教授
2016 (平成28) 年 6月	公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■ **取得学位** 博士 (地球環境科学/北海道大学)

■ **専門分野** 植物生態学, 送粉生態学, ハナバチ類

■ **現在の研究テーマ**

- ・植物の繁殖特性と送粉昆虫の行動の関係
- ・ハナバチ類の分布と送粉ネットワーク構造
- ・シカの食害と森林生態系との関係

■ **所属学会** 日本生態学会, 種生物学会, 日本森林科学会

Data

■ **研究等活動**

【論文】

- ・ Variation in flowering plant - bee linkages following experimental restoration of satoyama paddy fields. International Proceedings of Chemical, Biological and Environmental Engineering, 2017. 102 (共著)
- ・ 外来植物が在来植物とハナバチ類の関係に及ぼす影響. 日本海域研究, 2015. 46: 43-48 (共著)
- ・ 加賀地域の標高程度に沿ったハナバチ相の比較. 2013. 日本海域研究, 44: 1-9 (共著)
- ・ 能登半島と佐渡島におけるハナバチ類の種組成と分布. 2012. 日本海域研究, 43: 9-17 (共著)
- ・ Habitat-species responses of alpine plants to climate amelioration: comparison of fellfields and snowbed communities. Arctic, Antarctic and Alpine Research, 2011. 42: 438-448 (共著)
- ・ A hybrid zone dominated by fertile F1s of two alpine shrub species, *Phyllodoce caerulea* and *Phyllodoce aleutica*, along asnowmelt gradient. Journal of Evolutionary Biology, 2008. 21: 588-597 (共著)
- ・ Eight microsatellite markers for sympatric alpine shrubs, *Phyllodoce aleutica* and *P. caerulea* (Ericaceae). Molecular Ecology Notes, 2006. 6: 402-404 (共著)
- ・ Interspecific pollinator movements and heterospecific incompatibility: comparisons between *Phyllodoce caerulea* and *Phyllodoce aleutica* along snowmelt gradients. Evolutionary Ecology Research, 2005. 7: 73-87 (共著)
- ・ Variations in bumblebee preference and pollen limitation among neighboring populations: comparisons between *Phyllodoce caerulea* and *Phyllodoce aleutica* (Ericaceae) along snowmelt gradients. American Journal of Botany, 2003. 90: 1321-1327 (共著)

【研究発表】

- ・ ウコギ科カクレミノにおけるシュート構造と葉形質の光環境への応答. 2019. 日本生態学会, 第66回大会 (共同)
- ・ 鳥取県東部瀬戸川におけるバイカモのバッチ動態と開花結実状況. 2019. 日本生態学会, 第66回大会 (共同)
- ・ 鳥取県東部地域のコナラ二次林における中低木層の種子散布: 自然落下と鳥散布. 2018. 日本生態学会中国四国地区会, 生物系三学会合同大会 (共同)
- ・ ウコギ科カクレミノにおける個葉形質の変異と光環境の関係. 2018. 日本生態学会, 第65回大会 (共同)
- ・ ニホンジカの生息密度と植生被害タイプの関係. 2018. 日本生態学会, 第65回大会 (共同)
- ・ 鳥取県東部地域におけるナラ枯れ後の落葉樹の分布パターン. 2017. 日本森林学会, 第128回大会 (共同)
- ・ ツリフネソウにおける訪花昆虫相の違いと送粉成功の関係. 2014. 日本生態学会, 第61回大会 (共同)
- ・ Comparison of flowering plant-bee linkages between two types of satoyama habitats in Kanazawa, Japan. 2013. Entomological Society of America, Entomology 2013 in Austin (共同)
- ・ 農地生態系において外来植物の開花が在来ハナバチ相に及ぼす影響. 2011. 応用動物昆虫学会, 第55回大会 (共同)
- ・ 植物群集の開花フェノロジーとハナバチ相の関係に対する外来植物の影響. 2011. 日本生態学会, 第58回大会 (共同)
- ・ Biodiversity and ecosystem in Noto Peninsula: perspectives from satoyama and satoumi. 2010. The 4th International Symposium on Environment of Rim of the Japan/East sea (単独)

■ **社会貢献活動**

- ・ 鳥取県環境審議会/委員 (2019～)
- ・ 日本生態学会中国四国地区会/会計幹事 (2018～)
- ・ 鳥取県生物学会/講演「花とハナバチの関係から生態系をみる」(2017: 鳥取市)
- ・ 鳥取市環境審議会/委員 (2016～)
- ・ 白山自然保護調査研究会/幹事 (2015～2017)
- ・ 石川県民白山講座/講演「白山の高山植物と花粉を運ぶハナバチ類の関係」(2014: 白山市)
- ・ 七尾市・金沢大学連携ワークショップ/講演「熊木川流域におけるハナバチ調査の概要」(2012: 七尾市)
- ・ ニッセイ財団環境問題助成「里山の環境モザイクを活用したハナバチ共生フィールドの創出」/代表 (2010)
- ・ 金沢大学「植物スケッチ展」/企画運営 (2008: 石川県立美術館広坂別館)

金 相烈

KIM, SangYul



准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

sykim@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 3R工学, 廃棄物処理技術, 応用化学概論

■研究者略歴

1998 (平成10) 年 2月	ソウル市立大学工学部環境工学科卒業
2000 (平成12) 年 9月	北海道大学大学院工学研究科資源環境工学専攻修士課程修了
2003 (平成15) 年 9月	北海道大学大学院工学研究科資源環境工学専攻博士後期課程修了
2003 (平成15) 年10月	北海道大学大学院工学研究科COE研究員
2004 (平成16) 年 4月	オーストリアウィーン工科大学客員研究員
2005 (平成17) 年 4月	北海道大学大学院工学研究科学術研究員
2006 (平成18) 年 4月	北海道大学大学院工学研究科博士研究員
2006 (平成18) 年10月	北海道大学大学院工学研究科特任助教
2013 (平成25) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2015 (平成27) 年 4月～	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■取得学位 博士 (工学) (北海道大学)

■専門分野 廃棄物工学

■現在の研究テーマ

- ・廃棄物系バイオマスの利活用に関する研究
- ・焼却残さの炭酸化処理による二酸化炭素の削減に関する研究
- ・廃棄物処理施設における合意形成 (リスクコミュニケーション) に関する研究
- ・産業廃棄物の不法投棄問題に関する研究
- ・海面埋立地の早期安定化に関する研究

■所属学会 日本廃棄物資源循環学会, 韓国廃棄物資源循環学会

Data

■研究等活動

- 【著書】
- ・「環境汚染現場の修復 ～実務者のための新しいアプローチ～」(分担執筆)、2013年、オーム社
 - ・「バイオマス地域循環 ～再生可能エネルギーのあるべき姿～」(分担執筆)、2012年、環境新聞社
 - ・「不法投棄のない循環型社会づくり ～不法投棄対策のアーカイブス化～」(分担執筆)、2009年、環境新聞社
- 【論文】
- ・「コンジョイント分析に基づいた牛ふんスラリーの適正処理と資源化のための酪農家のニーズ解析:北海道東地域を対象として」(共著)、2013年、土木学会論文集G 69巻
 - ・「3次元数値シミュレーションによる修復対策後の地下水流動変化に基づく1,4-ジオキサンの拡散予測 -青森・岩手県境不法投棄事案の恒久対策を目指して-」(共著)、2012年、土木学会論文集G 68巻
 - ・「Compartment model of aerobic and anaerobic biodegradation in a municipal solid waste landfill」(共著)、2007年、Waste Management & Research 第25巻
- 【国際会議】
- ・「Effect of carbonation treatment of incinerator ash on the stabilization of offshore landfill」(共著)、2018年、The 10th Asia-Pacific Landfill Symposium in 2018 (APLAS2018)、Tokyo, Japan
 - ・「Promoting the use of a liquid fertilizer produced from municipal waste biomass in the eastern region of Tottori Prefecture based on an oral survey of liquid fertilizer users」(共著)、2016年、The 9th Asia-Pacific Landfill Symposium in 2016 (APLAS2016)、HongKong
 - ・「The evaluation of a liquid fertilizer recycling system in the Eastern region of Tottori Prefecture using Input-Output Analysis」(共著)、2015年、3R International Scientific Conference on Material Cycles and Waste Management, DaeJeon, Korea
 - ・「Development of Actual Tracking Method for Prediction of Drift Routes of Marine Debris Generated from Tsunami」(共著)、2014年、3R International Scientific Conference on Material Cycles and Waste Management and SWAPI, Kyoto, Japan
 - ・「A Study on Potential Improvement of Waste Manifest Systems For Establishing a Recycling-Based Society」(共著)、2013年、Proceedings of 2013 World Congress of International Solid Waste Association (ISWA), Vienna, Austria
 - ・「A Comparative Study of Industrial Waste Manifest Systems in Japan and Korea for the Promotion of Proper Recycling」(共著)、2012年、Proceedings of 2012 World Congress of International Solid Waste Association (ISWA), Florence, Italy
 - ・「A New Concept of Final Disposal Systems for MSW management Considering Storage of Recyclable Materials and Disaster Waste」(共著)、2012年、The Proceedings of 7th Asian-Pacific Landfill Symposium, Bali, Indonesia
- 【報告書】
- ・「焼却排ガスの活用による都市ごみ焼却残渣の炭酸化処理による温室効果ガス削減及び海面埋立処分場の安定化促進に関する研究」(単独)、2018年2月、廃棄物の適正処理・水処理に係る調査研究助成、大阪湾広域臨海環境整備センター
 - ・「産業廃棄物不適正処理事案における環境修復の取組から得られたもの」～四日市市大谷知・平津事案のリスクコミュニケーションを通じて～(共著)、2016年3月、三重県環境生活部廃棄物対策局
 - ・「東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究」(共著)、2013年～2014年、環境研究総合推進費、環境省
 - ・「産業廃棄物マニフェスト情報の信頼性の確保と多面的活用策の検討」(共著)、2011年～2014年、環境研究総合推進費、環境省
 - ・「バイオマスの利活用を基軸とした地域循環圏のモデル化と普及方策に関する研究」(共著)、2010年～2013年、環境研究総合推進費、環境省
 - ・「不適正な最終処分システムの環境再生のための社会・技術システムの開発」(共著)、2007年～2010年、廃棄物処理等科学研究、環境省
 - ・「三重県の環境修復技術システムの今後のあり方に関する研究」(共著)、2009年～2011年、三重県研究委託

■社会貢献活動

- ・公益財団鳥取県環境管理事業センター 平議員、2017年6月～
- ・鳥取県東部広域行政管理組合 指定管理者選考委員会 委員、2017年5月～
- ・焼却灰リサイクル推進検討委員会 (鳥取中部ふるさと広域連合) 委員、2014年～2015年
- ・鳥取県東部地域循環計画策定協議会 (環境省地域循環圏形成モデル事業) 委員、2014年、2015年
- ・八東川クリーンアップ大作戦実行委員会 委員、2015年～
- ・三重県四日市市大谷知・平津事案に関する三者協議 (学識経験者) (2011年3月より四者協議に変更)、2008年～

門木 秀幸



准教授

MONGI, Hideyuki

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■ 主な担当科目	廃棄物マネジメント学、廃棄物学入門
■ 研究者略歴	
1995 (平成 7) 年 3月	信州大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了
1997 (平成 9) 年 4月	鳥取県倉吉保健所 (～平成11年6月)
1999 (平成11) 年 7月	鳥取県廃棄物対策課 (～平成14年3月)
2002 (平成14) 年 4月	鳥取県衛生研究所 (現鳥取県衛生環境研究所) 研究員
2008 (平成20) 年 3月	鳥取大学大学院工学研究科社会開発工学専攻博士後期課程修了
2008 (平成20) 年 4月	鳥取県衛生環境研究所環境化学室研究主任
2010 (平成22) 年 4月	鳥取県衛生環境研究所リサイクルチームチーム長
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2018 (平成30) 年 7月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻講師
2020 (令和 2) 年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科/大学院環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■ 取得学位	博士 (工学、鳥取大学)
■ 専門分野	環境分析、廃棄物・リサイクル工学
■ 現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物、リサイクル製品の分析及び安全性に関する研究 ・ レアメタル等の再資源化技術に関する研究 ・ 廃棄物に含まれる有害物質管理に関する研究
■ 受賞歴	2009年 (平成21年) 8月 全国環境研協議会中国・四国支部長表彰 2010年 (平成22年) 2月 全国環境研協議会会長表彰 2016年 (平成28年) 5月 廃棄物資源循環学会有功賞
■ 所属学会	廃棄物資源循環学会、資源・素材学会、日本分析化学会、日本環境化学会
■ 資格	二級知的財産管理技能士 (管理業務)

Data

■ 研究等活動	
【著書】	・「廃棄物関連試料の分析マニュアル」、2015年5月、一般社団法人廃棄物資源循環学会 (共著)
【論文】	・「Determination of lead by stripping voltammetry with a disposable cartridge for quality control of municipal solid waste molten slag」(共著)、2011年、Microchemical Journal, Vol.97, pp.220-224 ・「ジフェニルカルバジド吸光光度法によるばいじん溶出試験でのクロム (VI) 分析における妨害除去法の検討」(共著)、2017年、Vol.66、No.9、pp. 693-698
【特許】	・「リン酸イオン吸着剤の製造方法、リン酸イオン回収方法、リン酸肥料の製造方法、リン酸イオン吸着剤」(共同発明)、特許 2010-028938 ・「フッ素除去剤、フッ素含有液の処理方法」(共同発明)、特許 2012-023795 ・「ガラスからの重金属の分離方法」(共同発明)、特許 2012-248553 ・「ガラスからの重金属類の分離方法」(共同発明)、特許 2013-557511 ・「廃電子基板からの金属の回収方法」(共同発明)、特許 2014-046258
■ 社会貢献活動	・ 産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法改正検討委員会委員 (～平成30年度) ・ 廃棄物資源循環学会中国四国支部理事 ・ 廃棄物資源循環学会試験・検査法研究部会幹事

太田 太郎

OHTA, Taro

准教授

所属…環境学部環境学科、大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ oota-t@kankyo-u.ac.jp

Profile
Research
Data

■ 主な担当科目 鳥取学、麒麟の知、漁業資源保全学、水域生態学

■ 研究者略歴

1997 (平成 9) 年 3月	京都大学農学部水産学科卒業
1999 (平成11) 年 3月	京都大学大学院農学研究科修士課程応用生物科学専攻修了
1999 (平成11) 年 4月	京都大学大学院農学研究科博士後期課程応用生物科学専攻進学 日本学術振興会特別研究員 (DC 1) 採用
2002 (平成14) 年 3月	京都大学大学院農学研究科博士後期課程応用生物科学専攻研究指導認定
2002 (平成14) 年 4月～	鳥取県職員に採用 所属：農林水産部水産振興局水産課 鳥取県栽培漁業センター
2016 (平成28) 年 3月	鳥取県水産試験場 など
2004 (平成16) 年 3月	京都大学大学院農学研究科応用生物化学専攻博士課程修了 (農学博士)
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター特准教授
2019 (平成31) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2020 (令和 2) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授 兼 環境経営研究科環境学専攻准教授

■ 取得学位 農学博士 (京都大学)

■ 専門分野 魚類生態学、水産資源生物学、漁業制度及び漁業法令

■ 現在の研究テーマ ・水産生物の資源生態 ・鳥取県における漁業制度

■ 所属学会 日本水産学会 ほか

■ 資格 潜水士、日本さかな検定1級

- 研究等活動**
- 【著書】**
- ・「有明海のズスキの初期生態を探る」, 稚魚学—多様な生理生態を探る (共著), 株式会社生物学研究者, 東京, 2008, pp. 277-286
 - ・「耳石による回遊履歴追跡」, スズスキと生物多様性 (共著), 恒星社厚生閣, 東京, 2002, pp. 91-102.
- 【論文】**
- ・ Numerical simulation of the migration and distribution of diamond squid (*Thysanoteuthis rhombus*) in the southwest Sea of Japan. (共著) Fisheries Oceanography 2009; 19: 63-75.
 - ・ Prevalence and intensity of *Phrixocephalus umbellatus* (Copepoda: Siphonostomatoida: Pennellidae) parasitic on *Paralichthys olivaceus* in the western part of the Sea of Japan. (共著) Fisheries Science 2009; 73: 214-216.
 - ・ Tagging studies on the diamond squid (*Thysanoteuthis rhombus*) in the western Sea of Japan. (共著) Bulletin of the Japanese Society of Fisheries Oceanography 2008; 72: 30-36.
 - ・ Migration of Japanese temperate bass *Lateolabrax japonicus* juveniles within the Chikugo River estuary revealed by $\delta^{13}C$ analysis. (共著) Marine Ecology Progress series 2008; 358: 245-256.
 - ・ Distribution of Japanese temperate bass, *Lateolabrax japonicus*, eggs and pelagic larvae in Ariake Bay. (共著) Ichthyological Research 2007; 54: 367-373.
 - ・ 稚魚期を有明海湾奥部河口域で過ごしたズスキの成長. (単著) 海洋と生物 2007; 29: 33-39.
 - ・ Effects of river flow on larval growth and survival of Japanese seaperch *Lateolabrax japonicus* (Pisces) in the Chikugo River estuary, upper Ariake Bay. (共著) Journal of Fish Biology 2006; 69: 1662-1674.
 - ・ Environmental effect on diet, fecundity and condition of an endangered fish *Neosalanx reganius* (Osmeriformes) in the Chikugo Estuary, in the upper Ariake Bay, Japan. Aquat. Living Resour. 2006; 19: 59-68.
 - ・ Diel and tidal changes in the distribution and feeding habits of Japanese temperate bass *Lateolabrax japonicus* juveniles in the surf zone of Ariake Bay. (共著) Ichthyological Research 2006; 53: 129-136.
 - ・ Age, growth and hatching season of the diamond squid *Thysanoteuthis rhombus* estimated from statolith analysis and catch data in the western Sea of Japan. (共著) Fisheries Research 2006; 80: 211-220.
 - ・ Laboratory Observations On the early life stages of the diamond squid *Thysanoteuthis rhombus*. (共著) Journal of Molluscan Studies 2006; 72: 199-205.
 - ・ Catch fluctuations of the diamond squid *Thysanoteuthis rhombus* in the Sea of Japan and models to forecast CPUE based on analysis of environmental factors. (共著) Fisheries Research 2005; 72: 71-79.
 - ・ 有明海湾奥部の干潟丁線域に出現する仔稚魚. (共著) 魚類学雑誌 2002; 49: 109-120.
 - ・ 筑後川河口で採集されたアリアケシラウオ仔魚の形態. (共著) 魚類学雑誌 2002; 49: 103-108.
 - ・ Use of otolith microanalysis to determine estuarine migrations of Japanese sea bass *Lateolabrax japonicus* distributed in Ariake Sea. (共著) Fish. Sci. 1998; 64: 740-743.
 - ・ Otolith Sr concentration analyzed by PIXE in Ariake estuary dependent sea bass juveniles. (共著) Int. J. PIXE 1997; 7: 147-151.
- 【報告書・その他】**
- ・ 多様な水産資源を育む漁業保全のあり方について～山陰鳥取の海を実例に～. 第18回全国漁港漁場整備技術研究会講演集 I - X.
 - ・ 鳥取県中部海域におけるアマモ場の季節消長と生物群集構造について—II 葉上付着生物と底生生物の動態について. 2018年度地域イノベーション研究: 53-62
 - ・ 鳥取県東部大谷海岸における藻場の季節消長と魚類相把握の試み. 2017年度地域イノベーション研究: 24-33.
 - ・ 漁師のおすすめ「お魚暦」(編著). 公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター. 2018年3月.
 - ・ 鳥取市における漁業振興にかかる諸課題の抽出. (単著) 鳥取市総合政策調査委託報告書. 2018年3月.
 - ・ 鳥取県中部海域におけるアマモ場の季節消長と生物群集構造について. 2016年度地域イノベーション研究: 22-29.
 - ・ 日本海沿岸域におけるリアルタイム急潮予測システムの開発と急潮発生機構の解明. (共著) について 2016; 129: 16-27.
- 【共同研究】**
- ・ 「大規模沖合養殖システム実用化研究」: 「知」の集積と活用による革新的技術創造促進事業 (2018年-2021年). 参画機関研究者.
 - ・ 「ソデイカの移動回遊生態の解明と漁況予測・資源管理モデルの開発」: 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業 (2004年-2006年). 参画機関研究者 (2004年-2006年).
 - ・ 「日本海沿岸域におけるリアルタイム急潮予測システムの開発」: 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業 (2012年-2014年). 参画機関研究者 (2012年-2013年).
- 社会貢献活動**
- ・ 鳥取県漁業協同組合外部アドバイザー (H28～)
 - ・ 鳥取県沖合底曳網漁業協会外部アドバイザー (H28～)
 - ・ 鳥取県中部地区水産業再生委員会 委員 (H30～)
 - ・ 海と日本のプロジェクトin鳥取 実行委員 (H31～)
 - ・ 鳥取県漁業取締船「はやぶさ」代船建造基本設計業務公募型プロポーザル審査会 会長 (H30年度)
 - ・ 八頭町公共施設のあり方検討委員会 委員長 (H28年度)
- 【講演等】**
- ・ 第18回全国漁港漁場整備技術研究会「基調講演 多様な豊かな漁場環境保全のあり方について ～山陰鳥取の海を実例に～」(R1年10月)
 - ・ 岩美まちづくり協議会「むらなかなキャンパスを拠点とした岩美町と公立鳥取環境大学の連携」(H31年4月)
 - ・ 公立鳥取環境大学市民公開講座「豊かな水産資源を育む沿岸域」講師 (岩美むらなかなキャンパス会場) (H30年12月)
 - ・ 日本海テレビ「海と日本のプロジェクトinとっとり」: 企画、運営 (R1年7月、H30年8月、H29年8月)
 - ・ 河内川を考える会 講演 (H30年4月) など
- 【集中講義】**
- 非常勤講師: 京都大学大学院農学研究科 (修士課程) 応用生物科学特別講義Ⅶ (R1年6月)

山本 敦史

YAMAMOTO, Atsushi



准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻URL <http://pfos.jp>E-Mail atyamamo@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目	化学概論、化学実験、環境分析化学特論
■ 研究者略歴	
1993 (平成 5) 年3月	鳥取県立鳥取西高等学校卒業
1997 (平成 9) 年3月	九州大学理学部化学科卒業
1999 (平成11) 年3月	九州大学大学院理学研究科化学専攻修了
1999 (平成11) 年4月	ユニチカ株式会社
2000 (平成12) 年4月	大阪市立環境科学研究所
2014 (平成26) 年3月	関西大学大学院理工学研究科博士課程修了、博士 (工学)
2016 (平成28) 年4月	公立鳥取環境大学環境学部講師
2018 (平成30) 年4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 大学院環境経営研究科 環境学専攻 准教授

Research

■ 取得学位	博士 (工学) (関西大学)
■ 専門分野	分析化学、質量分析
■ 現在の研究テーマ	・ 環境中残留性汚染物質の分析、生体影響評価 ・ 暮らしに身近な化学物質のリスク評価 ・ 食品中の栄養成分等の探索
■ 受賞歴	2017年 (平成29年) 5月 奨励賞 (日本質量分析学会)
■ 所属学会	日本環境化学会、アメリカ化学会、日本質量分析学会、日本食品衛生学会

Data

■ 研究等活動	
【報文・総説・解説】	<ul style="list-style-type: none"> ・ A Bayesian approach for estimating hexabromocyclododecane (HBCD) diastereomer compositions in water using data below limit of quantification Makiko Ichihara, Atsushi Yamamoto, Naoya Kakutani, Miki Sudo, Koh-ichi Takakura Environ. Sci. Pollut. Res., 24, 2667-2674(2017), doi: 10.1007/s11356-016-7990-5 ・ Distribution of perfluoroalkyl compounds in Osaka Bay and coastal waters of Western Japan Vladimir P Beskoski, Katsuya Yamamoto, Atsushi Yamamoto, 他 7 名 Chemosphere, 170, 260-265 (2017), doi: 10.1016/j.chemosphere.2016.12.028 ・ Reevaluation of stockpile amount of PFOS-containing aqueous film-forming foam in Japan: gaps and pitfalls in the stockpile survey Yasuyuki Zushi, Atsushi Yamamoto, Kiyotaka Tsunemi, Shigeki Masunaga Environ. Sci. Pollut. Res., 24, 6736-6745 (2017), doi: 10.1007/s11356-017-8374-1 ・ Defluorination of perfluoroalkyl acids is followed by production of monofluorinated fatty acids. Vladimir P Beskoski, Atsushi Yamamoto, 他 6 名 Sci Total Environ, 636, 355-359 (2019), doi: 10.1016/j.scitotenv.2018.04.243
【学会・研究会】	<ul style="list-style-type: none"> ・ Accurate Mass Spectra Worth Reading for Food and Environmental Analysis SCIEX users meeting in 66th American Society of Mass Spectrometry Annual Conference (サンディエゴ: 2018 年) 招待 ・ LC/QTOF hybrid MS で環境試料ノンターゲット一括分析 第 27 回 環境化学討論会共催イベント (沖縄: 2018 年) ・ ノンターゲット分析による環境試料中の化合物同定 日本質量分析学会・日本プロテオーム学会合同大会 (大阪: 2018 年) ・ Screening and quantitative analysis of non-intentionally added substances eluted from PET bottle by high-resolution mass spectrometry 22rd International Mass Spectrometry Conference (フィレンツェ: 2018 年) ・ Non-target analysis with high-resolution mass spectrometry for environmental samples Environmental Protection, Prevention, Monitoring and Remediation (ベオグラード: 2018 年) 招待 ・ Non-target analysis for environmental samples using high-resolution mass spectrometry and its data interpretation 第 2 回ケミカルハザードシンポジウム (愛媛: 2018 年) 招待 ・ 衛生・環境分野における質量分析法の活用: 課題と展望 第 15 回鳥取県・江原道環境衛生学会 (鳥取: 2019 年) 招待 ・ Data analysis of non-target environmental monitoring by a universal program, MS-DIAL 第 8 回アジアオセアニア質量分析学会 (マカオ: 2020 年)
【教科書】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器分析ハンドブック 1 有機・分光分析編 (化学同人: 2020 年)
■ 社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥取県分析技術勉強会世話人 ・ 鳥取県リサイクル技術・製品実用化事業補助金審査会委員長 (2018 年) ・ 鳥取県環境影響評価審査会委員 (2018 年～) ・ 日本質量分析学会理事 (2019 年～)

戸莉 丈仁



准教授

TOGARI, Taketo

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

URL <https://mizukankyo-togari.amebaownd.com/>

E-Mail t-togari@kankyo-u.ac.jp

Profile

主な担当科目	水質管理学、水質汚濁防止、水処理技術
研究者略歴	
2001 (平成13) 年 3月	金沢大学工学部土木建設工学科 卒業
2003 (平成15) 年 3月	金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程 修了
2003 (平成15) 年 4月	石川県土木部河川課
2005 (平成17) 年 4月	石川県北河内ダム建設事務所建設課
2007 (平成19) 年 4月	石川県県央土木総合事務所都市施設課
2010 (平成22) 年 4月	石川県環境部水環境創造課
2014 (平成26) 年 4月	石川県南加賀土木総合事務所河川砂防課
2016 (平成28) 年 3月	金沢大学大学院自然科学研究科環境科学専攻 博士後期課程 修了、博士 (工学)
2016 (平成28) 年 4月	石川県県央土木総合事務所維持管理課
2017 (平成29) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部講師
2017 (平成29) 年 7月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻講師
2019 (平成31) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部 准教授
2019 (平成31) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授

Research

取得学位	博士 (工学) (金沢大学)
専門分野	下水道工学、水処理工学、バイオマス利活用 (汚泥処理)、水環境保全
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 下水汚泥と廃棄物系バイオマスによる混合消化 下水汚泥へのマイクロ波照射前処理による嫌気性消化効率化 中小規模市町村における生活排水処理システム評価 硝化脱窒による処理水処理場内循環利用システム
受賞歴	令和元年第56回環境工学研究フォーラム論文賞
所属学会	土木学会、日本水環境学会、日本下水道協会
資格	技術士 (上下水道部門)

Data

研究等活動	
【論文 (査読有)】	
・「オキシデーションディッチ汚泥の高濃度高温消化に及ぼす稲わらの添加効果」 (共著)、2019年12月、土木学会論文集G (環境) Vol.75(No.7) III 451 - III 459	
・「混合メタン発酵基質としての浄化槽汚泥のエネルギー価値評価」 (共著)、2019年12月、土木学会論文集G (環境) Vol.74(No.7) III 135 - III 143	
・「下水汚泥と稲わらの混合メタン発酵による地域内資源循環システムに関する研究」 (共著) (筆頭)、2018年12月、土木学会論文集G (環境) Vol.74(No.7) 215-223	
・「下水汚泥との混合メタン発酵に向けたスーパーマーケット拠点方式生ごみ分別収集システム」 (共著) (筆頭)、2017年11月、土木学会論文集G (環境) Vol.73,2017, pp.III 105-113	
・「Methane Recovery and Microbial Community Analysis of a High Solid Thermophilic Co-digestion of Sewage Sludge and Waste Fried Tofu」 (共著)、2016年10月、Journal of Water and Environment Technology, Vol.14, No.5, pp.319-328	
・「Effects of microwave pretreatment of dewatered sludge from an oxidation-ditch process on the biogas yield in mesophilic anaerobic digestion」 (共著) (筆頭)、2016年8月、Journal of Water and Environment Technology, Vol.14, No.3, pp.158-165	
・「Anaerobic digestion of sewage sludge with high solid content and its use as fertilizer」 (共著)、2015年10月、Journal of Water and Environment Technology, Vol.13 No.5 2015, pp.349-358	
・「OD汚泥と廃油揚げを主体とする7種の廃棄物系バイオマスの高濃度混合消化」 (共著) (筆頭)、2014年12月、土木学会論文集G (環境) Vol.70,2014, pp.III 425-432	
・「Comparative performance of mesophilic and thermophilic anaerobic digestion for high-solid sewage sludge」 (共著)、2013年12月、Bioresour Technol, Volume 149, December 2013, pp.177-183	
・「オキシデーションディッチ汚泥と廃油揚げを用いた高濃度混合嫌気性消化」 (共著) (筆頭)、2013年11月、土木学会論文集G (環境) Vol.69, 2013, pp.III 597-603	
【報告書】	
・「小規模処理場施設に適したメタンガス有効利用支援に関する共同研究報告書」 (共著)、2014年6月、独立行政法人土木研究所	
・「稲わらと下水汚泥の高濃度混合高温消化と炭化を核とした地域内循環システムに関する研究報告書」 (共著)、2019年3月、国土技術政策総合研究所 下水道革新的技術実証事業 (B-DASHプロジェクト)	
【総説】	
・「下水汚泥のリサイクルと小規模下水処理場向け高濃度混合メタン発酵技術」 (共著)、2015年9月、日本エネルギー学会誌, 第94巻7号, 2015, pp.705-714	
【国際会議】	
・「Anaerobic digestion of highly concentrated sewage sludge for sludge management in small cities」 (共著)、2014年9月、IWA World Water Congress & Exhibition, Lisbon, Portugal	
・「Anaerobic co-digestion of highly-concentrated sewage sludge and organic wastes for small facilities」 (共著)、2013年6月、13th World Congress on Anaerobic Digestion, June 25-28, Santiago de Compostela, Spain, p.220	
・「Mesophilic co-digestion of sewerage sludge in the oxidation-ditch process and wasted fried tofu」 (共著)、2012年12月、Proceedings of the 4th IWA Asia-Pacific Young Water Professionals Conference 2012 Tokyo, pp.148-151.	
【社会貢献活動】	
・「よなご未利用エネルギー活用事業」 事業可能性調査業務検討委員会委員長 (2019年～2020年)	
・倉吉市下水道使用料審議会委員 (2018年～2019年)	
・鳥取市下水道等事業運営審議会委員 (2018年～)	
・鳥取市水道事業審議会委員 (2018年～2020年)	
・鳥取県農林水産部指定管理施設運営評価委員会委員 (2017年)	
・石川県下水道フォーラム講演「下水汚泥はエネルギーの源！～きらわれ者から役立つ資源(しげん)へ～」 (2018年10月)	
・鳥取市尚徳大学「下水道の役割と未来～循環型社会の構築に向けて～」 (2019年7月)	

柚洞 一央

YUHORA, Kazuhiro



准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■ 主な担当科目 人文地理学、環境地理学、自然環境と文化

■ 研究者略歴

1994 (平成 6) 年 3月	栃木県立宇都宮高等学校卒業
2001 (平成13) 年 3月	琉球大学法文学部人文学科卒業
2004 (平成16) 年 3月	筑波大学大学院教育研究科修了
2011 (平成23) 年 3月	北海道大学大学院文学研究科修了
2011 (平成23) 年 4月～	室戸ジオパーク推進協議会地理専門員
2015 (平成27) 年 4月～	徳山大学経済学部准教授
2015 (平成27) 年 4月～	高知工科大学非常勤講師 (地誌学)
2017 (平成29) 年 4月～	山口大学人文学部非常勤講師 (人文地理学・地誌学)
2018 (平成30) 年 4月～	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2018 (平成30) 年 4月～	山口大学教育学部非常勤講師 (地域人文地理学)
2018 (平成30) 年 7月～	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■ 取得学位 博士 (文学) 北海道大学、修士 (教育学) 筑波大学

■ 専門分野 地理学、ジオパーク、ジオツーリズム、地域づくり

■ 現在の研究テーマ

- ・地球と人が共存できる社会の実現
- ・主体的・対話的で深い学び
- ・養蜂からみる人と自然のつながり

■ 受賞歴 2008 (平成20) 年3月 学会賞 (奨励賞) 日本地理学会

■ 所属学会 日本地理学会 人文地理学会 日本第四紀学会 北海道地理学会 生き物文化誌学会

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・「SDGsを考える」(共著)、2020年、ナカニシヤ出版
- ・「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」(共著)、2019年、今井出版
- ・「Natural Heritage of Japan: Geological, Geomorphological, and Ecological Aspects」(共著)、2017年、Springer
- ・「フィールドノート古今東西 (FENICS100万人のフィールドワーカーシリーズ13)」(共著)、2016年、古今書院
- ・「中部・近畿・四国のジオパーク (シリーズ大地の公園)」(共著)、2015年、古今書院
- ・「生き物文化の地理学 (ネイチャー・アンド・ソサエティ研究第2巻)」(共著)、2013年、海青社

【論文】

- ・「室戸高校における地理学的視点を取り入れたジオパーク教育」(共著)、2016年、『地学雑誌』125(6)
- ・「ジオパーク活動における地理学的視点の役割」(共著)、2014年、『E-journal GEO』9(1)
- ・「多自然川づくりとは何だったのか?」(共著)、2012年、『E-journal GEO』7(2)
- ・「Bank Erosion along the Rajang River in Malaysia」(共著)、2009年、『地理学論集』84号
- ・「「花蜜資源」を求めて: -アルゼンチンにおける日系人養蜂業者の移動と経営戦略-」、2007年、『地理学論集』82号
- ・「日本の養蜂業における移動空間の狭域化と生産形態の多様化」、2006年、『地理学評論』79(13)

■ 社会貢献活動

- ・世界ジオパークネットワーク個人会員
- ・日本ジオパークネットワーク現地審査員
- ・Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会委員
- ・萩ジオパーク推進協議会顧問
- ・周南市地域とともにある学校づくり推進協議会会長 (周南市教育委員会)
- ・鳥取県河川委員会委員

市民向け講演・グループワークファシリテーター実績多数

テーマ: 青少年教育、不登校・発達障害、助け合い社会の実現 (福祉)、人権教育、地域住民主体の地域づくりなど

佐藤 伸

SATO, Shin



准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

s-sato@kankyo-u.ac.jp

Profile

主な担当科目 微生物学概論, バイオマス変換論, 有機資源利用学, 応用化学概論(分担), 生物学実験(分担)

研究者略歴

1999 (平成11) 年 3月	弘前大学農学部農業生産科学科卒業
2001 (平成13) 年 3月	京都大学大学院農学研究科博士前期過程終了
2005 (平成17) 年 3月	京都大学大学院農学研究科博士後期過程終了 農学博士
2005 (平成17) 年 4月	京都大学生存圏研究所非常勤研究員
2005 (平成17) 年 5月	米国ペンシルベニア州立大学ポストドクトラルフェロー
2007 (平成19) 年 8月	京大大学生存圏研究所産学官連携研究員
2008 (平成20) 年 4月	京大大学生存圏研究所教務補佐員
2008 (平成20) 年 5月	長岡技術科学大学工学部産学官連携研究員
2009 (平成21) 年 4月	鳥取環境大学環境マネジメント学科講師
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2013 (平成25) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科・同大学院環境情報学研究所環境情報学専攻准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科・同大学院環境情報学研究所環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

取得学位 農学博士 (京都大学)

専門分野 応用微生物学, 生物有機化学

現在の研究テーマ
 ・キノコによる加硫天然ゴム分解メカニズムの解明
 ・加硫ゴム生物脱硫作用の応用
 ・キノコを使ったゴムリサイクル技術の開発

受賞歴
 ・2019年9月 (株)リバネス・マリンテックグランプリ・三井化学賞
 ・2002 (平成14) 年12月 若手優秀発表者 (第15回エラストマー討論会)

所属学会 日本木材学会、日本農芸化学会、高分子学会、日本生物工学会、日本ゴム協会

Data

研究等活動

- 【査読付き投稿論文】**
- ・[Degradation of sulfide linkages between isoprenes by lipid peroxidation catalyzed by manganese peroxidase] S. Sato, Y. Ohashi, M. Kojima, T. Watanabe, Y. Honda, T. Watanabe. 2009 [Chemosphere] 77, 798-804
 - ・[The first genome-level transcriptome of wood degrading fungus *Phanerochaete chrysosporium* grown on red oak] S. Sato, F.A. Feltus, P. Iyer, M. Tien. 2009 [Current Genetics], 55, 273-286
 - ・[Expression Analysis of Extracellular proteins from *Phanerochaete chrysosporium* grown on different liquid and solid substrates], 2007, [Microbiology], 153, 3023-3033
 - ・[Microbial scission of sulfide linkages in vulcanized natural rubber by *A white rot basidiomycete, Ceriporiopsis subvermiformis*. S. Sato, Y. Honda, M. Kuwahara, H. Kishimoto, N. Yagi, M. Muraoka, T. Watanabe. 2004 [Biomacromolecules] 5, 511-515
 - ・[Degradation of vulcanized and nonvulcanized polyisoprene rubbers by lipid peroxidation catalyzed by oxidative enzymes and transition metals] . S. Sato, Y. Honda, M. Kuwahara, T. Watanabe. 2003 [Biomacromolecules] 4, 321-329

【著書】
 ・「白色腐朽菌およびバイオメテックラジカル反応による加硫および未加硫ゴムの分解」環境修復と有用物質生産 (共著)、2003年シーエムシー出版

【総説】
 ・「白色腐朽菌およびバイオメテックラジカル反応による加硫および未加硫ゴムの分解」2002年「月間エコインダストリー」、第17巻、12号

【紀要】
 ・「ナシ剪定枝堆肥化における木材腐朽菌処理効果について」公立鳥取環境大学紀要第14号 2016 71-77
 ・「木質系バイオマスの成分利用を目的とする研究の取り組み」鳥取環境大学紀要第8号 2010 250-251

【特許】
 ・ゴム組成物およびその製造方法、ならびに該ゴム組成物を用いた空気入りタイヤ (特願2004-311254、平成16年10月26日) 佐藤伸、渡辺隆司、岸本浩通、八木則子、村岡清繁
 ・リグニン分解酵素によって分解処理された酵素分解ゴムを有するゴム組成物およびその製造方法、ならびにこれを用いた空気入りタイヤ (特願2004-044231、平成16年2月20日) 佐藤伸、渡辺隆司、岸本浩通、八木則子、村岡清繁
 ・木材腐朽菌による加硫ゴム組成物の分解処理法 (特願2002-2631128、平成14年9月9日) 佐藤伸、渡辺隆司、岸本浩通、八木則子、村岡清繁

【研究発表】

- ・「キノコによる加硫イソプレングム分解挙動の解析」エラストマー討論会 (東京) 2019年12月
- ・[Potential for wood rotting basidiomycetes for recycle of vulcanized rubber products] International Rubber Conference (London, England) 2019年9月
- ・「木材腐朽担子菌シロカイメンタケによる加硫ゴムの分解」日本木材学会 (函館アリーナ) 2019年3月
- ・「木材腐朽菌による加硫天然ゴムの分解」日本生物工学会 (関西大学) 2018年9月
- ・「木材腐朽菌による加硫天然ゴムの分解」日本農芸化学会 (名城大学) 2018年3月
- ・「木材腐朽菌による加硫ゴムの分解」日本農芸化学会関西・西日本支部合同大会園学会 (大阪府立大学) 2017年9月
- ・「木材腐朽菌による加硫ゴムの分解」日本園学会 (東北大学) 2017年8月
- ・[Application of microbial processes for utilization of waste woody biomass and synthetic wastes] Intrenational symposium "Ecological problems of nature management and environmental protection in the Asia and Pacific region" Vladivostok, Ru., Sept. 2015.
- ・[Field survey of disaster-generated marine debris in Hokkaido af t er great east Japan earthquake] Pacific RIM Marine Debris Conference, Honolulu, Hawaii Oct. 2013
- ・[Alternative technologies for waste biomass utilization] Workshop on waste biomass utilization, Anna Univ., Chennai, India, Aug. 2013
- ・[Utilization of waste biomass in Japan: case studies and our evaluation methods] ICWME 2013, Malaya Univ., Malaysia, Aug. 2013

【研究報告書】

- ・平成25年度環境研究総合推進費補助金事業 (環境省) 「東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究」第3章
- ・平成25年度環境研究総合推進費補助金事業 (環境省) 「日本からアジアに展開する廃棄物計バイオマス利活用による3R定着に関する研究」第3章
- ・平成24年度環境研究総合推進費補助金事業 (環境省) 「東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究」第3章
- ・平成23年度環境研究総合推進費補助金事業 (環境省) 「日本からアジアに展開する廃棄物計バイオマス利活用による3R定着に関する研究」第3章
- ・平成23年度循環型社会形成推進化学研究費補助金事業 (環境省) 「日本海に面した海岸における海ごみの発生抑制と回収処理の促進に関する研究」第2章
- ・平成23年度環境研究総合推進費補助金事業 (環境省) 「日本からアジアに展開する廃棄物計バイオマス利活用による3R定着に関する研究」第3章
- ・平成22年度循環型社会形成推進化学研究費補助金事業 (環境省) 「日本海に面した海岸における海ごみの発生抑制と回収処理の促進に関する研究」第2章
- ・平成21年度循環型社会形成推進化学研究費補助金事業 (環境省) 「日本海に面した海岸における海ごみの発生抑制と回収処理の促進に関する研究」第2章

社会貢献活動

- 【中・高等学校出前講義】**
- ・「珍発見!? ゴムを再生するキノコ」夢ナビライブ 2019年7月
 - ・「海岸漂着プラスチックによる環境汚染」京都府立久美浜高校 2019年2月
 - ・「食べるだけがきのこじゃない!? きのこのちからでゴムをリサイクル」夢ナビライブ 2018年7月
 - ・「海岸漂着プラスチックから考える環境問題」鳥取県立鳥取東高校 2017年6月
 - ・「微生物をつかったバイオマス変換一紙から作るバイオエタノール」岐阜県立大垣西高 2014年10月31日
- 【鳥取環境大学公開講座】**
- ・「食べるだけがきのこじゃない!? きのこのちからでゴムをリサイクル」2018年5月
 - ・「木を分解する菌類のお話」2013年10月
- 【地域活動など】**
- ・第263回木材加工研究会での講演 2018年12月
 - ・中海ケーブルテレビ 未来への授業出演 2018年7月
 - ・鳥取県グリーン商品認定審査会委員
 - ・八東川クリーンアップ大作戦実行委員会委員

角野 貴信

KADONO, Atsunobu



准教授

所属… 環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

URL <https://sites.google.com/site/kadonoslab/> <http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g007308> kadono@kankyo-u.ac.jp

Profile

主な担当科目	基礎土壌学、環境土壌学、水環境学
研究者略歴	<ul style="list-style-type: none"> 2000 (平成12) 年 3月 京都大学農学部生産環境科学科卒業 2006 (平成18) 年 4月 地球環境学研究所リサーチアシスタント 2008 (平成20) 年 3月 京都大学農学研究科博士後期課程修了、博士 (農学) 2008 (平成20) 年 4月 日本原子力研究開発機構博士研究員 2009 (平成21) 年 1月 首都大学東京都市環境科学研究科助教 2010 (平成22) 年 8月 米国オハイオ州立大学博士研究員 2011 (平成23) 年 9月 鳥取環境大学人間形成教育センター講師 2012 (平成24) 年 4月 鳥取環境大学環境学部環境学科講師 2013 (平成25) 年 4月 鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授 2015 (平成27) 年 4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授 2016 (平成28) 年 4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科准教授

Research

取得学位	博士 (農学) (京都大学)
専門分野	生物地球化学、土壌学
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川懸濁物質の組成および同位体データベースを用いた表層崩壊検知システムの構築 ・ 不撓乱土壌を用いた土壌炭素蓄積過程の高精度モニタリングとその反応力学的解析 ・ 土壌の吸着ポテンシャルと土壌溶液中のイオン組成が団粒安定化プロセスに与える影響 ・ 土壌資源利用の文化的差異とダークツーリズムへの応用 ・ 持続的な土壌管理に資する土壌劣化評価手法の開発
受賞歴	2009 (平成21) 年4月 日本ペドロジー学会論文賞 2017 (平成29) 年3月 日本ペドロジー学会論文賞
所属学会	日本土壌肥料学会、日本ペドロジー学会、日本生態学会、アメリカ土壌科学会、日本水環境学会

Data

研究等活動	<p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4-4 チェルノゼムにおけるコムギ栽培と土壌有機物分解 (共著 (4-4節を単著)) 日本土壌肥料学会「土のひみつ」編集グループ (編)「土のひみつ」朝倉書店, pp.96-99, 2015 ・ 10.4.2 Soil organic carbon change. (共著) Status of the World's Soil Resources, FAO, pp. 299-300., 2015 ・ Could Soil Acidity Enhance Sequestration of Organic Carbon in Soils? (共著) A.E. Hartemink and K. McSweeney (Eds) Soil Carbon, Springer International Publishing, pp.209-216., 2014 ・ 第10章 土壌学から見た地理学 (共著 (第10章を単著)) 伊藤修一ら (編)「役に立つ地理学」古今書院., 2012 ・ Soil resources and human adaptation in forest and agricultural ecosystems in humid Asia (共著) R. Lal and B.A. Stewart (Eds) World soil resources and food security, Taylor & Francis, Boca Raton, pp.169-167., 2011 <p>【論文・報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不撓乱環境下における土壌有機物代謝過程の分子力学的解析, 地域イノベーション研究, 5: 19-23, 2018 ・ ミネラルウォーターのおいしさに係る簡単な水質指標の導出 (共著) 鳥取環境大学紀要 15, 103-108, 2017 ・ Ecological state of soil and land resources of the Russian Far East (共著) The Territory of New Opportunities 4, 166-175, 2016 ・ 中国内モンゴル自治区フルンポイル草原において観光行動が草原退化に及ぼす影響 (共著) ペドロジスト 59 (2), 52-62, 2015 ・ 中国内モンゴル自治区の牧畜業において土地利用様式の違いが植生及び土壌に与える影響 (共著) ペドロジスト 59 (2), 41-51, 2015 ・ In situ short-term dynamics of CO₂ flux and microbial biomass after simulated rainfall in dry croplands in four tropical and continental ecosystems (共著) Soil Science and Plant Nutrition 61, 392-403., 2015 ・ Long-term tillage and drainage influences on greenhouse gas fluxes from a poorly drained soil of central Ohio (共著) Journal of Soil and Water Conservation 69 (6), 553-563., 2014 ・ Effects of climatic and soil properties on cellulose decomposition rates in temperate and tropical forests (共著) Biology and fertility of soils 50 (4), 633-643, 2014 ・ Distribution pattern of soils in the foothills of the Tianshan and Altai Mountains in Central Eurasia (共著) Pedologist 56(1): 13-27., 2012 ・ Comparison of Measurable and Conceptual Soil Organic Carbon Pools Using the RothC Model in Eurasia Steppe Soils Under Different Land Use (共著) Pedologist 55(3): 442-448., 2012 <p>【国際会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ The effect of bamboo powder application on the yield of Japanese white radish (<i>Rhaphanus sativus</i> L.) and soil properties. (共同) The 21st World Congress of Soil Sciences, Rio de Janeiro, Brazil, 2018 ・ Environmental studies for the sustainable development during the international decade of soils 2015-2025 (単独) International Symposium "Entrepreneurship as a Factor of Dynamic Development of the Russian Far East", Vladivostok, Russia, 2016 ・ Modeling of Greenhouse Gas Emission from Soils under Different Ecosystem (単独) International Symposium "Ecological Challenges of Nature Management and Environmental Protection in the Asia-Pacific Region", Vladivostok, Russia, 2015 ・ Modeling of Carbon Dioxide Emission from Cornfield Soils under Different Water Table and Tillage Management in Central Ohio, USA (共同) 20th World Congress of Soil Science, Jeju, Korea, 2014 ・ Grassland degradation caused by tourism activities in Hulunbuir, Inner Mongolia, China (共同) IOP Conference Series: Earth and Environmental Science 18 (1), 012137, 8th International Symposium of the Digital Earth (ISDE8), Kuching, Sarawak, Malaysia, 2013 ・ Influences of long-term tillage and cropping systems on corn yield and soil properties in two ecoregions of Ohio (共同) ASA, CSSA, and SSSA 2012 International Annual Meeting, Cincinnati, USA, 2012 ・ Green house gas emissions influenced by no-tillage and chisel tillage under drainage and non-drainage systems (共同) ASA, CSSA, and SSSA 2012 International Annual Meeting, Cincinnati, USA, 2012 ・ The effect of soil temperature and water content on soil respiration under different land use in central Ohio, USA (共同) ASA, CSSA, and SSSA 2012 International Annual Meeting, Cincinnati, USA, 2012 ・ Modelling of soil organic matter dynamics under different land use (単独) The 6th Annual Conference of Northeast Asia Professors Association, Tottori, Japan, 2012
社会貢献活動	鳥取県環境影響評価審査会委員 (2012年4月～2019年3月) 鳥取市子ども科学館運営委員会委員 (2015年4月～2020年3月) 淀江産業廃棄物管理型最終処分場整備計画に関する専門家会議委員 (2018年)

川口有美子

KAWAGUCHI, Yumiko



准教授

所属…環境学部 環境学科

Profile

主な担当科目 教職論, 教育原理, 教育制度論, 教育行政学

研究者略歴

2002 (平成14) 年 3月	駒澤大学経済学部経済学科 卒業
2005 (平成17) 年 3月	筑波大学大学院修士課程教育研究科教科教育専攻 (学校教育コース) 修了
2011 (平成23) 年 4月	筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科教育学専攻 単位取得退学
2008 (平成20) 年 10月	東京医科大学霞ヶ浦看護専門学校非常勤講師 (～2011年3月)
2009 (平成21) 年 4月	筑波大学附属中学校非常勤講師 (～2010年3月)
2011 (平成23) 年 5月	筑波大学人間系(教育学域)特任研究員 (～2012年3月)
2011 (平成23) 年 10月	千葉大学教育学部非常勤講師 (～2012年3月)
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2017 (平成29) 年 3月	玉川大学教育学部非常勤講師 (～現在)

Research

取得学位 修士 (教育学) 筑波大学

専門分野 学校経営学, 教育行政学

現在の研究テーマ

- ・高等学校と地域協働に関する研究
- ・学校組織における「新たな職」やスクールリーダーに関する研究
- ・学校の適正規模・配置に関する研究
- ・学校事務に関する研究

受賞歴

2010 (平成22) 年 7月 大塚学校経営研究会研究奨励賞

所属学会

日本教育学会, 日本教育経営学会, 日本教育行政学会, 日本教育社会学会, 日本教師教育学会, 日本教育制度学会, 日本教育事務学会, 日本高校教育学会, 日本義務教育学会, 大塚学校経営研究会

資格

中学校教諭専修免許状 (社会), 高等学校教諭専修免許状 (地理歴史・公民)

Data

研究等活動

【著書, 雑誌論文】

- ・「SSH, SGH, SPH」藤田晃之ほか監修『教育キーワード2019』, 2019年, 時事通信出版局, 82-83頁
- ・「研究開発学校と教育課程特例校」同上書, 116-117頁
- ・「指導力不足教員」「主幹教諭」「助教諭」「職業教育」「副校長」橋本美保編集代表『改訂版教職用語辞典』, 2019年, 一藝社, 249-250, 265, 288, 289-290, 422頁
- ・「学校の姿が変わる——貫校, 遠隔教育, 夜間中学など」「公教育の理念と原理」「教育制度と学校」「校長・副校長・教頭の資格と職務」「主幹教諭・指導教諭の職務」水本徳明編著『実践教育法規2019』総合教育技術7月号増刊, 2019年, 小学館, 8-9, 28-35頁
- ・「学校改善と組織文化の変革」浜田博文編著『学校経営』MINERVAはじめて学ぶ教職第9巻, 2019年, ミネルヴァ書房, 117-128頁
- ・「小・中学校運営体制の改革」(柏木智子氏と共著) 藤原文雄編『「学校における働き方改革」の先進事例と改革モデルの提案』, 2019年, 学事出版, 30-37頁
- ・「「チーム学校」から「チーム学園」へ—2校以上の学校と「チーム」になる意味—」日本教育事務学会研究推進委員会編『チーム学校の発展方策と地域ユニット化への戦略』, 2018年, 学事出版, 126-138頁
- ・「47都道府県の実践課題—鳥取県」「教職研修」2017年3月号, 教育開発研究所, 127頁
- ・「情報化と学校事務」学校事務実務研究会編集『小・中学校Q&A学校事務実務必携』, 2017年, ぎょうせい, 301-311頁
- ・「「チーム学校」による業務改善・事務体制の強化」, 「教員以外の専門スタッフの参画—事務職員」加藤崇英編集『「チーム学校」まるわかりガイドブック』, 2016年, 教育開発研究所, 40-41, 70頁
- ・「学校づくりと教職員の協働」小島弘道編著『学校教育の基礎知識』, 2015年, 協同出版, 383-397頁
- ・「授業改革の進展とカリキュラム」木岡一明編『教育改革をめぐる重要課題』学校マネジメント研修テキスト6, 2013年, 学事出版, 96-108頁
- ・「子どもの発達と社会」佐藤博志編著・照屋翔大・木村裕・川口有美子・高橋望共著『教育学の探究—教師の専門的思索のために—』, 2013年, 川島書店, 81-107頁
- ・「学校組織のしくみをめぐる改革の進行—「新たな職」に着目して—」浜田博文編著『学校を変える新しい力—教師のエンパワーメントとスクールリーダーシップ—』, 2012年, 小学館, 36-52頁
- ・「「改革困難な<<中堅校>>」の改革を実現した北高等学校」同上書, 193-214頁
- ・「「学校の組織化と新しい職—副校長・主幹教諭・指導教諭—」北神正行編著『「つながり」で創る学校経営』天笠茂編集代表『学校管理職の経営課題—これらのリーダーシップとマネジメント—』第4巻, 2011年, ぎょうせい, 83-99頁

【学術論文】

- ・「「チーム学校」の実現と学校事務職員の職務態様との関連—校長及び学校事務職員対象の質問紙調査から—」(諏訪英広・佐久間邦友氏と共著)『日本教育事務学会年報』第6号, 2019年, 50-61頁
- ・「「中高連携—貫教育における学校改革の意義と課題—高校改革から地域協働の教育経営へ—」『学校経営研究』第44巻, 2019年, 大塚学校経営研究会, 14-22頁
- ・「地域創生に資する市町村と県立高校の連携・協働に関する一考察—過疎地域の高校をめぐる課題の特質—」筑波大学学校経営学研究会『学校経営学論集』第6号, 2018年, 1-10頁
- ・「学校管理職とどう「チーム」を組んでいくのか」『日本教育事務学会年報』第3号, 2016年, 学事出版, 36-42頁
- ・「高等学校の初任期教員育成に関する基礎的研究—A県での事例調査を手がかりに—」筑波大学学校経営学研究会『学校経営学論集』第3号, 2015年, 41-52頁
- ・「高等学校改革を越えた異校種間「接続」—中高一貫教育制度の課題と展望—」日本教育制度学会『教育制度学研究』第20号, 2013年, 34-44頁
- ・「高等学校における学校改革の困難性と克服要因に関する一考察—「中堅校」の事例分析を通して—」『日本高校教育学会年報』第17号, 2010年, 学事出版, 48-58頁
- ・「「新たな職」をめぐる議論と実態に関する一考察—教育委員会の多様な対応と課題に着目して—」『学校経営研究』第35巻, 2010年, 大塚学校経営研究会, 36-50頁

【報告書】

- ・「学校事務職員の専門性を活かした効果的な「チーム学校」促進モデルの開発に関する研究 成果報告書」川口有美子研究代表『平成30年度公益財団法人日本教育公務員弘済会本部奨励金』, 2019年
- ・「行政と学校の両現場における条件整備を主眼とするリーダーシップ—矢掛町教育委員会」「次世代の学校」実現に向けた教育長・指導主事の資質・能力向上に関する調査研究報告書」国立教育政策研究所平成30年度プロジェクト研究報告書, 2019年, 140-143頁
- ・「事務局指導主事の人材育成の現状」同上報告書, 292-299頁
- ・「事例の概要と調査記録 中国・四国地方Q町」天笠茂研究代表『人口減少社会における地域共生に資する学校適正規模・学校適正配置に関する研究』平成26-28年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B) 事例資料集, 2014年, 171-176頁
- ・「事例の概要と調査記録 中国・四国地方Q町」同上報告書, 209-214頁

社会貢献活動

- ・鳥取県教育審議会委員 (2018～2020年度)
- ・鳥取県社会教育委員 (鳥取県社会教育委員連絡協議会副会長) (2018～2020年度)
- ・鳥取市教育委員会学校働き方改革推進委員会副委員長 (2019年度)
- ・兵庫県立浜坂高等学校学校評議員 (2019年度)
- ・鳥取市行政改革推進市民委員会委員 (2018～2019年度)
- ・鳥取市教育委員会「学校運営協議会の設置・拡充に向けた調査研究事業」(文部科学省) 指導助言者 (2018～2020年度)
- ・青翔開智中学校・高等学校「鳥取県SGH事業」運営委員 (2017年度)
- ・鳥取市教育委員会校区審議会委員 (2016～2020年度)
- ・鳥取市教育委員会「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」(文部科学省) 指導助言者 (2017～2019年度)
- ・鳥取県事業棚卸し評価者会議委員 (2015年度)
- ・鳥取県教育委員会県立学校第三者評価委員会委員 (2013～2017年度)
- ・鳥取県教育委員会学校改善モデル校支援委託業務企画提案審査委員会委員 (2014年度)
- ・鳥取県教育委員会船上山少年自然の家運営委員会委員長 (2013年度)

徳田 悠希

TOKUDA, Yuki



准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

主な担当科目	地学概論、環境地質学、地学実験
研究者略歴	<ul style="list-style-type: none"> 2006 (平成18) 年 3月 大阪市立大学理学部地球学科 卒業 2008 (平成20) 年 3月 大阪市立大学理学研究科前期博士課程 修了 2010 (平成22) 年 3月 大阪市立大学理学研究科後期博士課程 単位取得退学 2010 (平成22) 年 4月 鳥取県立博物館 学芸員 2012 (平成24) 年 4月 鳥取県立博物館 主任学芸員 2016 (平成28) 年 4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師 2016 (平成28) 年 6月 公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻 講師 2020 (令和 2) 年10月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科/環境経営研究科環境学専攻 准教授

Research

取得学位	博士(理学) (大阪市立大学)
専門分野	地質学 古生物学
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・イシサンゴ類の適応進化史の解明 ・鳥取県の中新統から産出する化石群集の再検討と古環境復元 ・山陰海岸に分布する海食洞の形成様式の解明 ・日本周辺海域における底生生物遺骸群集の分布様式の解明
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> 2009年1月 日本古生物学会 優秀ポスター賞 2009年9月 日本地質学会 優秀ポスター賞 2012年9月 日本地質学会 優秀ポスター賞 2017年9月 日本地質学会 優秀ポスター賞 2018年9月 日本地質学会 優秀ポスター賞
所属学会	日本古生物学会、日本地球惑星科学連合、日本サンゴ礁学会、鳥取地学会

Data

研究等活動

【論文 (査読あり)】

- ・Tokuda Y., and Ezaki Y. (in press) Microskeletal structures suggest taxonomic distinction between subgenera of azooxanthellate scleractinian *Flabellum*. Paleontological Research.
- ・延原尊美・大高歩美・徳田悠希・池原 研 (2018) 東海沖深海底の貝類およびサンゴ遺骸のAMS¹⁴C年代. 静岡大学地球科学研究報告, 第45号, p. 17-22.
- ・Sentoku, A., Tokuda, Y., Ezaki, Y. and Webb, G. E. (2018) Modes of regeneration and adaptation to soft-bottom substrates of the free-living solitary scleractinian *Deltocyathoides orientalis*. Lethaia, Vol. 51, pp. 102-111.
- ・Kitamura, A., Imai, T., Mitsui, Y., Ito, M., Miyairi, Y., Yokoyama, Y. and Tokuda, Y. (2017). Late Holocene uplift of the Izu Islands on the northern Zenisu ridge off Central Japan. Progress in Earth and Planetary Science, 4, 30.
- ・Tokuda, Y., Haraguchi, H., and Ezaki, Y. (2017) First real-time observation of transverse division in azooxanthellate scleractinian corals. Scientific Reports, 7, 41762.
- ・Shiino, Y. and Tokuda, Y. (2016) How does flow recruit epibionts onto brachiopod shells? Insights into reciprocal interactions within the symbiotic framework. Palaeoworld, vol. 25, p. 675-683.
- ・Sentoku, A., Tokuda, Y. and Ezaki, Y. (2016) Burrowing hard corals occurring on the sea floor since 80 million years ago. Scientific Reports, 6, 24355.
- ・和田年史・徳田悠希・一澤 圭 (2014) 鳥取県立博物館のダイオウイカ液浸展示標本. 鳥取県立博物館研究報告, 第51号, p. 67-71.
- ・Tokuda Y. and Ezaki Y. (2013) Attachment structures in *Rhizotrachus* (Scleractinia): Macro- to microscopic traits and their evolutionary significance. Lethaia, vol. 46, p. 232-244.
- ・Tokuda Y. and Ezaki Y. (2012) Asexual reproduction of Pliocene solitary scleractinian coral *Truncatoflabellum*: Morphological and biometric study. Journal of Paleontology, vol. 86, p. 268-272.
- ・和田年史・徳田悠希・山口暁美 (2012) 「総合的な学習の時間」におけるジオパークと博物館の活用事例. 鳥取県立博物館研究報告, 第29号, p. 17-28.
- ・Tokuda, Y., Ikeno, T., Goto, G. S., Numata, H., and Ezaki, Y. (2010) Influence of different substrates on the evolution of morphology and life-history traits of azooxanthellate solitary corals (Scleractinia: Flabellidae). Biological Journal of the Linnean Society, vol. 101, p. 184-192.

【論文 (査読なし)】

- ・徳田悠希・板木拓也・味岡 拓・杉崎彩子・片山 肇 (2019) 海底カメラを用いた宮古島・石垣島周辺海域の海底観察. 井上卓彦 (編) 「沖縄周辺海域の海洋地質学的研究」平成30年度研究概要報告書—宮古島・石垣島・西表島周辺海域—, no.77, 81-85.
- ・兼子尚知・板木拓也・片山肇・味岡拓・徳田悠希・千徳明日香 (2019) 宮古島・石垣島周辺海域からGK18-1航海で採取されたコケムシ類. 井上卓彦 (編) 「沖縄周辺海域の海洋地質学的研究」平成30年度研究概要報告書—宮古島・石垣島・西表島周辺海域—, no.77, 126-128.
- ・徳田悠希・千徳明日香・同前万由子・板木拓也・片山 肇・味岡 拓・杉崎彩子・鈴木 淳 (2019) 宮古島・石垣島周辺海域からGK18-1航海により採集されたサンゴ類. 井上卓彦 (編) 「沖縄周辺海域の海洋地質学的研究」平成30年度研究概要報告書—宮古島・石垣島・西表島周辺海域—, no.77, 129-131.
- ・兼子尚知・板木拓也・片山肇・杉崎彩子・山本浩万・味岡拓・西田尚央・徳田悠希 (2018) 奄美大島西方海域からGK17-2航海で採取されたコケムシ類. 板木拓也 (編) 「沖縄周辺海域の海洋地質学的研究」平成29年度研究概要報告書—石垣島・奄美大島周辺海域—, no.75, 117-120.
- ・徳田悠希・鈴木 淳・兼子尚知・板木拓也・杉崎彩子・片山 肇・山本浩万・西田尚央・味岡 拓 (2018) 奄美大島周辺海域からGK17-2航海により採集されたサンゴ類. 板木拓也 (編) 「沖縄周辺海域の海洋地質学的研究」平成29年度研究概要報告書—石垣島・奄美大島周辺海域—, no.75, 121-124.
- ・西田尚央・兼子尚知・片山肇・板木拓也・杉崎彩子・味岡拓・徳田悠希 (2018) 海底カメラを用いた奄美大島西方沖海域の海底観察. 板木拓也 (編) 「沖縄周辺海域の海洋地質学的研究」平成29年度研究概要報告書—石垣島・奄美大島周辺海域—, no.75, 152-156.
- ・徳田悠希・江崎洋一 (2016) 現生種と絶滅種の収斂進化—単体サンゴの固着器官の進化史—. タクサ 日本動物分類学会誌, 第40号, p. 3-8.
- ・林 広樹・松浦良彦・徳田悠希・河野重範 (2015) 大田市五十猛町猛鬼海岸における大森層の混在岩に含まれる泥岩塊から産出した浮遊性有孔虫化石. 島根県地学会誌, 第30号, p. 13-18.

重田 祥範

SHIGETA, Yoshinori



准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

shigeta@kankyo-u.ac.jp

Profile

主な担当科目	気象学概論, 大気環境学, 地球システム学
研究者略歴	<ul style="list-style-type: none"> 2011 (平成23) 年 3月 岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程 修了 2011 (平成23) 年 4月 立正大学地球環境科学部環境システム学科 助教 (~2015年3月) 2015 (平成27) 年 4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師 (~2017年3月) 2017 (平成29) 年 4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 准教授 2017 (平成29) 年 4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授

Research

取得学位	博士 (理学) (岡山大学)
専門分野	局地気象学, 生気象学, 環境工学, 地学教育
現在の研究テーマ	都市内の大気環境調査および熱中症リスクの評価 盆地霧の発生・消滅過程の予測 気象の「見える化」と自然災害軽減に向けた気象情報の活用法 暑熱ストレスによる動物行動の変化 (バイオロギング) ストレスモニタリングによるセラピー効果の検証 気象変化が若年女性の自律神経活動に与える影響
受賞歴	2014 (平成26) 年 7月 第9回全国大会ベストポスター賞 (日本ヒートアイランド学会) 2015 (平成27) 年 11月 平成27年度 日本生気象学会研究奨励賞 (日本生気象学会)
所属学会	日本気象学会, 日本生気象学会, 日本農業気象学会, 日本地理学会, 日本地学教育学会, 日本建築学会, 日本ヒートアイランド学会, 土木学会, 大気環境学会, 環境情報科学センター, バイオクリマ研究会
資格	中学校教諭専修免許状 (理科), 高等学校教諭専修免許状 (理科), 健康気象アドバイザー

Data

研究等活動	<p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」, (共著), 2019年, 今井出版, 36-45. 「環境のサイエンスを学ぼうー正しい実験・実習を行うためにー」, (共著), 2016年, 丸善プラネット出版. 「環境のサイエンスを学ぼうー人と地球の未来のためにー」, (共著), 2011年, 丸善プラネット出版. <p>【論文 (2019年: 査読あり)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地表面状態の変化が埼玉県熊谷市における都市と郊外の比温差に及ぼす影響」 (共著), 2019, 地球環境研究 (21), 141-152. 「熊谷地方気象台周辺域における地上気温の空間的なばらつきの評価」 (共著), 2019, 日本地理学会, E-journal GEO都市気候特集号, 14 巻 1 号 213-222. <p>【国際会議: 筆頭講演者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Radiation fogs extinction process estimated from illuminance change」 (単著), 2020, International Symposium on Agricultural Meteorology 2020 (Osaka, Japan) 「The Thermal Environment of the Hanshin Area Brought by Thermal Local Circulation of the Rokko Mountains」 (共著), 2019, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 16th Annual Meeting (Republic of Singapore). 「Verification of Thermal Environments and Temperature Reduction Effects in the Kumamoto Castle Park Using WBGT」 (共著), 2019, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 16th Annual Meeting (Republic of Singapore). 「Hot Environments and Temperature Reduction Effects within Large Urban Green Spaces - Meteorological Observations Around the Kumamoto Castle Park -」 (共著), 2019, International Symposium on Agricultural Meteorology (Shizuoka, Japan) <p>【招待講演】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「気象と環境変化が自律神経バランスに与える影響」, 2020年度日本建築学会大会環境工学部門 (千葉). 「雲海予報は観光振興の呼び水になるのか! ? -霧の発生メカニズムを探る-」, 2019年度鳥取地学会年末講演会 (鳥取). 「気象災害軽減に向けた防災情報の活用法」 2019年度鳥取市防災リーダーフォローアップ研修 (鳥取). 「IoT技術の進展がもたらす気象観測データの有用性」 2019年度 IHIグループ 明星電気ビジネスパートナーミーティング (東京). <p>【国内学会: 筆頭講演者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「急激な気象変化が若年女性の自律神経バランスに与える影響」 (共著), 2020, 日本気象学会2020年春季大会 (神奈川). 「照度と湿度変化から推定される放射霧の消滅過程 -岡山県津山盆地を例として-」 (単著), 2020, 日本気象学会2020年春季大会 (神奈川). 「湿度を用いた霧の発生・消滅過程の推定 -岡山県津山盆地を例として-」 (単著), 2019, 日本気象学会関西支部2019年度第2回例会 (中国地区). 「係留気球とGPSラジオゾンデによる気温・相対湿度の観測 -下層大気内における計測値の品質評価-」 (共著), 2019, 日本気象学会2019年秋季大会 (福岡). 「都市キャンピョー層内における温熱環境の形成と土地被覆形態の関係性 -複雑地形を有する熊本市街地を対象として-」 (共著), 2019, 日本気象学会2019年秋季大会 (福岡). 「急激な気圧変化がストレス指標に与える影響 -富士山須走口五合目における検証実験-」 (共著), 2019, 2019年度日本建築学会大会 (石川). 「九州地方で発生する盆地霧の季節変動と経年変化の特徴 -大分県日田盆地をモデルとした発生・消滅過程-」 (共著), 2019, 日本気象学会2019年春季大会 (東京). 「佐賀平野における温熱環境の季節変動とその形成要因」 (共著), 2019, 日本気象学会2019年春季大会 (東京). 「降水に含まれる酸性成分が森林・農業へ与える影響 -鳥取県東部における酸性雨調査-」 (共著), 2019, 日本農業気象学会2019年全国大会 (静岡). 「津山盆地における霧の発生日数と地域特性」 (単著), 2019, 2019年日本地理学会春季学術大会 (東京)
社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> NPO法人バイオクリマ研究会 理事 (2014年5月~) 日本ヒートアイランド学会 学会誌委員 (2016年6月~) 日本生気象学会評議員 (2019年10月~) 鳥取県環境影響評価審査委員会 (2016年9月~)

甲田 紫乃

KODA, Shino



講師

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

URL <http://jp.shinokoda.com/>

E-mail s-koda@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** 環境政策論、大気汚染防止、環境アセスメント概論、環境教育論、衛生工学特論、SDGs 基礎、麒麟の知

■ **研究者略歴**

2007 (平成19) 年 3月	京都大学経済学部経済学科卒業
2009 (平成21) 年 3月	京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻修士課程修了
2012 (平成24) 年 9月	京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻博士課程修了
2012 (平成24) 年10月	オーストリア Johannes Kepler Universität Linz博士研究員
2016 (平成28) 年 4月	東京福祉大学国際交流センター特任講師
2018 (平成30) 年 4月～	公立鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2018 (平成30) 年 7月～	公立鳥取環境大学大学院環境研究科環境学専攻講師

Research

■ **取得学位** 博士 (エネルギー科学) (京都大学)

■ **専門分野** エネルギー科学、グループ・ダイナミクス、環境社会心理学、エネルギーコミュニケーション

■ **現在の研究テーマ**

- ・日常生活における環境配慮行動
- ・環境活動における環境志向型規範の伝達
- ・ソーシャルメディアと環境活動
- ・環境アート
- ・コミュニティにおける関係性とコミュニケーション
- ・地域活性化 など

■ **所属学会** 日本グループ・ダイナミクス学会、The International Association of Applied Psychology、The Asian Association of Social Psychology、On Sustainability、Climate Change: Impacts & Responses、

■ **資格** 日本語教育能力検定試験合格

Data

■ **研究等活動**

【著書】

- ・「SDGsを考える—歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会—」(編者、分担執筆)、2020年、ナカニシヤ出版
- ・「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」(分担執筆)、2019年、今井出版
- ・「21世紀国際社会を考える—多層的な世界を読み解く38章—」(分担執筆)、2017年、旬報社

【論文 (すべて単著、査読有)】

- ・Koda,S.(2016). Horizontal Relationship and Environmental Communication: A Case Study on Collaborative Activities between SPES and Local Residents in Austria.The International Journal of Environmental Sustainability, Volume 12, Issue 2, pp.17-31.
- ・甲田紫乃.「コンビニエンスストアにおける資源浪費の構造—参与観察に基づく短報—」、2012年、集団力学, 第 29 卷, pp. 87-103.
- ・Koda, S. (2012). Theoretical Approach to the Collaborative Environmental Activities: Household Waste Disposal towards Environmentally Friendly Daily Life, International Journal of Humanities and Social Science, vol.2, No.6, pp.104-110.
- ・Koda, S. (2012). Towards Environmentally Friendly Management at "Konbini" : Case Study at a Convenience Store in Japan, Journal of Alternative Perspectives in the Social Sciences, vol.3, No.4, pp. 946-957.
- ・Koda, S. (2012). The Motivation for Proenvironmental Behavior: Household Waste Disposal towards Environmentally Friendly Daily Life: Case Studies in Finland, Journal of Educational and Social Research, vol.2, No.1, pp. 191-198.

【研究発表の抜粋 (すべて単独、査読有)】

- ・Persuading People to Become Greener Through Collaborative Activities, Going Green CARE INNOVATION 2018, Vienna, Austria, 2018
- ・Horizontal Relationship for A Better Environmental Activity: A Case Study on Collaborative Activities between SPES and Local Residents in Austria.The Second Biennial International Convention of Psychological Science (ICPS), Vienna, Austria, 2017
- ・The "Tree" as a Driving Force for Environmental Education, The Eleventh International Conference on Environmental, Cultural, Economic & Social Sustainability, Copenhagen, Denmark, 2015
- ・Creating a Collective Stream towards an Environmentally Friendly Daily Life, The Sixth International Conference on Climate Change: Impacts and Responses, Reykjavik, Iceland, 2014
- ・Building Sustainable Communities as Part of Revitalization: An Austrian Way Based on Robust and Mutual Relationship between SPES and Local Residents, The Tenth International Conference on Environmental, Cultural, Economic & Social Sustainability, Split, Croatia, 2014
- ・What is Needed for Effective Environmental Activities: Case Studies on Collaborative Environmental Activities by Waste Management Companies and Local Residents in Finland, North Karelia Biosphere Reserve' s 20th Anniversary Pearls of the Coniferous Forest Conference, Joensuu, Finland, 2012

■ **社会貢献活動**

- ・環境教育ネットワークENO (ENO Environment Online - A Global Virtual School and Network for Sustainable Development) 日本・オーストリア・ナショナル・コーディネーター (2013～)
- ・MEF (Minorbody Exploration Forum) 小天体探査フォーラム メンバー (2015～)
- ・連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員 (2018～)
- ・The On Sustainability Research Network (イリノイ大学) Advisory Board Member (2019～)
- ・竹イノベーション研究会 メンバー (2019～)
- ・「SLCPs」、2019、「公立鳥取環境大学 未来への授業」(鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会事務局)
- ・「地球温暖化とエネルギーについて」、2019、「とっとりエコサポーターズ養成講座
- ・「環境コミュニケーション」、2020、「公立鳥取環境大学 未来への授業」(鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会事務局)

山口 創

YAMAGUCHI, So



講師

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

so-yama@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** 農村の持続的発展、都市の持続的発展

■ **研究者略歴**

2007 (平成19) 年 3月	神戸大学農学部食料生産環境工学科 卒業
2010 (平成22) 年 3月	神戸大学大学院農学研究科食料共生システム学専攻 博士課程前期課程修了
2011 (平成23) 年 4月	日本学術振興会特別研究員 (DC2) (~2013年3月)
2013 (平成25) 年 3月	神戸大学大学院農学研究科食料共生システム学専攻 博士課程後期課程修了 博士 (農学)
2013 (平成25) 年 4月	神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター 特命助教
2017 (平成29) 年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師
2018 (平成30) 年 4月~	公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻講師

Research

■ **取得学位** 博士 (農学) (神戸大学)

■ **専門分野** 農村計画学、ナレッジマネジメント、農業経営学

■ **現在の研究テーマ**

- ・ 農業・農村におけるナレッジマネジメント理論の構築に関する研究
- ・ 在来品種の特産化手法の構築に関する研究
- ・ 農村地域における人材育成に関する研究

■ **所属学会** 農村計画学会、地域農林経済学会、日本農業経済学会、環境情報科学センター、日本農業経営学会

Data

■ **研究等活動**

- 【著書】
- ・ 山口創 (2018) 在来品種の特産化プロセスと活用に向けた方策—丹波黒、薦池大納言を事例に一, pp.83-93, 地域固有性の発現による農業・農村の創造 (中塚雅也編著), 筑波書房.
 - ・ 山口創 (2016) 黒大豆栽培における知恵の継承と創造, pp74-87, エシカルな農業 (伊藤一幸編著), 誠文堂新光社.
- 【論文】
- ・ 山口創 (2017) 住民主体の自然資源の保全活動における知識管理の実態と関係主体の役割—あびき湿原の保全活動を事例として一, 環境情報科学学術研究論文集31, pp71-76. (査読有)
 - ・ 山口創 (2016) 農場実習における大学生の知識習得・意識変化に影響する要因の分析, 農業経済研究, 88(3), pp. 345-349. (査読有)
 - ・ 山口創・吉田康子 (2016) テキストマイニングを用いた農場実習における大学生の学習内容の把握, 環境情報科学論文集 30, pp. 243-248. (査読有)
 - ・ 山口創 (2016) 教育関係共同利用拠点制度における大学農場の農業実習教育の展開と課題, 農林業問題研究, 52, pp. 205-210. (査読有)
 - ・ 山口創 (2015) 在来品種の顕在化プロセスと展開課題, 環境情報科学論文集29, pp.83-88. (査読有)
 - ・ 山口創・趙松楠・中塚雅也・山下良平 (2014) テキストマイニングによる農村地域課題の特性と変化の把握—兵庫県を事例として一, 農林業問題研究, 50 (2), pp.107-112. (査読有)
 - ・ 山口創・中塚雅也 (2013) 黒大豆特産地にみる農業生産知識の管理構造, 農林業問題研究, 49 (1), pp.32-37. (査読有)
 - ・ 山口創・中塚雅也 (2012) 集落営農組合の知識管理と地域における役割—兵庫県篠山市の黒大豆生産を事例として一, 2012年度日本農業経済学会論文集, pp.61-68. (査読有)
 - ・ 山口創 (2012) 生産者の知識獲得におけるコミュニティの機能—兵庫県篠山市の黒大豆生産を事例として一, 農業経営研究, 50 (3), pp56-61. (査読有)
 - ・ 山口創・中塚雅也 (2011) 地域ナレッジの共有と集落特性の関係性, 農林業問題研究, 47 (2), pp.231-236. (査読有)
- 【発表】
- ・ 澤田裕貴・山口創・吉田康子 (2017): 大納言アズキの粒の大きさおよび収量関連形質における遺伝子型×環境交互作用.第131回日本育種学会.
 - ・ 山口創・吉田康子 (2016): テキストマイニングを用いた農場実習における大学生の学習内容の把握. 第30回環境情報科学学術論文発表会.
 - ・ 山口創 (2015): 在来品種の顕在化プロセスと展開課題. 第29回環境情報科学学術論文発表会.

■ **社会貢献活動**

- ・ 第49回 J A 鳥取県大会審議委員会委員

矢野 順治

YANO, Jyunji



経営学部長、環境経営研究科副研究科長、
環境経営研究科経営学専攻長
教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

yanoj@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 金融入門、金融市場論、証券投資概論

研究者略歴

1987（昭和62）年12月	シカゴ大学経済学部博士課程修了
1987（昭和62）年12月	名古屋大学経済学部助手
1989（平成 元）年 4月	長崎大学大学経済学部講師
1998（平成 9）年 4月	広島大学経済学部教授
2015（平成27）年 4月～	公立鳥取環境大学経営学部教授
2016（平成28）年 4月～	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻教授
2018（平成30）年 4月～	公立鳥取環境大学経営学部長、大学院環境経営研究科副研究科長、経営学専攻長

Research

■取得学位 経済学博士（シカゴ大学）

■専門分野 金融論

■現在の研究テーマ ・フィリップス曲線と金融政策分析
・金融政策の波及経路

■所属学会 日本経済学会、日本金融学会、生活経済学会

Data

研究等活動

【著書】

・「国際金融 理論編」（共著）2008年 有斐閣 「E-viewsで学ぶ実証分析入門（基礎編、応用編）」（共著）2008年 日本評論社
「E-viewsで学ぶ実証分析の方法」（共著）2013年 日本評論社

石川 真澄

ISHIKAWA, Masumi



副学部長
教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

■ **主な担当科目** 公共政策論、環境経済学、マクロ経済学入門

■ **研究者略歴**

1995 (平成 7) 年 3月	同志社大学大学院経済学研究科博士課程 (後期) 経済政策専攻退学
1995 (平成 7) 年 4月	宮崎産業経営大学経済学部専任講師
2001 (平成13) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科専任講師
2004 (平成16) 年 1月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科助教
2007 (平成19) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科准教授・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科副学部長・大学院環境経営研究科経営学専攻准教授
2017 (平成29) 年10月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科副学部長・大学院環境経営研究科経営学専攻教授

Research

■ **取得学位** 経済学修士 (同志社大学)

■ **専門分野** 環境経済論, 経済政策論

■ **現在の研究テーマ** ・ 経済的手法による環境政策の研究

■ **所属学会** 日本経済政策学会, 環境経済・政策学会, 廃棄物資源循環学会

Data

■ **研究等活動**

【著書】

・「循環型社会のキーコンセプト (拡大生産者責任)」「ドイツのリサイクル政策」「エコツーリズム」「環境税・炭素税」(「地球環境読本Ⅱ」、2004年8月、丸善 所収)

・「観光地のライフサイクルと持続可能性」(「現代社会とツーリズム」2001年4月、東海大学出版会、第五章)

【報告書】

・「日本からアジアに展開する廃棄物系バイオマス利活用による3R定着に関する研究」第6章1節、2014年3月

■ **社会貢献活動**

・鳥取市都市計画審議会委員 (2011年～)

細野 宏

HOSONO, Hiroshi



教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科経営学専攻

✉ h-hosono@kankyo-u.ac.jp

■主な担当科目 地域行政論、行政法、環境法概論

■研究者略歴

1977 (昭和52) 年 3月	東京大学法学部卒業
1977 (昭和52) 年 4月	環境庁(省) (大臣官房、総合環境政策局、環境保健部、大気保全局など～ 2009年7月)
1984 (昭和59) 年 7月	厚生省 (児童家庭局、健康政策局)
1989 (平成 元) 年 7月	北九州市 (環境事業局)
1996 (平成 8) 年 7月	米国東西センター (客員研究員)
2000 (平成12) 年 7月	特殊法人公害健康被害補償予防協会 (基金事業部)
2004 (平成16) 年 4月	独立行政法人環境再生保全機構 (予防事業部)
2009 (平成21) 年 8月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策経営学科教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科教授
2013 (平成25) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻教授

■取得学位 法学士 (東京大学)

■専門分野 地域行政、環境行政、環境法

■現在の研究テーマ

- ・先進的森林セラピー基地®の取組を踏まえた鳥取県内市町村におけるニューツーリズム振興方策に関する研究 (全国の森林セラピー基地等のうち、エコツーリズム、ヘルスツーリズム、グリーンツーリズム等のニューツーリズムの観点から評価されている先進的な取組を踏まえて、鳥取県内各市町村におけるこれらのツーリズムの振興方策についての研究) を実施。
- ・鳥取県東部地域における移住促進と転出抑制に関する施策の連携による持続可能な地域づくりに関する研究 (都会からの移住やリターン等の経験者が実感している居住地域や職場 (業) に関する魅力を、各地域の特性に応じた移住促進施策とともに、地元におけるESDやふるさと教育による転出抑制施策に活用するための方策等について研究) を実施。

■所属学会 日本地域政策学会、地域活性学会、環境法政策学会

■研究等活動

【論文】

- ・「森林セラピー事業の現状と課題に係る考察」2016年、『日本地域政策研究』第16号
- ・「自治体における家庭系廃食用油の回収再生利用事業の実態と課題」2015年、『都市清掃』第41巻2号
- ・「岡山市における廃天ぷら油回収とエコライフの実践に関する一考察」2015年、『月刊廃棄物』第68巻第324号

【報告書】

- ・「生ごみや小型家電のリサイクル推進策に関する研究」、2015年、鳥取県環境学術研究等振興事業費補助金研究実績報告書
- ・「日本からアジアに展開する廃棄物系バイオマス活用による3R定着に関する研究」(共著)、2012年、2013年及び2014年、環境研究総合推進費補助金研究事業研究報告書

■社会貢献活動

- ・森林セラピーフォーラム2020～移住者のチカラで、森と人と地方を元気に～基調講演講師
- ・平成30年度鳥取環境大学公開講座講師 (「森林セラピー事業の展開と農山村の再生」)
- ・鳥取県河川委員会委員 (平成30年度～)
- ・鳥取県農協職員共済会評議員 (平成29年度～)
- ・中国地方ESD活動支援センター (仮称) 準備委員 (平成28年度)
- ・鳥取地方法務局評価委員 (平成25年度)、委員長 (平成27年度及び令和元年度)
- ・鳥取地方・家庭裁判所委員会委員 (平成25～29年度)

柳 年哉

YANAGI, Toshiya



教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専

✉ cpaey22@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 会計学入門、財務会計、経営分析

■ 研究者略歴

1979 (昭和54) 年 3月	和歌山大学経済学部卒業
1979 (昭和54) 年11月	クーパーズ&ライブランド公認会計士事務所入所 (～1984 (昭和59) 年3月)
1984 (昭和59) 年 4月	昭和監査法人 (現:EY 新日本有限責任監査法人) 入所
1985 (昭和60) 年10月	ピートマーウィックミツチェル会計事務所 (現:KPMG) ドイツ デュセルドルフ事務所に出向 (～1989 (平成元) 年)
1998 (平成10) 年10月	日本公認会計士協会 近畿実務補習所 “税効果会計” 講義担当 (～2008 (平成20) 年)
1999 (平成11) 年 4月	和歌山市包括外部監査補助者 (～2002 (平成14) 年)
2000 (平成12) 年 4月	倉敷市包括外部監査補助者 (～2001 (平成13) 年)
2001 (平成13) 年 5月	監査法人大田昭和センチュリー (現:EY 新日本有限責任監査法人) 代表社員就任
2001 (平成13) 年10月	日本公認会計士協会 近畿会国際委員会委員 各国の企業結合の会計研究プロジェクト委員 (～2003 (平成15) 年)
2006 (平成18) 年 4月	関西大学会計専門職大学院 “国際監査事例研究” 講義担当 非常勤講師 (～2012 (平成24) 年)
2008 (平成20) 年 7月	新日本有限責任監査法人 大阪事務所 国際部部門長 シニアパートナー (～2017 (平成29) 年6月)
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部 経営学科 非常勤講師
2019 (平成31) 年 4月～	公立鳥取環境大学 経営学部 経営学科 教授
2020 (令和2) 年 4月～	公立鳥取環境大学 大学院 環境経営研究科 経営学専攻 教授

Research

■ 取得学位 経済学士 (和歌山大学)

■ 専門分野 会計学、国際財務報告基準、監査論

■ 現在の研究テーマ

- ・日本企業における国際財務報告基準 (International Financial Reporting Standards-IFRS) の実務対応に関する研究
- ・コーポレートガバナンスの一環としての内部統制システム導入の考察
- ・独立監査人の監査報告書に記載される監査上の主要な検討事項 (Key Audit Matters-KAM) と監査手続の関連に関する研究

■ 資格 公認会計士 (日本公認会計士協会)

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・「英文会計のコミュニケーション」第1版 (共著) 2016 (平成27年) 7月 同文館
- ・「英文会計のコミュニケーション」第2版 (共著) 2017 (平成29年) 3月 同文館
- ・「海外子会社の内部統制評価実務」 (共著) 2018 (平成30年) 7月 同文館

■ 社会貢献活動

- ・企業の経理担当者向けセミナー講師
「グローバル人材育成のための英文会計セミナー」新日本有限責任監査法人 大阪事務所主催 平成25年～平成26年4月
- ・企業の監査役及び内部監査人向けセミナー講師
「海外子会社等の内部統制監査実務セミナー」新日本有限責任監査法人 大阪事務所主催 平成27年4月～平成27年8月
「海外子会社の内部統制強化のためのセミナー」新日本有限責任監査法人 大阪事務所主催 平成28年4月～平成28年12月

中山 実郎

NAKAYAMA Jitsuro



副学長補佐（学生生活・就職、広報、地域連携、国際交流担当）、
就職支援センター長
教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科経営学専攻

✉ j-nakaya@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 企業法概論、民法1、民法2

■研究者略歴

1981（昭和56）年3月	法政大学法学部法律学科卒業
1983（昭和58）年3月	明治大学大学院法学研究科博士課程前期2年の課程修了
2004（平成16）年4月	青森中央学院大学 経営法学部 専任講師 同地域マネジメント研究所研究員
2008（平成20）年4月	大阪国際大学 現代社会学部 法律政策学科 准教授
2013（平成25）年4月	大阪国際大学 現代社会学部 法律政策学科 教授
2014（平成26）年4月	大阪国際大学 グローバルビジネス学部 教授
2017（平成29）年4月～	公立鳥取環境大学 経営学部 教授
2020（令和2）年4月～	公立鳥取環境大学 大学院 環境経営研究科 経営学専攻 教授

Research

■取得学位 法学修士(明治大学)

■専門分野 民法（財産法）、消費者法、ビジネス法務

■現在の研究テーマ

- ・契約当事者が負う説明義務について
- ・未成年者等責任無能力者と損害賠償責任の問題
- ・担保不動産収益執行の効果について
- ・契約の成立・効力と消費者保護の問題
- ・指名債権譲渡の要件
- ・遺言の方式と要件

■所属学会 日本法政学会 関西法政治研究会 青森法学会 日本リスクマネジメント学会
中四国法政学会 日本政治法律学会

■資格 行政書士

Data

■研究等活動

【著書】

- ・民法小事典(3訂版) 共著 2009年 3月 住宅新報社
- ・ビジネス 学びのことはじめ 共著 2010年 3月 ナカニシヤ出版
- ・やさしく学ぶ行政書士の教科書 共著 2010年10月 オーム社
- ・民法I（総則・物権・担保物権）単著 2011年 3月 文教出版会
- ・業界研究学びのことはじめ 共著 2016年 4月 ナカニシヤ出版

【論文】

- ・法定地上権の同一所有者要件をめぐる新たな最高裁判決 単著 2008年 3月 青森中央学院大学「研究紀要」第10号
- ・特許権の消尽と侵害の成否 単著 2009年 3月 大阪国際大学国際研究論叢第22巻3号
- ・フランチャイズ契約における本部の加盟店に対する報告義務 単著 2010年 3月 大阪国際大学国際研究論叢第23巻3号
- ・担保不動産収益執行と賃料債権の相殺をめぐる問題 単著 2011年 3月 大阪国際大学国際研究論叢第24巻3号
- ・居住用建物の賃貸借契約における敷引特約に関する最高裁の判断と課題 単著 2012年 3月 大阪国際大学国際研究論叢第25巻3号
- ・居住用建物の賃貸借契約における更新料条項の効力 単著 2013年 1月 大阪国際大学国際研究論叢第26巻2号
- ・契約準備段階における説明義務違反と損害賠償責任の成否 単著 2013年10月 大阪国際大学国際研究論叢第27巻1号
- ・再度の取得時効の完成と抵当権の帰趨 単著 2014年10月 大阪国際大学国際研究論叢第28巻1号
- ・承役地の担保不動産競売における未登記通行地役権の消長 単著 2015年 3月 大阪国際大学国際研究論叢第28巻3号
- ・主債務を単独相続した保証人による債務の弁済と時効の中断 単著 2015年10月 大阪国際大学国際研究論叢第29巻1号
- ・法定代理人がない事理弁識能力を欠く常況にある者と民法158条1項の類推適用 単著 2016年 3月 大阪国際大学国際研究論叢第29巻3号
- ・責任弁識能力のない未成年者の親権者の監督義務 単著 2016年 10月 大阪国際大学国際研究論叢第30巻2号
- ・主債務者が反社会的勢力であった場合の錯誤無効と保証契約の付随義務違反 単著 2017年 3月 大阪国際大学国際研究論叢第30巻3号
- ・自筆証書遺言の方式に関する近時の最高裁判決 単著 2018年 1月 大阪国際大学国際研究論叢第31巻 2号
- ・債務者が異議をとどめないで指名債権譲渡の承諾と譲受人の主観的要件 単著 2018年3月 大阪国際大学国際研究論叢第31巻3号
- ・節税目的でなされた養子縁組と縁組意思の有無 単著 2019年 公立鳥取環境大学紀要 16巻16号

■社会貢献活動

- ・鳥取地方裁判所委員会委員
- ・鳥取県公募型プロポーザル方式受注者選定等審査会委員
- ・鳥取市国民健康保険運営協議会会長
- ・鳥取市消費者行政審議会委員

吉田 高文

YOSHIDA, Takafumi



教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科経営学専攻

✉ ta-yoshi@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 ファイナンス入門、コーポレート・ファイナンス

■ 研究者略歴

1982 (昭和57) 年 3月	名古屋大学経済学部経営学科卒業
1985 (昭和60) 年 3月	名古屋大学大学院経済学研究科前期課程修了、経営学専攻
1988 (昭和63) 年 3月	名古屋大学大学院経済学研究科後期課程単位取得満期退学、経営学専攻
1988 (昭和63) 年 4月	長崎大学経済学部講師
1993 (平成 5) 年12月	長崎大学経済学部助教授
2009 (平成21) 年 4月	国立大学法人長崎大学経済学部教授
2016 (平成28) 年 4月	国立大学法人長崎大学名誉教授
2017 (平成29) 年 4月～	公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授
2018 (平成30) 年 4月～	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻教授

Research

■ 取得学位 経済学修士 (名古屋大学)

■ 専門分野 経営財務論、企業経済論

■ 現在の研究テーマ

- ・ 財務均衡理論の研究
ノーベル経済学賞を受賞したM.H.Miller教授やE.Fama教授らによって展開された財務理論の均衡モデルを研究している。
- ・ 日本の中小企業の事業承継
日本の中小企業の事業承継に関わる諸課題や企業評価のあり方について研究している。
- ・ ケースメソッド教育の研究
経営事例を用いたケースメソッド教育の研究やケースの開発を行っている。

■ 受賞歴 1998 (平成10) 年8月九州郵政局長賞 (九州郵政局)

■ 所属学会 日本経営学会、日本経営財務研究学会、日本マネジメント学会、九州経済学会

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・ 『現代経営学—経営学研究の新潮流—』 (共著、櫻井克彦編)、2006年、税務経理協会
- ・ 『企業財務制度の構造と変容』 (共著、牟田正人・池上恭子編)、2006年、九州大学出版会

【論文】

- ・ 「中小企業の事業承継問題と企業評価」、2013年、日本経営学会編『経営学論集第83集新しい資本主義と企業経営』千倉書房
- ・ 「戦略的CSR構想の矛盾」 (共著)、2009年、日本経営学会編『経営学論集第79集日本企業のイノベーション』千倉書房

【学会報告】

- ・ 「中小企業の企業価値評価」、2015年、日本産業経済学会第65回研究部会
- ・ 「中小企業の事業承継における財務的課題」、2012年、日本経営学会九州部会例会

■ 社会貢献活動

- ・ 八頭町総合戦略検証委員会委員長、平成29年度～令和2年度
- ・ 鳥取県指定管理候補者審査・指定管理施設運営評価委員会委員、平成29年度～令和4年度

染谷 治志

SOMEYA, Harushi



教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科経営学専攻

URL <https://sites.google.com/site/someyalaboratory/>

✉ someya@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** 経営情報論、経営情報システム、情報産業論

■ **研究者略歴**

1984 (昭和59) 年 3月	早稲田大学理工学部電気工学科卒業
1986 (昭和61) 年 3月	早稲田大学大学院理工学研究科電気工学専攻修了, 修士 (工学)
1986 (昭和61) 年 4月	(株) 日立製作所システム開発研究所勤務 (～1993年2月)
1993 (平成 5) 年 3月	(株) 日立製作所コンピュータ事業部製品企画本部勤務 (～1995年2月)
1995 (平成 7) 年 3月	(株) 日立製作所システム開発研究所勤務 (～2009年3月)
2006 (平成18) 年 3月	早稲田大学大学院情報生産システム研究科情報生産システム工学専攻修了, 博士 (工学)
2007 (平成19) 年10月	早稲田大学大学院情報生産システム研究センター非常勤客員講師 (～2009年3月)
2009 (平成21) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科教授
2010 (平成22) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻教授

Research

■ **取得学位** 博士 (工学) (早稲田大学)

■ **専門分野** 情報システム学, システム工学

■ **現在の研究テーマ**

- ・ Smart Information Systems :
環境の中のコンピュータの方から人間にアクセスを試み, 所望の情報を提供したり, 状況に応じてアドバイしたりするなど, 人間の状況を的確に理解し, 最適な情報環境を提供するシステムの創造研究 (人の生活習慣を可視化し, 病気の兆候発見など生活環境をサポートするライフログ応用, 「環境がユーザをナビゲーションする」実世界コンテンツとデジタルコンテンツの融合など)
- ・ Socio-information Systems :
ダイナミックで複雑な社会や経営の問題に対して, さまざまな要素の繋がりを「システム」として捉え, その構造の全体像を俯瞰し, 挙動を分析・理解して, よりよい社会システムにする改善策や新たなシステムの創造研究 (ビジネスモデルの分析・デザイン, 人間行動のダイナミクスのビジネスプロセスへの応用, 地域生活情報や観光情報などの地域知の発見と利活用など)

■ **所属学会** 電子情報通信学会, 情報処理学会, 情報システム学会

Data

■ **研究等活動**

※2012年4月以降の活動成果

【講演】

・「人工知能(AI)はビジネスをどう変える?」, はりま産学交流会創造例会, 17 Jun. 2016

【論文】

・「科目履修登録支援システムの開発」(共著), 平成24年度電気・情報関連中国支部連合大会, 20 Oct. 2012
 ・「Smart Door Plateの開発」(共著), 平成24年度電気・情報関連中国支部連合大会, 20 Oct. 2012
 ・「大学現況情報提供システム「TUESnow」の開発」(共著), 平成24年度電気・情報関連中国支部連合大会, 20 Oct. 2012

【ビジネスコンテスト】

・「もみじの天ぷらを大阪名物に!」, 大学生観光まちづくりコンテスト2015(大阪ステージ)ポスターセッション選出, 18 Sep. 2015

■ **社会貢献活動**

【学会および社会活動】

・2018年12月:鳥取県公募型プロポーザル方式受注者選定等審査会委員 (至:2019年3月)
 ・2018年6月:電子情報通信学会ソフトウェアインタプライズモデリング研究専門委員会委員 (現在に至る)
 ・2016年6月:平成28年度県立高校・大学教員交流事業 特別講義(サイエンスゼミ)「体験!経営シミュレーション」(於:鳥取県立鳥取東高等学校)
 ・2016年6月:公立鳥取環境大学公開講座2016「暮らしの未来とICT-ICT端末の新形態」(於:鳥取)
 ・2015年5月:電気学会人と調和する支援技術の実現化協同研究委員会委員 (至:2018年3月)
 ・2012年11月:電気学会人間の豊かな活動支援技術の実現化協同研究委員会委員 (至:2015年3月)
 ・2011年5月:鳥取環境大学公開講座2011「情報通信と生活:デジタル化する身近なもの」(於:鳥取, 米子)
 ・2011年4月:電子情報通信学会システム数理と応用研究会委員 (至:2015年3月)
 ・2010年10月:電気学会高品質人間活動支援技術共同研究委員会委員 (至:2012年10月)
 ・2010年1月:電気学会高品質生活を達成する科学技術に関する協同研究委員会委員 (至:2010年9月)
 ・2009年12月:鳥取県産学官コーディネータ連携推進委員 (至:2012年3月)
 ・2007年3月:電気学会論文委員 (現在に至る)

齊藤 明紀

SAITOH, Akinori



情報メディアセンター長
教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科経営学専攻

saitoh@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** インターネット、情報倫理、データマイニング

■ 研究者略歴

1991 (平成 3) 年 3月	大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻後期課程修了,工学博士
1991 (平成 3) 年 4月	大阪大学基礎工学部情報工学科 助手
1994 (平成 6) 年 2月	大阪大学情報処理教育センター 講師
1999 (平成11) 年 4月	大阪大学大学院基礎工学研究科情報数理系専攻 講師
2002 (平成14) 年 4月	大阪大学 大学院情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻 助教授
2004 (平成16) 年 7月	鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科教授
2005 (平成17) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科教授
2014 (平成26) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科情報システム領域主任(兼担)
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学情報メディアセンター長 (兼担)、大学院環境経営研究科経営学専攻教授

Research

■ **取得学位** 工学博士(大阪大学)

■ **専門分野** 情報工学

■ **現在の研究テーマ** ・分散システム運用技術
・工学教育
・ヒューマンインターフェース

■ **受賞歴** 1986 (昭和61) 年3月 大阪大学基礎工学部情報工学科楠木賞 (主席卒業) 受賞
2002 (平成14) 年5月 情報処理学会 平成13年度論文賞受賞
2012 (平成24) 年3月 情報処理学会 平成23年度山下記念研究賞受賞
2014 (平成26) 年10月 デミング賞委員会 平成26年度日経品質文庫賞受賞 (「新版 信頼性ハンドブック」に対して)

■ **所属学会** 情報処理学会, 電子情報通信学会

Data

■ 研究等活動

【論文】
・「共同採点と再提出レポートの取り扱いを支援するコース管理システムの開発」(共著), 2010年9月, 学術情報処理研究, No.14
・「Using coLinux to Provide a Linux Environment on Windows PC in Public Computer Labs」(共著), 2006年11月, ACM SIGUCCS 2006 Fall Conference
・「ルータ上のパケットフィルタで端末間通信を処理するための DHCPサーバ構成法」(共著), 2005年4月, 情報処理学会論文誌, Vol.46, No.4

【著書】
・ネットワークシステムの信頼性保証(分担執筆), 2014年7月、新版 信頼性ハンドブック

【報告書】
・「個人必携パソコンによる情報環境 -- 鳥取環境大学の事例-」, 2016年9月, SS研究会教育分科会第1回会合
・「[WIP]情報コンセント検査支援ツールへの取組み」, 2014年12月, 情報処理学会IoTシンポジウム2014
・「Android端末を利用した乳幼児見守りシステム」(共著), 2014年12月, 情報処理学会IoTシンポジウム2014
・「情報コンセントのためのハブポート対応表調査生成ツール」, 2012年3月, 情処技報IoT-16-23
・「個人必携パソコンによる情報環境 -- 鳥取環境大学の事例-」, 2010年5月, 情処技報IoT-9-11
・「省電力のための運休スケジュール参照機能を持つ機器監視システムの試作」(共著), 2010年3月, 情処技報IoT-8-2
・「省力化を実現するための忘れパスワード再設定システム」(共著), 2009年3月, 情処技報IoT-4-29
・「鳥取環境大学のリテラシー教育への取組み」(共著), 2006年9月, 大阪大学サイバーメディアフォーラム, No.6

【口頭発表】
・「問題提起 『日々は修行』の代わりは?」, 2015年9月, LightweightLanguage2015、ライトニングトーク
・「サイバーセキュリティ 2016 ~技術と人間~」, 2016年11月、鳥取県サイバーテロ対策協議会
・「サイバーセキュリティ 2018 ~技術と人間~」, 2018年11月、鳥取県サイバーテロ対策協議会

■ 社会貢献活動

・日本UNIXユーザ会幹事
・関西オープンフォーラム実行委員
・鳥取県警察サイバーセキュリティ対策アドバイザー
・情報処理学会IoT研究会運営委員

磯野 誠

ISONO, Makoto



教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

URL www.makotoisono.com

E-mail m-isono@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** (学部)マーケティング2, 商品開発論, ブランド論 (大学院)マーケティング特論, リサーチデザイン特論

■ **研究者略歴**

1990 (平成 2) 年 3月	千葉大学工学部工業意匠学科卒業、工学士 (ID)
2004 (平成16) 年 9月	神戸大学大学院経営学研究科専門職学位課程現代経営学専攻修了、経営学修士 (専門職)
2008 (平成20) 年 3月	神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程現代経営学専攻修了、博士 (商学)
1991 (平成 3) 年 9月	横河電機株式会社 (~ 1999年11月)
2000 (平成12) 年 2月	Procter & Gamble Far East Inc. (~ 2009年6月)
2007 (平成19) 年 3月	The Procter & Gamble Company (OH, USA) 出向 (~ 2008年6月)
2009 (平成21) 年 2月	神戸大学大学院経営学研究科研究員 (~ 2011年1月)
2009 (平成21) 年10月	九州共立大学経済学部准教授 (~ 2012年3月)
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科准教授
2013 (平成25) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科准教授、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授、大学院環境経営研究科経営学専攻教授

Research

■ **取得学位** 博士 (商学) (神戸大学)

■ **専門分野** マーケティング, 新製品開発, ブランド, デザイン

■ **現在の研究テーマ** ・新製品・サービスのアイデア開発における創造性
・地域創生のためのマーケティング

■ **所属学会** 日本マーケティング学会, 日本デザイン学会, 日本消費者行動研究学会, 日本商業学会

Data

■ **研究等活動**

【著書】

- ・「地方創生のための経営学入門」(共編著)、2019年、今井出版。
- ・「新製品コンセプト開発におけるデザインの役割」、2014年、丸善出版。
- ・「アイデアの意図と魅力を考える」(共著)、2013年、ふくろう出版。

【論文】

- ・「新製品アイデア開発における視覚化とアナログ活用の効果」(共著)、2019年、『国民経済雑誌』220(6), 1-17。
- ・「創造的視覚化を活用する新製品コンセプト開発」、2011年、『季刊マーケティング・ジャーナル』、Vol.120, pp.43-58。
- ・「新製品開発とデザイン」、2008年、『季刊マーケティング・ジャーナル』、Vol.109, pp.91-100。

【Proceedings】

- ・"From Vision to Idea: The Cognitive Process of Vision-Driven Idea Development," 2018 The Proceedings of 25th International Product Development Management Conference.
- ・「新製品アイデア開発における文脈想像の性質と働き」、2017年、『日本マーケティング学会カンファレンス・プロシーディングス』、Vol.6, pp.158-167。
- ・「新製品アイデア開発における視覚化と複数アイデア創出の効果」、2014年、『日本マーケティング学会カンファレンス・プロシーディングス』、Vol.3, pp.85-96。
- ・「新製品アイデア開発におけるアナロジーと視覚化活用の効果」(共著)、2013年、日本商業学会第63回全国大会報告論集、pp.69-72。
- ・"The 'Build to Think' Orientation - When an Organization Uses Design for Their Concept Development," 2011年、The Proceedings of 18th International Product Management Conference, p.157。

【紀要】

- ・「顧客のフロー体験と感動、満足、ロイヤルティとの関係」、2017年、『公立鳥取環境大学紀要』、15号、pp.19-29。
- ・「新製品アイデア開発におけるイマジネーション活用の効果」、2016年、『公立鳥取環境大学紀要』、14号、pp.26-39。
- ・「いかに市場機会を特定するかー新製品開発FEフェーズ研究レビュー」、2015年、『鳥取環境大学紀要』、13号、pp.41-57。
- ・「中山間集落住民にとっての買い物の意義ー買い物行動の快乐的側面を含めた検討ー」、2015年、『鳥取環境大学紀要』、13号、pp.129-138。
- ・「大学教育成果としての学生自己成長感」(共著)、2012年、『九州共立大学研究紀要』、2(2)、pp.25-38。
- ・「大学におけるバランスト・スコアカード経営の可能性」(共著)、2012年、『九州共立大学研究紀要』、2(2)、pp.45-61。
- ・「購買起点ニーズ」を仮定する新製品コンセプト開発、2011年、『九州共立大学研究紀要』、2(1)、pp.25-40。

【報告書】

- ・「石垣島サンゴ礁保全活動を対象としたCRM成功要因としての提携先企業の消費者知覚の特徴」、2012年、横川洋編、『赤土GAP・環境支払い・協働原則のミックスによる赤土等流出防止プログラムの形成』、pp.31-42。

■ **社会貢献活動**

- ・企業マネジメント職向けデザインマネジメント・セミナー講師 (ネスレ日本、等)
- ・地域経営者向けマーケティング・セミナー講師 (公立鳥取環境大学公開講座、鳥取県東部西商工会産業支援センター主催、等)
- ・自治体職員のためのマーケティング研修講師 (全国市町村国際文化研修所: 2017-; 鳥取県: 2015-)
- ・鳥取県の民工芸・伝統工芸の次世代のための研修会講師 (2015-2017)
- ・放送大学面接授業講師 (2016)
- ・鳥取県農工商連携促進ファンド事業審査委員会 (2017-) : 鳥取県消費生活審議会委員 (2015-)
- ・第28回中国五県高等学校生徒商業研究発表大会審査員長(2014)

西村 教子

NISHIMURA, Noriko



国際交流センター副センター長
教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

■ **主な担当科目** 現代経済学入門、ビジネス・エコノミクス、社会経済と人口

■ 研究者略歴

2001 (平成13) 年 3月	神戸大学大学院国際協力研究科博士後期課程国際開発政策専攻修了
2002 (平成14) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科専任講師
2005 (平成17) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科助教授
2007 (平成19) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学副学長補佐 (広報担当、研究担当、地域連携・国際交流担当)、大学院環境経営研究科経営学専攻教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学国際交流センター副センター長

Research

■ **取得学位** 博士 (学術) (神戸大学)

■ **専門分野** 開発経済学, 人口経済学

■ **現在の研究テーマ**

- ・農村地域の女性の就業選択および生活実態に関する実証研究
- ・農家世帯の家族形成に関する実証研究
- ・経済的認知と不確実性に対する経済行動の計量分析

■ **所属学会** 国際開発学会, PASL, 経済統計学会, 日本人口学会, 日本地域学会

Data

■ 研究等活動

【論文】

- ・「危険回避と時間選好が男性の晩婚化・未婚化にもたらす影響」、2020年2月ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ第82号、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構
- ・「農林業センサスの高度利用：世帯パネルから世帯員パネルへ」(共著)、2017年5月、『農業と経済』第83巻第5号、71～80頁 (共著)
- ・「農林業センサスにおける世帯員パネルデータの構築実験」(共著)、2017年、『農林水産統計デジタルアーカイブ講座Working Paper Series』, No.6.
- ・「日本の農家配偶者女子の就業行動の規定要因に関する考察」(共著)、2016年、『農林水産統計デジタルアーカイブ講座Working Paper Series』, No.5.
- ・「資産選択に関わる相対的危険回避度、時間割引率と認知能力—意思決定に関する意識調査(2014年)—」、2015年3月ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ第37号、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構
- ・「経済的な判断に関わる認知能力の検討—公的年金に関する意識調査(2012年度)—」、2014年7月ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ第35号、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構
- ・"Technological Progress and the Wage Growth of Older Japanese Workers."(共著)、2013年、The Review of Socionetwork Strategies, vol.7no.2
- ・「鳥取県における少子化の構造要因の分析」、2009年3月、『鳥取環境大学紀要』第7号 (鳥取環境大学)

相川 泰

AIKAWA, Yasushi



准教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

主な担当科目	アジア環境論, アジア社会論, 国際関係入門
研究者略歴	
2004 (平成16) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科専任講師
2006 (平成18) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科助教授
2007 (平成19) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科准教授・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻准教授

取得学位	修士 (学術) (東京大学)
専門分野	中国環境研究, 東アジア国際関係, 民間非営利部門論
現在の研究テーマ	・中国における環境問題と政策、特に環境汚染の実態および被害者救済 ・日本・中国・韓国の環境NGO・市民活動、それらの国際展開、相互交流・協力 ・上記を中心とする国際関係の同時代史
所属学会	環境経済・政策学会, アジア政経学会, 環境社会学会, 日本環境会議・日本現代中国学会

研究等活動	
【著書】	<ul style="list-style-type: none"> ・『Environmental Policy and Governance in China』(共著)、2017年、Springer ・『中国の環境法政策とガバナンス』(共著)、2012年1月、晃洋書房 ・『中国汚染——「公害大陸」の環境報告』、2008年3月、ソフトバンククリエイティブ ・『中国の環境問題と法・政策』(共著)、2008年3月、法律文化社 ・『中国環境ハンドブック』(共編著)、2004年、2007年、2009年、2011年、蒼蒼社 ・『地域と環境政策』(共著)、2006年11月、勁草書房 ・『アジア環境白書』(共著)、1997年、2000年、2003年、2006年、2010年、東洋経済新報社 ・『環境共同体としての日中韓』(共編著)、2006年1月、集英社 ・『重大化する中国環境問題』(編著)、『中国年鑑2004』(共編著) 特集、2004年8月、創土社 ※『中国年鑑』環境問題 (動向、要覧) 欄は1995年から2008年までと2018年から執筆担当
【論文】	<ul style="list-style-type: none"> ・『SDGsの来た道』、2020年3月、高井・甲田編『SDGsを考える』ナカニシヤ出版、第2章 ・『中国におけるプラスチックごみ問題』、2019年9月、『環境経済・政策研究』12-2 ・『環境問題における日中間協力の現状と課題』、2014年10月、『市政研究』185 ・『転換期にある東アジア地域の民間非営利環境協力』、2014年4月、『鳥取環境大学紀要』12 ・『日中間非営利交流・協力の現状と将来像』、2013年1月、『日中環境産業』49-1 ・『中国の人々の環境意識はどのように高まったか』、2012年10月、『世界』(岩波書店) 835 ・『中国環境NGOの今』『環境NPOの今ー日本と中国のNPO交流の現場からー』、2012年5月～2013年7月、『資源環境対策』『日中環境産業』『環境パートナーズ』48-5～49-8 ・『中国の環境NGOによるグリーン・サプライチェーン運動』、2012年4月、『環境と公害』41-4 ・『ユーラシア北東岸水域の環境汚染問題——松花江の汚染と対策を中心に』、2012年3月、『SEEDer』6
【社会貢献活動】	<ul style="list-style-type: none"> ・日中韓環境情報共有・交流事業 (http://www.enviroasia.info/) 運営委員 ・中国環境問題研究会 共同代表 ・中国の環境汚染被害発生地において、日本の水俣病の経験と教訓について中国語で講演 (日本政府による草の根無償資金援助事業の一環)、2017年11月

光山 博敏

MITSUYAMA, Hirotochi



准教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

mitsu414@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** 経営戦略論 I、事業創造論、中小企業経営論、経営戦略特論

■ **研究者略歴**

2007 (平成19) 年 7月	BYORA U.S.A. Corporation
2012 (平成24) 年 4月	福井県立大学 地域経済研究所
2014 (平成26) 年 4月	信州大学 グローバル教育推進センター 准教授
2016 (平成28) 年 4月	信州大学 経営大学院 兼任 准教授
2017 (平成29) 年 4月	信州大学 全学教育機構 特任准教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 准教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学 人間形成教育センター 兼任 准教授
2018 (平成30) 年 7月	公立鳥取環境大学 大学院環境経営研究科経営学専攻 兼任 准教授

Research

■ **取得学位** 博士 (技術経営) (立命館大学MOT大学院)

■ **専門分野** 技術経営 技術戦略 国際戦略経営

■ **現在の研究テーマ** ・IoT化の阻害要因とミドルウェア共通モジュールを起点としたビジネスプロセス研究
 ・日本メーカーが有する技術的、組織的ケイパビリティを基点とした戦略経営およびイノベーション経営に関する研究

■ **所属学会** 組織学会、日本MOT学会、国際戦略経営学会、日本中小企業学会

Data

■ **研究等活動**

【著書】

- ・「現場力-強い日本企業の秘密-」(共著)、(2020)、筑摩書房
- ・「地方創生のための経営学入門」(共著)、(2019) 今井書店
- ・「一橋ビジネスレビュー」(共著)、(2017冬号) 東洋経済新報社
- ・「アジア大の分業構造と中小企業」33巻(共著)、(2014) 同友館
- ・「Capability building for organizational transformation」(共著)、(2013) Bloomsbury Publishing
- ・「International conference on management cases」(共著)、(2012) Macmillan Publishers

【論文】

- ・Consideration on the Essence of Industry 4.0. (2019) International Journal of Business and Management Studies, 12 (1) pp.43-50.
- ・"Understanding the Essential Features of Industry 4.0 in Germany" (2018) International Journal of Business and Management Studies, 6 (2):pp.441-450.
- ・"A Comparative Study on the Impact of in-House Manufacturing Machinery Departments on Sustainable Competitive Advantage." (2017) International Journal of Business and Management Studies, Vol.5 (2):pp.1-8.
- ・"A Study of Trans-Generational Manufacturing Design Paradigm Paralysis in Japan." (2016) International Journal of Business and Management, Vol.8 (5):pp.37-48.
- ・"A Study on the Correlation between Inimitable Factors and Sustainable Competitive Advantage for Detail Controlled Parts Manufacturers in Japan." (2015) International Journal of Business and Management Studies, Vol.3 (2):pp.137-147.
- ・"The Hidden Competitiveness of Japanese Manufacturing Industry" (2013) Macrotheme Review, Vol.2 (3):pp.10-21.
- ・"Consideration of the Technology Brands and Price Premium Strategies for SPM in Japan." (共著)、(2013) International Journal of Business Performance Management, Vol.14 (4):pp. 356-367.

■ **社会貢献活動**

- ・一般社団法人 日本能率協会 講師
- ・立命館大学OIC 総合研究機構 グローバルMOT研究センター 客員研究員
- ・一般社団法人 経営研究所, サブコーディネーター (2014~2015)

【講演会】

- ・「ドイツ・インダストリー 4.0の総括とものづくりの今後」一般社団法人日本産業能率協会 (ドイツ) (2019)
- ・「ドイツ インダストリー 4.0からものづくりの本質を再考する」一般社団法人日本産業能率協会 (2019)
- ・「競争力強化に向けた戦略思考の重要性」一般社団法人日本産業能率協会 (2019)
- ・「デジタル環境下における 戦略思考の重要性」オリンパス株式会社 (2019)
- ・「リーバイ・ストラウス社と企業倫理 ~ Critical Thinkingを起点として~」オリンパス株式会社 (2019)
- ・「ドイツ・インダストリー 4.0の技術的障壁とものづくりの本質」一般社団法人日本産業能率協会 (2018)
- ・「ボーダーレス市場環境下における 戦略思考の重要性」一般社団法人日本産業能率協会 (ドイツ) (2018)
- ・「インダストリー 4.0の最新動向について」全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会 (電機連合) (2018)
- ・「インダストリー 4.0の崩壊が示唆するものづくりの重要な部分」共同報告 東京大学ものづくり経営研究コンソーシアム (2018)
- ・「ビジネスモデルを踏まえた戦略思考の重要性」~産業のボーダーレス化がもたらす機会と脅威~ 富士電機パワーセミコンダクタ株式会社 (2017)
- ・「インダストリー 4.0および労働4.0の動向について」労働運動総合研究所 (労働総研) (2017)

俞 成華

Yu, Chenghua



准教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile
Research
Data

主な担当科目 経営学入門、人的資源管理論、経営倫理（学部）、経営管理特論（大学院）

研究者略歴

1992 (平成 4) 年 7月	中国福建医科大学 基礎医学部 卒業
1997 (平成 9) 年 3月	メロス言語学院 (日本語学校) 修了
2001 (平成13) 年 3月	東京都立大学 経済学部 卒業
2003 (平成15) 年 3月	横浜国立大学大学院 国際社会科学研究所 博士課程前期 経営学修士 修了
2006 (平成18) 年 3月	横浜国立大学大学院 国際社会科学研究所 博士課程後期 経営学博士 修了
2008 (平成20) 年 4月	首都大学東京 都市教養学部非常勤講師 (～2009年3月)
2009 (平成21) 年 4月	帝京平成大学 現代ライフ学部レジャービジネス学科助教 (～2012年3月)
2012 (平成24) 年 4月	東京大学 ものづくり経営研究センター 特任研究員 (～2012年8月)
2012 (平成24) 年 9月	中国福建工程学院 管理学院マーケティング学科准教授 (～2016年3月)
2016 (平成28) 年 4月	九州国際大学 現代ビジネス学部地域経済学科特任教授 (～2018年3月)
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科准教授
2018 (平成30) 年 7月	公立鳥取環境大学大学院 環境経営研究科 経営学専攻准教授

取得学位 経営学博士 (横浜国立大学)
専門分野 経営学 (人的資源管理、国際経営、組織間関係)

現在の研究テーマ

- ・中国中外合併企業のR&D
- ・日本の経営・生産システムの海外移転可能性
- ・人的資源管理の国際比較
- ・中国電気自動車のR&D・普及と環境戦略

受賞歴

- ・2013 (平成25) 年12月 中国福建省重点課題優秀調研究成果特別賞
- ・2018 (平成30) 年 3月 九州国際大学平成29年度「優秀教育教員」(ベストティーチャー賞)

所属学会 日本経営学会、日本労務学会、中国経済経営学会

研究等活動

- 【著書】**
- ・「アフリカの日本企業—日本の経営生産システムの移転可能性—」(共著) 第10章「中国企業のアフリカ経営」、2019年3月、時潮社。
 - ・「地方創生のための経営学入門」(共著) 序章「経営学の基本」、第4章「人的資源管理」、2019年3月、今井出版社。
 - ・「日中合併企業のマネジメント—技術・資金・人的資源」、2013年4月、ミネルヴァ書房。
- 【論文】**
- ・「中国の新エネルギー車政策と完成車メーカーの電動化戦略」、2020年4月、「公立鳥取環境大学紀要」vol.16、PP.RE11-RE30。
 - ・「ナイジェリアにおける中国民営企業のハイブリッド経営に関する研究—金帝靴業 (ナイジェリア) 有限公司の事例—」、2019年10月、法政大学イノベーション・マネジメント研究センター、ワーキング・ペーパーシリーズNo.215。
 - ・「東洋建設のケニアにおける海外事業展開と日本の経営・生産システム」(共著)、2019年10月、法政大学イノベーション・マネジメント研究センター、ワーキング・ペーパーシリーズNo.215。
 - ・「ケニアの二輪車市場に挑むホンダ・ケニアのハイブリッド経営」(共著)、2019年10月、法政大学イノベーション・マネジメント研究センター、ワーキング・ペーパーシリーズNo.215。
 - ・「海外建設プロジェクトにおける日本の経営の移転可能性に関する研究—東洋建設のケニアモンバサ港コンテナターミナル開発工事の事例」、2018年3月、九州国際大学現代ビジネス学会「国際・経済論集」創刊号、PP.163-180。
 - ・「南アフリカにおける日本企業の国際人的資源マネジメント」、2017年3月、九州国際大学経済学会「経営経済論集」第23号、PP.87-106。
 - ・「ポスト・アパルトヘイト南アフリカの労使関係に関する一考察—日系企業の事例を中心に」、2017年3月、九州国際大学社会文化研究所「社会文化研究所紀要」第78号、PP.1-26。
 - ・「日本企業の国際人的資源マネジメント—南アフリカにおける日系4社の事例を中心に」、2015年10月、日本マネジメント学会「全国研究大会報告要旨集」第72号、PP.65-68。
 - ・「关于着力共性技术创新推进我省产业结构升级的若干意见 (共通技術の革新による我が省産業構造のグレートアップを推進する提言)」(共著)、2013年7月、福建省委政策研究室「調研文稿」第6期、PP.55-66。
 - ・「The transferability of Japanese production system in Zimbabwe: A case study of Willowvale Mazda Motor Industries」、2012年5月、Manufacturing Management Research Center (MMRC), The University of Tokyo、No.402。
 - ・「在南アフリカ企業における人的資源マネジメントに関する予備的考察」、2013年3月、帝京平成大学「帝京平成大学紀要」第23巻第2号、PP.375-389。
 - ・「中国市場における日系家電企業の販売戦略に関する一考察—日立数字映像 (中国) 有限公司の事例を中心に」、2010年10月、国際ビジネス研究会「国際ビジネス研究」第2巻第2号、PP.125-139。
 - ・「多様な戦略的アライアンスを生かす東風汽車集団の変革」、2010年3月、帝京平成大学「帝京平成大学紀要」第21巻第2号、PP.131-142。
 - ・「中日ジョイントベンチャーの成長戦略とステークホルダー・マネジメント」、2006年3月、横浜国立大学大学院国際社会科学研究所博士學位論文。
 - ・「東南 (福建) 汽車工業有限公司の成長・発展プロセスにおける経営戦略とステークホルダー・マネジメント」、2005年10月、東京都立大学大学院社会科学研究所経営学専攻学術後援会「経営と制度」第3号、PP.61-76。
 - ・「中日ジョイントベンチャーとステークホルダー・マネジメント—福建富士通通信軟件有限公司の事例を中心に—」、2005年3月、横浜国立大学国際社会科学学会「横浜国際社会科学研究所」第9巻第6号、PP.113-130。
 - ・「日本国有企業の民営化プロセス—組織革新の政治的視点」、2003年3月、横浜国立大学大学院国際社会科学研究所修士學位論文
- 【学会報告】**
- ・「中国民族系小売企業の関係性優位に関する考察」、2019年11月、中国経済経営学会2019年度全国大会 (於 愛知大学)
 - ・「ポスト・アパルトヘイト南アフリカの労使関係に関する一考察」、2017年9月、日本労務学会第47回全国大会 (於 専修大学)
 - ・「日本企業の国際人的資源マネジメント—南アフリカにおける日系4社の事例を中心に」、2015年10月、日本マネジメント学会第72回全国研究大会 (於 香川大学)
 - ・「中国市場における日系企業の競争戦略」、2014年7月、横浜国立大学大学院国際社会科学府・研究院第5回グローバルセミナー 招待講演
 - ・「中国市場における日系家電企業の販売戦略に関する考察—日立数字映像 (中国) 有限公司の事例を中心に」、2009年10月、国際ビジネス研究会第16回全国大会 (於 横浜国立大学)
 - ・「多様な経営を生かす東風汽車の再生」、2007年6月、組織学会2007年度研究発表大会 (於 京都産業大学)
 - ・「中日JVの経営戦略とステークホルダー・マネジメント—日立 (福建) 数字媒体有限公司の事例を中心に」、2005年6月、組織学会2005年度研究発表大会 (於 横浜国立大学)
 - ・「中日JVステークホルダー・マネジメント—福建富士通通信軟件有限公司の事例を中心に」、2004年11月、国際ビジネス研究会第11回全国大会 (於 関西学院大学)
- 【社会貢献活動】**
- ・西日本学生リーダーズ・スクール「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」(UNGL) 運営委員(2016年4月～2018年3月)
 - ・公立鳥取環境大学公開講座 (2019年度)

倉持 裕彌

KURAMOCHI, Hiromi



地域イノベーション研究センター副センター長
准教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

■主な担当科目 社会調査法, コミュニティ・ビジネス論

■研究者略歴

1998 (平成10) 年 3月	立教大学社会学部社会学科卒業
2004 (平成16) 年 3月	立教大学大学院社会学研究科応用社会学専攻博士前期課程修了
2005 (平成17) 年 7月	財団法人とっとり政策総合研究センター着任
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学地域イノベーション研究センター講師
2014 (平成26) 年 4月	鳥取環境大学地域イノベーション研究センター准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部准教授
2016 (平成28) 年 4月	鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻博士後期課程修了
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻准教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター副センター長

Research

■取得学位 社会学修士 (立教大学), 博士 (工学) (鳥取大学)

■専門分野 地域社会学, コミュニティ・ビジネス論

■現在の研究テーマ
・商店街活性化の新たな担い手に関する研究
・空き店舗の活用に関する研究
・買い物支援に関する研究

■所属学会 日本都市社会学会, 地域社会学会, 土木学会, 日本都市計画学会, 農村計画学会

■資格 専門社会調査士

Data

■研究等活動

【著書】

・「地方創生のための経営学入門」(共著) 2019, 今井出版

【論文】

- ・「エリアマネジメントを活用した商店街の空き店舗対策に関する考察」2017, 『日本政策金融公庫論集』第35号
- ・「中山間地域における高齢者の買い物行動と健康維持に関する実証分析」(共著) 2015, 『都市計画論文集』第50回
- ・「官民の役割分担に着目した移動販売の持続可能性の改善に関する考察」(共著) 2015, 『運輸政策研究』第18号
- ・「中山間地域における買い物支援に関する考察 - 移動販売に着目して -」(共著) 2014, 『社会技術研究論文集』第11号
- ・「空き家を取り巻く諸問題 - 鳥取市・倉吉市空き家実態調査を通して -」2008, 『TORCレポート』, 31号
- ・「地域振興における担い手の活性化の条件 - 千葉県栄町商工会青年部の事例 -」2005, 『日本都市社会学年報』, 第23号

【研究報告】

・「観光列車運行に関する事例研究 - 若桜鉄道のSL観光列車運行に向けて -」2013, 『鳥取環境大学紀要』, 第11号

【報告書】

- ・「持続的な『小さな拠点』のあり方と検討プロセスに係る研究」2016年度, 鳥取県受託研究
- ・「街なか空き家の実態調査と利活用の検討」2013, 鳥取市受託研究

【研究助成】

- ・「鳥取県内商店街の活性化に資するテナントミックスに関する実証研究」2017, 鳥取県環境学術研究等振興事業
- ・「縮小社会における空き家問題への制度的対応の検討」2012, 鳥取県環境学術研究等振興事業

■社会貢献活動

【委員等】

- ・鳥取県景観審議委員
- ・鳥取市空家等対策協議会委員
- ・岩美町総合戦略推進委員
- 他多数

中尾悠利子

NAKAO, Yuriko



サステナビリティ研究所副所長、
准教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

<https://researchmap.jp/sus-ac/>

Profile

■ **主な担当科目** 環境経営、経営戦略論、共生経営論

■ 研究者略歴

2005 (平成17) 年 9月	関西学院大学大学院総合政策研究科博士課程前期課程修了
2012 (平成24) 年 9月	神戸大学大学院経営学研究科専門職学位課程修了
2013 (平成25) 年 4月	関西学院大学経済学部非常勤講師 (～2013年9月)
2014 (平成26) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科講師
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科講師
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻講師
2017 (平成29) 年 9月	神戸大学大学院 経営学研究科 経営学専攻 博士課程後期課程 修了 博士 (経営学)
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 大学院環境経営研究科 経営学専攻 准教授
2020 (令和2) 年 4月	公立鳥取環境大学 サステナビリティ研究所副所長

Research

■ **取得学位** 博士 (経営学) (神戸大学)

■ **専門分野** 環境経営, CSR経営

■ **現在の研究テーマ** 企業のESG (環境・社会・ガバナンス) 情報におけるテキストを対象とし、定量分析を行っています。ESG情報は、財務情報とは異なり定量情報の解釈が標準化されていないことから、定性情報による説明が重要であると考えられます。したがって、定性情報であるテキストにどのような特性があり、企業評価に活用するための課題を明らかにすることは重要であると考えられます。

■ **受賞歴** 2018年10月 日本社会関連会計学会2018年度学会奨励賞

■ **所属学会** 日本会計研究学会、日本社会関連会計学会、環境経済・政策学会、神戸CSR研究会

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・「SDGs ウォッシュを考える—ストーリーとしてのサステナビリティ戦略を目指して」第11章、『SDGsを考える—歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』2020年、ナカニシヤ出版
- ・“Legitimacy through Corporate Social Responsibility Rhetoric : An Analysis of Institutional Context and Language” (共著) Chapter 4, Sustainability Management and Business Strategy in Asia, 2019年, World Scientific Publishing
- ・「企業経営と環境」第11章、『地方創生の経営学入門』2019年、今井出版
- ・「環境とCSR」第11章、『CSRの基礎—企業と社会の新しいあり方—』2017年、中央経済社
- ・「企業の社会的責任活動と企業業績ならびに環境イノベーション」第15章 (共著)、『持続可能社会と市場経済システム』,2008年、関西学院出版会
- ・「環境パフォーマンスと財務パフォーマンスの関連性:日本企業についての実証分析」第3章 (共著)、『環境政策が企業の環境・財務パフォーマンスの関係に及ぼす影響』第4章 (共著)、『環境経営のイノベーション—企業競争力向上と持続可能社会の創造』,2006年、生産性出版
- ・「持続可能性報告書とGRIガイドライン」第7章、『企業とステークホルダーとの対話』第14章、『持続可能社会のフロンティア』 (共著) ,2004年、関西学院出版会

【論文】

- ・「ニューラルネットワークによるサステナビリティ情報のテキスト分析—経営トップメッセージの環境・社会記述分析への適用—」 (共著) 2019年、『企業と社会フォーラム学会誌』企業と社会シリーズ第8巻 57-72頁。
- ・「言葉と環境/社会パフォーマンスとの関連—テキストマイニングによるCSRレトリック分析—」 (単著) 2018年、『社会関連会計研究』第30号、63-84頁。
- ・「サステナビリティ報告とレトリック—経営トップメッセージのテキストマイニング—」 (単著) ,2017年、『神戸大学大学院経営学研究科博士論文』(学位授与番号:甲第318号) ,1-168頁
- ・「環境社会報告の記述的表現の研究の方法と結果に対する考察」 (単著) ,2015年、『鳥取環境大学紀要』第13号、31-40頁
- ・「社会・環境パフォーマンスと記述的表現の関係性:社会環境報告書の分析を通して」 (共著) ,2014年、『会計』185巻第6号、68-81頁
- ・「企業評価におけるESG情報開示のメリットとわが国における課題」 (単著) ,2012年、『総合政策研究』,第40号、99-103頁
- ・“Corporate environmental and financial performances and the effects of information-based instruments of environmental policy in Japan” (共著) ,2007, International Journal of Environment and Sustainable Development, Vol. 6, No. 1, pp.95-112
- ・“Relationship between environmental performance and financial performance: an empirical analysis of Japanese corporations” (共著) ,2007, Business Strategy and the Environment, Vol. 16, Issue 2, pp.106-118

【Proceedings】

- ・“Using a neural network for text analysis of sustainability disclosure: Evidence from Japan” (共著) , Proceedings of (the 9th Asia-Pacific Interdisciplinary Research in Accounting (APIRA2019), 2019, Auckland University, New Zealand.
- ・“Exploring the CEO’s words for Sustainability: Trends in Environmental and Social Disclosure from 2001 to 2015.” (共著) ,2017, CSEAR North-Asia Hong Kong Conference 2017
- ・“Determinants of Narrative Content of Sustainability Reporting by Japanese Companies” (共著) ,2013, APIRA(The Seventh Asia Pacific Interdisciplinary Research in Accounting Conference), Kobe, Japan

【Discussion Paper】

- ・“Do Sustainability Reports Strategically Employ Rhetorical Tone? : An evidence from Japan” (共著) ,2019, Graduate School of Business Administration, Kobe University, Discussion Paper Series, 2019(1), pp.1-24

■ 社会貢献活動

- 「SDGsと企業経営～2030年に選ばれる企業とは～」鳥取県経済同友会西部地区オープン例会, 2019年12月
- 「SDGsと企業経営」鳥取実業倶楽部 2018年12月例会
- 鳥取県信用保証協会理事 (2018年8月～2021年7月), 鳥取県防災会議委員 (2018年3月～2020年3月)

川崎 紘宗

KAWASAKI, Hironori



准教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■主な担当科目	管理会計, 原価計算論, 商業簿記
■研究者略歴	
2008 (平成20) 年 3月	松山大学 経営学部 卒業
2010 (平成22) 年 3月	神戸大学大学院 経営学研究科 博士前期過程 修了
2011 (平成23) 年 3月	高松大学 経営学部 助教
2014 (平成26) 年 3月	神戸大学大学院 経営学研究科 博士後期過程 修了
2014 (平成26) 年 4月	高松大学 経営学部 講師
2016 (平成28) 年10月	公立鳥取環境大学 経営学部 講師
2017 (平成29) 年 4月	公立鳥取環境大学 環境経営研究科 経営学専攻 講師
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 環境経営研究科 経営学専攻 准教授

■取得学位	博士 (経営学) (神戸大学)
■専門分野	管理会計, 予算管理, 政府会計, 会計史
■現在の研究テーマ	・20世紀初頭のアメリカ政府予算と企業予算との関係性に関する研究 ・アメリカの政府組織と一般企業の組織の管理に革新主義 (効率性と経済性を追求する社会的ムーブメント) の思想が与えた影響についての考察
■所属学会	日本管理会計学会, 非営利法人研究学会, 日本簿記学会

■研究等活動	
【著書】	<ul style="list-style-type: none"> ・『地方創生のための経営学入門』(共著) (第1章担当), 2019年, 今井出版。 ・『近代会計史入門 (第2版)』(共著) (第11章担当), 2019年, 同文館出版。 ・『基礎簿記会計 (四訂版)』(共著) (第11章担当), 2016年, 五紘舎。 ・『現代会計用語辞典』(共著) (『環境マネジメントシステム』, 『最終仕入原価法』, 『持続可能性』, 『製造指図書』担当), 2016年, 税務経理協会。 ・『近代会計史入門』(共著) (第11章担当), 2014年, 同文館出版。
【論文】	<ul style="list-style-type: none"> ・「会計研究と解釈学—ガダマーの解釈学を中心として—」, 2018年, 『松山大学論集』第30巻第4-2号 69-87頁 (松山大学)。 ・「アメリカ連邦政府における予算制度の変遷」, 2017年, 『研究紀要』第67号 (http://www.takamatsu-u.ac.jp/library/06_gakunaisyupan/kiyo/no67/67_UG002_001-014_kawasaki.pdf) (高松大学)。 ・「McKinseyによるBudgetary Control (1922) と政府の予算制度」, 2016年, 『研究紀要』第64・65号, 21-37頁 (高松大学)。 ・「20世紀初頭のアメリカの州政府へ導入された新たな予算制度についての考察」, 2015年, 『研究紀要』第62・63号, 113-133頁 (高松大学)。 ・「アメリカ地方政府の会計におけるChase(1910)の思考」, 2013年, 『研究紀要』第58・59号, 153-165頁 (高松大学)。 ・「予算・会計法の導入の背景と予算編成の手続」, 2013年, 『研究紀要』第58・59号, 77-91頁 (高松大学)。 ・「予算制度に関するタフト委員会の思考」, 2012年, 『研究紀要』第56・57号, 81-109頁 (高松大学)。
■社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「いまさら聞けない簿記・会計のこと！—簿記や会計の基礎知識を学ぶ—」鳥取環境大学公開講座社会人セミナー (2017年)。 ・鳥取県県土整備部指定管理施設運営評価委員会委員長、鳥取県県土整備部指定管理候補者審査委員会委員長(2017年-2023年)。 ・「会計学は難しい?! 会計情報の読み方はなし」とっとり消費者大学「くらしの経済・法律講座」(後期: 公立鳥取環境大学) (2018年-2019年)。

高井 亨

TAKAI, Toru



准教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

■ **主な担当科目** 統計学入門、ミクロ経済学、データ解析、環境評価特論、経営統計特論

■ **研究者略歴**

2002 (平成14) 年 3月	筑波大学第三学群社会学類都市計画主専攻卒業
2004 (平成16) 年 3月	京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻修士課程修了
2008 (平成20) 年 3月	京都大学大学院経済学研究科経済システム分析専攻博士後期課程修了
2008 (平成20) 年 4月	独立行政法人産業技術総合研究所安全科学研究部門産総研特別研究員
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学地域イノベーション研究センター講師
2014 (平成26) 年 4月	鳥取環境大学地域イノベーション研究センター准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻准教授

Research

■ **取得学位** 京都大学博士 (経済学)

■ **専門分野** 社会学、環境評価

■ **現在の研究テーマ** ・社会学の基礎
・統合型環境指標の開発
・持続可能な発展における動物への配慮
・緩やかなヴィーガニズムの普及方策

■ **所属学会** 進化経済学会, 経済理論学会, 環境科学会, 人と動物の関係学会

Data

■ **研究等活動**

【著書】

・『SDGs を考える一歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』(共編著) (「まえがき」「0章：風変わりな序章-SDGsの下に埋もれるものたちからSDGsをみつめる」「3章：世界はSDGsの意味で持続可能か」)、ナカニシヤ出版、2020年

【論文】

- ・『SDGs の到達度を測るー正射影ベクトルを用いた統合指標作成の試み』『経済論叢』194(1)、2020年
- ・『デカップリング指標の基礎：概念・理論・測定』『公立鳥取環境大学経営学部ディスカッションペーパー』2018-4、2019年
- ・『デカップリング指標は何を測定しているのか』『環境情報科学学術研究論文集』29、2015年
- ・『鳥取環境大学が地域におよぼす経済効果の推計』『鳥取環境大学紀要』13、2015年
- ・『ヒブリオバトルによる域学連携の試み』『鳥取環境大学紀要』12、2014年
- ・『地域コミュニティ支援事業の費用便益分析：鳥取市を例に』『鳥取環境大学紀要』11、2013年
- ・『シフト・シェア分析を用いた二酸化炭素排出構造の要因分析』『環境情報科学学術研究論文集』26、2012年
- ・『ヘドニック・アプローチによる地域コミュニティの価値の貨幣評価-鳥取市を例に-』『TORCLレポート』35、2012年
- ・『住民選好に基づいた地域コミュニティ支援政策の評価 -鳥取市によるまちづくり協議会への支援事業を対象として-』『TORCLレポート』35、2012年
- ・『経済成長と二酸化炭素排出量削減は両立するか-デカップリング概念を用いた国際比較-』『経済論叢』184(2)、2010年
- ・『デカップリング概念と要因分解の統合による持続可能性評価』『環境情報科学論文集』24、2010年
- ・『情報提供が人々の便益認知およびリスク認知に与える影響：ナノテクノロジー応用製品のケース』(共著・筆頭)『日本リスク研究学会誌』20-3、2010年
- ・『ナノテクノロジー製品の受容に感情、信頼および知識の及ぼす影響』(共著・筆頭)『日本リスク研究学会誌』19-4、2009年
- ・『自治体における環境と経済とのデカップリング状態の評価手法について』(共著・筆頭)『環境情報科学論文集』23、2009年
- ・『Comparative analysis on eco-efficiency of the local government』(共著・筆頭) Proceedings of The 8th International conference on EcoBalance、2008年
- ・『家庭内の利他行動を考慮したヘドニック・アプローチ：理論と実証』『進化経済論集』11、2007年
- ・『ヘドニック・アプローチによる原子力事故の影響評価』『日本リスク研究学会講演論文集』18、2005年

【報告書】

・『住民選好にもとづく地域交通体系への政策提言』『地域イノベーション研究』3、2016年 ほか

■ **社会貢献活動**

- ・ J A鳥取県中央会年次総会での講演 (2019年6月)
- ・ 鳥取県教育委員会指定管理候補者審査・指定管理施設運営評価委員会 委員長 (2018年度)
- ・ 鳥取市消費者市民まつりシンポジウム パネリスト (2017年3月)
- ・ 鳥取県立鳥取西高等学校「思索と表現 (文部科学省SGH事業)」講師 (2016年度) ほか

島田 善道

SHIMADA, Yoshimichi



講師

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

✉ shimaday@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 経営組織論 1・2, 国際経営論

■研究者略歴

1992 (平成 4) 年 3月	立命館大学経営学部経営学科卒業 (学士 (経営学))
2015 (平成27) 年 3月	大阪府立大学大学院経済学研究科経営学専攻修了 (修士 (経営学))
2020 (令和 2) 年 3月	神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程単位取得退学
1992 (平成 4) 年 4月	パナソニック株式会社 (～2012年12月)
2015 (平成27) 年 4月	姫路獨協大学非常勤講師 (～2017年9月)
2016 (平成28) 年 4月	京都外国語大学・京都外国語短期大学非常勤講師 (～2019年3月)
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科講師
2018 (平成30) 年 7月	公立鳥取環境大学環境経営研究科経営学専攻講師
2018 (平成30) 年10月	大阪経済法科大学非常勤講師 (～2020年3月)
2019 (平成31) 年 4月	兵庫県立大学大学院非常勤講師
2020 (令和 2) 年 4月	龍谷大学非常勤講師

Research

■取得学位 修士 (経営学)

■専門分野 経営学, 経営組織論, 国際経営論, 経営管理論

■現在の研究テーマ

- ・日本企業におけるグローバルリーダー行動の研究
- ・日本企業の国際化に関する研究
- ・人材育成やリーダーシップ, 組織開発に関する研究

■受賞歴 2017 (平成29) 年6月 社会科学特別奨励賞(凌霜賞)受賞(神戸大学六甲台後援会海外派遣助成)

■所属学会 日本経営学会, 経営学史学会, 日本労務学会, 日本情報経営学会, 組織学会, 国際ビジネス研究学会, 経営行動科学学会

Data

■研究等活動

【著書】

- 『経営学ファーストステップ』(共著), 2020年, 八千代出版
- 『経営組織入門』(共著), 2020年, 文眞堂
- 『日本の人事システム—その伝統と革新』(共著), 2019年, 同文館出版
- 『地方創生のための経営学入門』(共著), 2019年, 今井出版
- 『ベーシック+ 人的資源管理』(共著), 2016年, 中央経済社

【論文】

- 「グローバル市場主義と日本人の働き方」(共著), 2019年, 『国民経済雑誌』第220巻第1号, 神戸大学経済経営学会
- 「Relationship between the principles of organization and requirements of global leader」, 2018年, Eurasian Journal of Business & Management
- 「日本企業におけるグローバルリーダーを取り巻く環境にかんする考察」, 2018年, 『経営問題』, 日本学術振興会産学協力研究委員会 経営問題第108委員会機関紙
- 「日本企業における組織編成原理とグローバルリーダーの適合」, 2018年, 神戸大学Discussion Paper 2018・5, 『人材マネジメントの新展開 調査報告書』
- 「グローバルリーダー研究の学史的な位置づけの検討」, 2017年, 『経営学史研究の興亡—経営学史学会年報第24輯』, 文眞堂
- 「日本型グローバルリーダーの探究に向けて」, 2016年, 『経営学論集 第87集』, 日本経営学会
- 「グローバルリーダーのコンピテンシー分類の試みと今後のグローバルリーダー研究の方向性」, 2016年, 『六甲台論集 経営学編』第63巻第1号, 神戸大学大学院経営研究会
- 「グローバルリーダーのコンピテンシーの探究とその研究課題」, 2016年, 『六甲台論集 経営学編』第62巻第4号, 神戸大学大学院経営研究会
- 「グローバルリーダー研究の系譜と課題」, 2015年, 大阪府立大学修士論文
- 「What Is a Global Leader?」, 2014年, Proceedings of International Federation of Scholarly Associations of Management (IFSAM2014) World Congress

【報告書】

- 「日本企業における組織編成原理とグローバルリーダーの適合の分析」(共著), 2018年, 「人材マネジメントの新展開 調査報告書」, 神戸大学大学院経営学研究科, 一般社団法人日本能率協会KAIIKAセンター JMAマネジメント研究所

谷口 謙次

TANIGUCHI, Kenji



講師

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

■主な担当科目 経営史、経済史、経済・経営史

■研究者略歴

1998 (平成10) 年 3月	大阪市立大学経済学部 卒業
2001 (平成13) 年 3月	大阪市立大学大学院経済学研究科前期博士課程 修了
2009 (平成21) 年 3月	大阪市立大学大学院経済学研究科後期博士課程 単位取得後退学
2013 (平成25) 年 4月	大阪市立大学大学院経済学研究科 特任助教
2014 (平成26) 年 4月	大阪市立大学大学院経済学研究科 博士研究員 (科研費)
2015 (平成27) 年 8月	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 研究員 (科研費)
2016 (平成28) 年 5月	大阪市立大学大学院経済学研究科 博士研究員 (科研費)
2017 (平成29) 年 5月	大阪市立大学大学院経済学研究科 博士研究員 (科研費)
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科講師
2018 (平成30) 年 7月	公立鳥取環境大学 大学院 環境経営研究科 経営学専攻講師

Research

■取得学位 博士 (経済学) (大阪市立大学) (2012年)

■専門分野 経営史、インド経済史、アジア経済史

■現在の研究テーマ

- ・植民地期インドでのイギリス東インド会社による貨幣政策の分析
- ・植民地初期のイギリス東インド会社の性格について
- ・近世以降のインドにおける貨幣の多様性について
- ・19世紀前半のインド経済について

■所属学会 社会経済史学会

Data

■研究等活動

【著書】

- ・『帝国とアジア・ネットワーク—長期の19世紀—』(共著) (第3章「18世紀後半のベンガルにおけるイギリス東インド会社の貨幣政策」担当)、2009年、世界思想社
- ・『SDGsを考える—歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』(共著)、(第1章「歴史からみた環境と経済開発」担当)、2020年、ナカニシヤ出版

【論文】

- ・「18世紀末ベンガルにおけるイギリス東インド会社の鑄造所改革」(単著) 2010年3月 経済学雑誌第110巻第4号
- ・「18世紀後半のベンガルにおける銀不足問題とベンガル植民地政府財政」(単著) 2012年3月 経済学雑誌第112巻第4号
- ・「近世南アジアの貨幣制度と18世紀ベンガルにおける貨幣の多様性」(単著) 2012年10月 松山大学論集、第4-2号
- ・「19世紀前半のインドにおける経済不況と貨幣供給—貴金属貿易と貨幣鑄造」(単著) 2016年10月 三田学会雑誌 109巻3号

連 宜萍

LIEN, Yiping



講師

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■主な担当科目 国際経済論、アジア経済論Ⅰ、アジア経済論Ⅱ

■研究者略歴

2002 (平成14) 年6月	中国文化大学商学部卒業 (台湾)
2004 (平成16) 年3月	麗澤大学別科日本語研修課程修了
2006 (平成18) 年3月	麗澤大学修士課程修了 (修士号・経済学)
2010 (平成22) 年3月	麗澤大学博士課程修了 (博士号・経済学)
1995 (平成 7) 年7月	帝一実業股份有限公司 (台湾) 営業部 (～2003年)
2010 (平成22) 年8月	銘傳大学 (台湾) 教育応用語文学部応用日本語学科兼任助教授 (～2011年)
2011 (平成23) 年4月	麗澤大学経済学部経営学科非常勤講師 (～2012年)
2012 (平成24) 年4月	麗澤大学経済学部経済学科助教授 (～2017年)
2017 (平成29) 年4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科講師
2018 (平成30) 年4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻講師
2019 (平成31) 年4月	京都外国語大学・京都外国語短期大学非常勤講師

■取得学位 博士 (経済学) (麗澤大学)

■専門分野 国際経済学、経済発展論、多国籍企業論

■現在の研究テーマ

- ・自由貿易体制の揺らぎが多国籍企業の投資行動に与える影響
- ・アジアにおける産業発展と国際分業
- ・台湾アパレル産業の発展とOEM

■所属学会 日本経済政策学会、国際開発学会、多国籍企業学会

■研究等活動

【著書】

- ・『SDGsを考えるー歴史、環境、経営の視点からみた持続可能な社会』(共著)、2020年、ナカニシヤ出版
- ・『地方創生のための経営学入門』(共著)、2019年、今井書店
- ・『中国語で読む経済学』(共著)、2014年、麗澤大学出版会

【論文】

- ・『揺らぐ自由貿易下での台湾企業の海外直接投資』、2019年、『改革者』、令和元年9月号
- ・『自由貿易体制の展開と限界』、2018年、『RIPESS麗澤大学経済社会総合研究センター Working Paper』、第89号
- ・『台湾のFTA参加問題と新南向政策』、2018年、『改革者』、平成30年8月号
- ・『圧縮型経済発展と中国の成長ー台湾の経験との比較を通して』、2015年、『経済政策ジャーナル』、第11巻第2号
- ・『日台ビジネスアライアンスによる中国進出一人的資源管理についての検討』、2015年、『経営会計研究』、第19巻第2号
- ・『OEMから高付加価値創造への方向性ー台湾のアパレル企業に対する事例調査を通して』、2010年、『麗澤経済研究』、第18巻第1号
- ・『An Empirical Study of OEM in Taiwan's Apparel Industry』、2009年、『Global Economic Review』(SSCI Journal), Vol.38, No.3.

【学会報告】

- ・『The changes of FDI and global supply chain in Taiwan's apparel industry』、2020年、ICBEIT 2020 Sydney
- ・『自由貿易体制の揺らぎが台湾企業の海外直接投資に与える影響』、2020年、日本経済政策学会第76回全国大会
- ・『The Expansion and the Limit concerning Free Trade Agreement』、2019年、ICBEIT 2019 Singapore
- ・『自由貿易体制の展開と限界』、2018年、麗澤大学経済社会総合研究センター小野プロジェクト研究報告会
- ・『台湾のFTA参加と輸出競争力』、2018年、日本経済政策学会第75回全国大会
- ・『Regional Development and Local Industry in Gifu: Focus on the Apparel Industry』、2016年、ICBM2016国際大会
- ・『中国の経済発展と政策転換に関する実証分析』、2014年、日本経済政策学会第71回全国大会
- ・『圧縮型経済発展と中国の成長ー台湾の経験との比較を通してー』、2013年、日本経済政策学会第70回全国大会

【書籍翻訳】

- ・『外商顧問超強資料製作術』(中国語繁体字)、2015年、時報文化出版社 (台湾)
- ・『心想事成的創意整理術』(中国語簡体字)、2015年、北京聯合出版公司 (中国)
- ・『發明未來的鋼鐵人ー伊隆・馬斯克傳』(中国語繁体字)、2014年、時報文化出版社 (台湾)

■社会貢献活動

- ・ロータリー財団の日中・日台通訳・翻訳

山口 和宏

YAMAKUCHI, Kazuhiro



講師

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

E-Mail k-yama@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 地域経営論 地域振興論 観光経営論

■研究者略歴

1999 (平成11) 年 3月	九州大学大学院農学研究科 修士課程修了
2004 (平成16) 年 4月	九州大学大学院生物資源環境科学研究科 博士後期課程修了
2004 (平成16) 年 5月	九州大学大学院農学研究院 学術特定研究者
2007 (平成19) 年 5月	佐賀大学海浜大地生物環境研究センター 研究支援推進員
2015 (平成28) 年 4月	一般社団法人北海道地域農業研究所 専任研究員
2019 (平成31) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部 講師
2019 (令和1) 年10月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻 講師

Research

■取得学位	博士 (農学) (九州大学)
■専門分野	地域振興論 農業経済学
■現在の研究テーマ	・ 農業労働力の減少が地域に与える影響に関する研究 ・ 地域振興に農業部門が果たす役割に関する研究
■受賞歴	2013 (平成25) 年9月 奨励賞 (食農資源経済学会)
■所属学会	日本農業経済学会、農業問題研究学会、食農資源経済学会

Data

■研究等活動	
【著書】	・ 「農業構造変動の地域分析」 (共著)、2012年、農山漁村文化協会 ・ 「集落営農組織の再編と水田農業の担い手」 (共著)、2011年、筑波書房
【論文】	・ 「北九州地域の構造変化と集落営農組織の実態－佐賀県を事例に－」、2011年、『農業問題研究 第44巻第2号』
【報告書】	・ 「JAが実施する無料職業紹介事業のニーズに関する調査研究」、2019年、北海道地域農業研究所 ・ 「地方創生における農協・自治体の役割－西日本の先進事例から－」 (共著)、2016年、北海道地域農業研究所

竹内 由佳

TAKEUCHI, Yuka



講師

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

■主な担当科目 流通論, マーケティング I

■研究者略歴

- 2007 (平成19) 年 3月 広島大学法学部法学科卒業
- 2010 (平成22) 年 3月 神戸大学大学院経営学研究科博士前期課程修了
- 2013 (平成25) 年 4月 高松大学経営学部 助教
- 2017 (平成29) 年 4月 公立鳥取環境大学経営学部 講師
- 2018 (平成30) 年 4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻 講師
- 2018 (平成30) 年 9月 神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得満期退学

Research

■取得学位 博士(商学) (神戸大学)

■専門分野 流通論, マーケティング論, 消費者行動論

■現在の研究テーマ ・企業の社会的責任とマーケティングの関係に関する研究。
・コース・リレーテッド・マーケティングに関わる消費者像に関する研究。

■所属学会 日本商業学会, 大学教育学会, 日本リメディアル教育学会

Data

■研究等活動

【著書】

- ・「第5章 マーケティング」、倉持裕彌、磯野誠、川崎紘宗、叡成華編著『地方創生のための経営学入門』、今井出版、2019年
- ・「SDGsとマーケティング」、高井亨、甲田紫乃編著『SDGsを考える——歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』、ナカニシヤ出版、2020年

【論文】

- ・「コースリレーテッド・マーケティングが企業と消費者の価値共創に与える影響 —株式会社 フェリシモの事例より—」、2010年、修士論文 (神戸大学)
- ・「マーケティングと企業の社会的責任」、『季刊マーケティング・ジャーナル』、2011年、第119巻
- ・「全体主義から見たマーケティング (前編)」、『高松大学研究紀要』、2015年、第63号
- ・「サービスとしての講義—顧客歓喜の視点より—」、『高松大学研究紀要』、2016年、第64・65号
- ・「社会的大義を訴求するマーケティングの成立過程とその要因」、2019年、博士論文 (神戸大学)

■社会貢献活動

- ・2014年9月 女木コミュニティセンター講座 「身近にあふれるマーケティング」
- ・2016年3月 こんびら大学 「数字に騙されるな! ~統計学の初歩の初歩~」
- ・2016年8月 男木コミュニティセンター講座 「身近にあふれるマーケティング」
- ・2016年10月 女木コミュニティセンター講座 「数字に騙されるな! ~統計学の初歩の初歩~」
- ・2019年3月 第18回 平成30年度 公益社団法人鳥取県栄養士会栄養士のための調査・研究研修会での講演「なんと身近な統計学~実証研究の初歩の初歩~」

佐藤 彩子

SATO, Ayako



講師

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile
Research
Data

■**主な担当科目** 地域経済論、地域産業論、日本経済論

■**研究者略歴**

2010 (平成22) 年 3月	慶応義塾大学商学部 商学科卒業
2012 (平成24) 年 3月	九州大学大学院経済学府 経済システム専攻 修士課程修了 修士(経済学)
2015 (平成27) 年 3月	九州大学大学院経済学府 経済システム専攻 博士後期課程単位修得退学
2015 (平成27) 年 4月	九州大学大学院経済学研究院助教
2016 (平成28) 年 4月	九州大学大学院経済学研究院専門研究員
2017 (平成29) 年 4月	三重大学地域人材教育開発機構特任講師
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科講師
2019 (平成31) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻講師

■**取得学位** 博士(経済学)(九州大学)

■**専門分野** 地域経済学、経済地理学

■**現在の研究テーマ**

- ・介護サービスの産業特性に関する研究
- ・介護サービス地域労働市場の構造に関する研究
- ・介護福祉士養成学校卒業者の就職に関する研究

■**所属学会** 経済地理学会、日本地理学会、九州経済学会、日本地域経済学会、日本地域政策学会、日本老年社会学会、地理科学学会

■**研究等活動**

【論文・紀要】

- ・「高齢期の働き方に関する事例研究：広告業D社グループの転籍実態を対象として」、2019年、『ディスカッションペーパーシリーズ』第1号(公立鳥取環境大学経営学部)
- ・「介護サービス労働力の質的不足の地域差」、2019年、『公立鳥取環境大学紀要』第16号
- ・「介護福祉士養成学校の卒業生とその他経歴の介護サービス従業者の就職－福岡県の介護サービス労働市場を対象として－」、2018年、『ディスカッションペーパーシリーズ』第1号(公立鳥取環境大学経営学部)
- ・「介護サービスの産業特性と労働市場に関する研究：福岡県を事例として」、2017年、九州大学博士論文
- ・「居宅サービス企業における経営資源、顧客確保とネットワーク－福岡市に立地する企業を事例として－」、2016年、『地域経済学研究』第31号(日本地域経済学会)
- ・「介護事業所内の従業者の階層性と男性従業者の位置付け－福岡市を事例として－」、2014年、『経済論究』第150号(九州大学大学院経済学)
- ・「高齢者の転籍に関する事例研究－2000年代におけるグループ経営という観点からの分析－」、2012年、九州大学修士論文

【報告書】

- ・「介護サービス産業労働力に関するジェンダー地理学研究－福岡県を対象として－」、2015年、九州大学ジェンダー研究に取り組む学生への研究助成プログラム平成26年度研究成果報告書

【学会発表】

- ・「地方圏で働く介護職員の職業経歴と定着プロセス：福岡県筑豊地域の特別養護老人ホームを対象として」、2020年日本地理学会春季学術大会、2020年3月27日、於：駒澤大学
- ・「介護福祉士の就業特性とその要因－福岡市の特別養護老人ホームを対象として－」、2019年日本地理学会春季学術大会、2019年3月20日、於：専修大学
- ・「高齢期の働き方に関する事例研究：広告業D社グループの転籍実態を対象として」、日本経営学会関西西部会第642回例会、2018年12月15日、於：公立鳥取環境大学
- ・「介護サービスの産業特性と労働市場の構造－福岡県の場合－」、経済地理学会第65回大会、2018年5月27日、於：東北大学
- ・「大分市の介護サービス専門職従事者の通勤圏」、2018年日本地理学会春季学術大会、2018年3月22日、於：東京学芸大学
- ・「福岡市に立地する介護福祉士養成学校入学者の出身地域」、2016年日本地理学会春季学術大会、2016年3月21日、於：早稲田大学
- ・「介護職を目指す新規卒者にとつての労働市場－福岡県を対象として－」、経済地理学会西南支部9月例会、2014年9月27日、於：北九州市立大学

【研究助成】

- ・「介護サービス産業の専門職確保と就業に関する研究：大分県を対象に」、代表、2017年7月～2018年3月、平成29年度三重大学若手研究支援事業
- ・「三重県の餅文化を活かした地域活性化～三重創生ファンタジスタクラブ「三重餅プロジェクト」～」、代表、2017年7月～2018年3月、平成29年度三重大学地域貢献活動支援事業
- ・「介護福祉士養成学校の学生確保に関する経済地理学的研究」、代表、2015年8月～2016年3月、平成27年度九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト(P&P)

【その他】

- ・「都道府県スケールでみた介護サービス労働力の量的・質的不足の地域差」、2020年、『地域ケアリング』2020年3月号(北陸館)
- ・「地域系ゼミによる教育活動の実践－鳥根県隠岐郡海士町でのフィールド調査から－」、2020年、『日本地域政策研究』第24号

■**社会貢献活動**

- ・「～超高齢社会における人財の確保、育成、事業継承について考える～その1・2」(NPO法人笑老ライフ研究所第7・8回研修会)、ファシリテーター、NPO法人笑老ライフ研究所、2014年
- ・「介護職従事者に関するジェンダー地理学研究－福岡県内の介護サービス事業所を対象に行ったアンケート調査より－」(NPO法人笑老ライフ研究所第20回研修会)、講師、NPO法人笑老ライフ研究所、2015年
- ・精華女子短期大学 専攻科保育福祉専攻「介護職実践セミナー」、外部有識者、2015年度～2016年度
- ・「養成学校を卒業した介護福祉士の重要性和現場での評価」(麻生専門学校グループ「高等学校1・2年生の進路指導に関わる専門学校説明及び公開・体験授業」)、講師、麻生医療福祉専門学校福岡校、2016年
- ・「養成学校を卒業すると何が違うのか～介護サービス労働市場と介護福祉士養成施設の役割～」、(公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会九州ブロック教員研修会)、基調講演、福岡市、2016年
- ・福岡福祉向上委員会 顧問、2017年～
- ・三重創生ファンタジスタクラブ三重もちもちプロジェクト(地域活動団体)、担当講師、2017年
- ・「高齢化・過疎化時代を支える情報サービス」(公立鳥取環境大学公開講座)、講師、公立鳥取環境大学西部サテライトキャンパス、2018年9月
- ・「鳥取県の高齢化と介護サービス人材」(公立鳥取環境大学「未来への授業」)、講師、公立鳥取環境大学、2018年10月
- ・「医療・介護サービス人材不足を補う情報サービス」(公立鳥取環境大学「未来への授業」)、講師、公立鳥取環境大学、2018年10月
- ・「高齢化・過疎化時代を支える情報サービスと若者向け雇用機会の提案～麒麟地域と中海・宍道湖・大山地域を比較して」(公立鳥取環境大学 第5回とっとり麒麟地域活性化プラットフォーム地域連携推進会議)、講師、公立鳥取環境大学、2018年11月
- ・「高齢化・過疎化問題を考える」(公立鳥取環境大学出張講義)、講師、赤穂高校、2018年11月
- ・鳥取市現本庁舎等跡地活用に関する検討委員会、委員、2018年8月～2020年1月

名古屋孝幸

NAGOYA, Takayuki



人間形成教育センター副センター長
教授

所属…人間形成教育センター

Profile

主な担当科目	情報リテラシ1・2、プログラミング、数理基礎
研究者略歴	
2002 (平成14) 年 4月	東京電機大学理工学部情報システム学科助手
2007 (平成19) 年 4月	東京電機大学理工学部サイエンス学系助教
2008 (平成20) 年10月	鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科助教
2011 (平成23) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科講師
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学人間形成教育センター講師
2013 (平成25) 年 4月	鳥取環境大学人間形成教育センター准教授、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授、大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター副センター長

Research

取得学位	博士 (理学) (電気通信大学)
専門分野	アルゴリズム論, 計算量理論, グラフ理論, オペレーションズ・リサーチ
現在の研究テーマ	・ グラフ同型性判定問題の計算量の解析 ・ 配送計画問題に対する近似アルゴリズムの研究 ・ グラフ理論を用いた静的文字画像からの筆記運動の抽出
所属学会	ヨーロッパ理論計算機学会 (European Association for Theoretical Computer Science), 電子情報通信学会, 情報処理学会

Data

研究等活動	
【論文】	<ul style="list-style-type: none"> ・ [Polynomial Time Algorithms for Variants of Graph Matching on Partial k-Trees] (単著), 2016年, Foundations of Computing and Decision Sciences, Vol. 41, Issue 3, De Gruyter. ・ [Recovering Human-Like Drawing Order from Static Handwritten Images with Double-Traced Lines] (共著), 2012年, Lecture Notes in Electrical Engineering, Vol.253. ・ [クリークサイズを制限した弦グラフに対する制約付きグラフ同型性判定アルゴリズム] (単著), 2012年, 電子情報通信学会和文論文誌 D, Vol.J95-D, No.11. ・ [Recovering Drawing Order of Single-Stroke Handwritten Images Using Probabilistic Tabu Search] (共著), 2012年, Journal of Mobile Multimedia, Vol.8, No.2. ・ [Computational complexity of computing a partial solution for the graph automorphism problems] (共著), 2009年, Theoretical Computer Science, Vol. 410, Issue 21-23. ・ [New differential approximation algorithm for k-customer vehicle routing problem] (単著), 2009年, Information Processing Letters, Vol. 109, Issue 8. ・ [Computing Graph Automorphism from Partial Solutions] (単著), 2009年, Theory of Computing Systems, Vol. 44, No. 3.
【査読付き国際会議】	<ul style="list-style-type: none"> ・ [Variants of graph matching for tree-like graphs] (単著), 2015, International Conference on Big Data Intelligence and Computing, Chengdu, China. ・ [Recovering Dynamic Stroke Information of Multi-Stroke Handwritten Characters with Complex Patterns] (共著), 2012, International Conference on Frontiers in Handwriting Recognition, Bari, Italy. ・ [A Graph Theoretic Algorithm for Recovering Drawing Order of Multi-Stroke Character Image] (共著), 2011, The Third International Conference on Intelligent Networking and Collaborative Systems, Fukuoka, Japan. ・ [Recovering Drawing Order from Static Handwritten Images Using Probabilistic Tabu Search] (共著), 2011, IEEE Region 10 Conference, Bali, Indonesia. ・ [Recovering Stroke Order from Multi-Stroke Character Images] (共著), 2011, 2nd International Conference on Innovative Computing and Communication, Macao, Macao. ・ [Relating Complete and Partial Solution for Problems Similar to Graph Automorphism] (共著), 2007, The 32nd International Symposium on Mathematical Foundations of Computer Science, Czech Republic.
【科研費】	<ul style="list-style-type: none"> ・ [制約付きグラフ同型性判定問題に関する研究] (単著), 2014-2016年度 科研費 研究基盤 (C) 研究成果報告書, 2017年. ・ [手書き板書方式ビデオ教材共同開発のためのシステム基盤構築] (共著), 2014-2016年度 科研費 研究基盤 (C) 研究成果報告書, 2017年. ・ [グラフ最適化問題に対する近似アルゴリズムの研究] (単著), 2012-2013年度 科研費 若手研究 (B) 研究成果報告書, 2014年. ・ [グラフ同型性判定問題の計算量の解析および効率的なアルゴリズムの提案] (単著), 2010-2011年度 科研費 若手研究 (B) 研究成果報告書, 2012年.
【社会貢献活動】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度科学の甲子園ジュニア全国大会鳥取県代表研修会 講師 ・ 令和元年度鳥取県子どものインターネット利用教育啓発推進協議会 委員 ・ 平成30年度科学の甲子園ジュニア全国大会鳥取県代表研修会 講師 ・ 平成29年度総務省「若者を対象とした IoT 機器の適正な電波利用を図るための人材育成方策に関する調査研究」事業鳥取運営委員会 委員 ・ 2015-2019年 International Symposium on Computing and Networking(CANDAR), program committee ・ 2016-2019年 International Workshop on Parallel and Distributed Algorithms and Applications(PDAA), program committee ・ 平成26～29年度科学の甲子園ジュニア全国大会鳥取県代表研修会 講師 ・ 平成27年度公立鳥取環境大学公開講座「パズルとその数理」講師 ・ 平成25～27年度科学の甲子園全国大会鳥取県代表強化セミナー 講師

千葉 雄二

CHIBA, Yuji



教授

所属…人間形成教育センター
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

■ **主な担当科目** 特別講義B, 地域分析特論

■ 研究者略歴

1975 (昭和50) 年 3月	早稲田大学法学部卒業 (法学士)
1975 (昭和50) 年 4月	川崎製鉄株式会社 (現JFEスチール株式会社) 調査部, 鉄鋼企画部, 経営企画部, 関係会社等 (~2003年3月)
2003 (平成15) 年10月	(財) とっとり政策総合研究センター調査研究ディレクター, (財) とっとり地域連携・総合研究センターディレクター兼調査研究部長兼地域連携部長 (~2012年9月)
2012 (平成24) 年 4月	公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター長・教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻教授

Research

■ **取得学位** 法学士

■ **専門分野** 地域学, 統計, 産業連関表, 多変量解析

■ **現在の研究テーマ** ・ 地域性を規定する要因の研究
・ 地域に関する制度, 経済, 文化, 思想の研究

■ **所属学会** 日本地域学会, 環太平洋産業連関分析学会, 日本地域経済学会, 国際経済学会

Data

■ 研究等活動

【報告書】

- ・「鳥取市用瀬町江波集落の存続性について」2017年
- ・「地域小売業の現状と今後の展開についての調査研究」2016年
- ・「鳥取市における事業所再編による雇用変動」2013年
- ・「鳥取県内の宅配利用動向についての調査研究」2013年
- ・「鳥取県版事業仕分け(事業棚卸し)の意義と今後の展開」, 2011年, 「TORCレポート」第34号
- ・「鳥取県の長期生産力の行方」, 2010年, 「TORCレポート」第33号
- ・「環境・エネルギー問題と地域経済」, 2009年, 「TORCレポート」第32号

【学会報告】

- ・環太平洋産業連関分析学会第30回全国大会「地域性と関係の分析を視点とした市町村間産業連関表の作成」2019年
- ・第56回日本地域学会報告「地域間産業連関表の作成と町村存続」2019年
- ・第51回日本地域学会報告「地方都市における事業所縮小による雇用変動の分析」2014年
- ・第42回日本地域学会基調講演「鳥取県の経済的自立」2005年

【学会活動】

- ・第52回日本地域学会セッション座長 (2015年)
- ・各回日本地域学会セッション討論者 (2014年~)

■ 社会貢献活動

【調査研究支援】

- ・鳥取市「鳥取市の人口分析」2015年
- ・北栄町「集客施設の政策効果 -青山剛昌ふるさと館の地域効果-」2014年
- ・八頭町「鳥取県内市町村の人口転出の動向」2014年

【講演】

- ・鳥取県町村議会議長会「地方創生と地域特性」2015年
- ・鳥取県「地域社会における子育て支援」2014年
- ・鳥取県中小企業団体中央会「商業と地域 -宅配, 通信販売の伸張と地域商業-」2014年

【委員会】

- ・鳥取県北栄町「行政改革委員会会長」(2015年~)
- ・中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業地域採択審査委員会委員長 (2013年~2017年)
- ・鳥取県北栄町事業仕分けコーディネーター (2011年~2014年)
- ・鳥取市現本庁舎周辺地域活性化検討委員会委員長 (2011年, 2012年)

ベゴール・ベッティーナ



教授

Bettina BEGOLE

所属…人間形成教育センター

✉ begole@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 Intensive English 1～8

■ 研究者略歴

1981 (昭和56) 年 11月	米国ミズーリ州立中央大学 (Central Missouri State University) レクリエーション・保養と野外教育文学士
1990 (平成 2) 年 8月	倉敷市教育委員会英語指導助手 (～ 1998年)
1996 (平成 8) 年 3月	米国バーモント州S.I.T.大学(神戸キャンパス) 英語教育修士
1998 (平成10) 年 4月	鳥取NHK文化センター英会話教師、子供の英語教師
2001 (平成13) 年 4月	鳥取環境大学非常勤講師(2002年4月～2006年3月 英語特任講師)
2006 (平成18) 年 2月	鳥取県国際交流財団翻訳・通訳者
2006 (平成18) 年 4月	鳥取大学非常勤講師
2009 (平成21) 年 9月	鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2019 (平成31) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター教授

Research

■ 取得学位 文学修士 (外国語として英語教育法/ TESOL) (S.I.T., Kobe Campus)

■ 専門分野 英語教育, 多読, 翻訳学

■ 現在の研究テーマ

- ・ 英語能力を向上させるための多読に関する研究
- ・ 外国語として英語教育 (TEFL) に関する研究
- ・ 英語教育に関する研究

■ 所属学会

JALT(全国語学教育学会)
 JALT鳥取支部役員
 IATEFL(International Association of Teachers of English as a Foreign Language)
 JACET(Japan Association of College English Teachers)

■ 資格 日本赤十字社救急法指導員

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・ [Welcome to Intensive English, 2017年、TUES
- ・ [Welcome to Intensive English] (単著) 2016年、TUES
- ・ [Welcome to Intensive English] (単著) 2015年、TUES
- ・ [Welcome to Intensive English] (単著) 2014年、TUES
- ・ [Welcome to Intensive English and Your Reading and Writing Class] (単著)、2013年、TUES
- ・ [Introduction to Intensive English: Your Reading and Writing Class] (単著)、2012年 (初版)、TUES
- ・ [TUES Intensive English Practical English B, Reading and Writing] (単著)、2011年(2版)、TUES

【報告書】

- ・ Extensive Reading in the Language Classroom: A literature review 「語学授業における多読：研究レビュー」 (共著)、2017年、公立鳥取環境大学紀要 15号
- ・ 多読による英語教育—その効果と今後の課題—Extensive Reading in English Education:Efficacy and Future Challenges (共著)、2015年、鳥取環境大学紀要13号
- ・ 「英語の自由作文における学生の文法精度に関する長期的な考察」 A Longitudinal Study of Students' Grammatical Accuracy during Their Production of Unscripted English (共著)、2014年、鳥取環境大学紀要12号
- ・ 「インテンシブ・イングリッシュ履修一年後における英検スコア変動に関する報告書」 A Short Report on Changes in Students' Eiken Test Scores after One Year of Intensive English」 (共著)、2012年、鳥取環境大学紀要10号
- ・ Extensive Reading with Low-level Students; Problems, Solutions, and Results, JACET Summer Seminar Proceedings No. 11; Advanced EFL and ESP Reading (単著)、2013年2月
- ・ 「英語読解能力と英文作成能力を向上させるための多読 Using Extensive Reading to Improve Students' English Reading and Writing: A Preliminary Report」 (単著)、2012年、鳥取環境大学紀要9号
- ・ 「鳥取環境大学のインテンシブ・イングリッシュ (IE) 過去、現在、そして未来」 (単著)、2010年、鳥取環境大学紀要8号
- ・ 「Don't Teach Swimming from the Pool Deck」 (単著)、2010年、鳥取環境大学紀要8号

■ 社会貢献活動

- ・ 鳥取県教育委員会外国語指導助手の指導力等向上研修会、Active Learning: What is it, and what can we do?、講義・演習、2019年12月
- ・ 鳥取県教育委員会高校英語弁論大会、審査長、2019年9月
- ・ 鳥取ハーナウ友好親善協会、理事、2018年～
- ・ 中国地域高等学校英語弁論大会、審査長、2018年11月
- ・ 教員免許更新講習 (英語) ワークショップ、Growth Mindset and Active Learning in the English Classroom、2018年8月
- ・ コンピューターを活用したロール・プレイング・ゲームによる、環境的、経済的な課題へのアクティブ・ラーニングの適用、全国語学教育学会鳥取支部、2018年1月
- ・ 鳥取県教育委員会高校英語弁論大会、審査長、2017年9月
- ・ 教員免許更新講習 (英語) ワークショップ、Active Learning in the English Classroom、2017年8月
- ・ 教員免許更新講習 (英語) ワークショップ、2016年8月
- ・ 鳥取県外国語指導助手及び外国語担当教員中間期研修会(Getting Along in the Workplace) 2015年12月
- ・ 教員免許更新講習 (英語) ワークショップ、2015年8月
- ・ 鳥取県外国語指導助手及び外国語担当教員中間期研修会 (Motivating Students)2014年12月
- ・ 教員免許更新講習 (英語) ワークショップ、2014年8月

人間形成教育センター

徳山 瑞文

TOKUYAMA, Mizufumi



教授

所属…人間形成教育センター

tokuyama@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** Intensive English (リーディングとライティング、リスニングとスピーキング)

■ 研究者略歴

1987 (昭和62) 年 7月 中国東北師範大学外国語学部英語学科卒業

1987 (昭和62) 年 7月 中国吉林省教育学院 英語教師

1999 (平成11) 年 4月 鳥取県立青谷高等学校にて日本文部省JETプログラムの外国語助手 (ALT)

2003 (平成15) 年 3月 鳥取大学大学院教育学部教育学研究科教科英語教育修了

2003 (平成15) 年 4月 鳥取環境大学 英語非常勤講師

2017 (平成29) 年 4月 鳥取環境大学 英語特任講師

2019 (平成31) 年 4月 公立鳥取環境大学 人間形成教育センター 教授

Research

■ **取得学位** 教科教育修士 (鳥取大学)

■ **専門分野** 英語教育

■ 現在の研究テーマ

- ・日本人の英語勉強法に関する研究
第二言語としての英語標準勉強法を確立させていけば、英語に対するコンプレックスがなくなって英語教育に興味を抱くのではないのでしょうか。
- ・英語能力の尺度「CEFR」に関する研究
「CEFR」は欧州内で他国とのコミュニケーションが重視されて、外国語勉強の評価共通基準として、2001年から導入しています。英語を使う人が自分の能力がどのレベルに達しているかわかるように、「CEFR」は活用すれば、現在の文部科学省が示す中高生英語能力の水準に到達出来る可能性があるのではないのでしょうか。

■ **受賞歴** 1998年9月 中国吉林省教育学院 青年優秀教師賞

■ **所属学会** 日本全国英語教育学会、中国地区英語教育学会

■ **資格** 中国大学教師資格

Data

■ 研究等活動

【論文】

- ・「English Education of the New Century in Japan -- Examination of ALT's Functions through the Analyses of Junior High School New Textbooks and the New Strategies of English Education」、2003年、「鳥取大学英語研究」第4号

【報告書】

- ・「Is It Necessary to Use "All English" for the Classes of ESL?」2015年、中国地区英語教育学会

■ 社会貢献活動

- ・2013年1月から2017年3月の間、鳥取NHK文化センターにて英会話教室教師

桑本 裕二



教授

KUWAMOTO, Yuji

所属…人間形成教育センター

URL <http://misc.kankyo-u.ac.jp/~kuwamoto>

E-Mail kuwamoto@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** 英文作成 1、2、インテンシブ・イングリッシュ 4、5、7、8

■ 研究者略歴

1992 (平成 4) 年 3月	東北大学文学部言語学専攻卒業
1994 (平成 6) 年 3月	東北大学大学院文学研究科博士前期課程修了 (言語学専攻分野)、修士 (文学)
1997 (平成 9) 年 3月	東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了 (言語学専攻分野)、博士 (文学)
2000 (平成12) 年10月	秋田工業高等専門学校人文科学系講師
2006 (平成18) 年 7月	秋田工業高等専門学校人文科学系助教授
2007 (平成19) 年 4月	秋田工業高等専門学校人文科学系准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター教授

Research

■ **取得学位** 博士 (文学) (東北大学)

■ **専門分野** 言語学、音韻論

■ **現在の研究テーマ** ・分節音の共鳴性と音節構造について
 ・鳥取県倉古方言 (中部方言) の音韻研究
 ・小・中・高校の英語教員に対する英語発音指導法の開発および英語教育への応用

■ **所属学会** 日本言語学会、日本音声学会、日本音韻論学会、日本語学会

■ **資格** 実用英語技能検定準1級、TOEICスコア815点、高等学校教諭一種免許 (外国語 (英語))、日本漢字能力検定準1級

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・『大学・高専・短大生のための英文法再入門』(編著)、2019年、開拓社
- ・『改訂版 小学校英語 発音のフシギ from いんぐりっしょ to English』、2017年、秋田魁新報社
- ・『最新英語学・言語学用語辞典』(共著、項目分担執筆)、2015年、開拓社
- ・『小学校英語の発音と指導—iPadアプリ「白柴さくらのえいごカルタ」読本—』(共著)、2015年、開拓社
- ・『小学校英語 発音のフシギ from いんぐりっしょ to English』、2011年、秋田魁新報社
- ・『若者ことば 不思議のヒミツ』、2010年、秋田魁新報社

【論文】

- ・『鳥取県倉古方言におけるア段長音の派生と分布について』『東北大学言語学論集』第26号
- ・『周辺からコアへ：若者ことば・方言から言語をながめる』2017年、『東北大学言語学論集』第26号
- ・『/sC/頭子音結合のゲルマン語・ロマンス語における表出』2016年、『東北大学言語学論集』第25号
- ・『若者ことばは通時変化を確認できるか？—テレビドラマのデータベース作成とその分析結果より—』2016年『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論』、開拓社
- ・『鳥取県倉古方言における平板型アクセントの忌避』、2016年、『現代音韻論の動向 日本音韻論学会20周年記念論文集』(日本音韻論学会編)、開拓社

【書評】

- ・『米川明彦著『ことばが消えたワケ 時代を読み解く俗語の世界』』『図書新聞』第3361号 (2018年7月28日)

■ 社会貢献活動

- ・出前授業「辞書に載っていないことば—若者ことば不思議のヒミツ—」2019年11月7日、於鳥根県立大田高校
- ・教員免許状更新講習、2016年度より毎年開催
- ・鳥取県立倉古西高等学校S3チャレンジ(人文) グループ個人研究発表会ゲストコメンテーター、2016年度より毎年実施
- ・講演「福本和夫と北栄町の方言—「伯耆北條地方ノ訛言・方言・略語考」を読み解く—」第1回郷土史入門講座、2019年9月21日、於北栄町図書館
- ・講演「倉古のことば・倉古で使うことば」誓願寺の集い講演、2018年7月7日、於誓願寺 (鳥取県倉古市)
- ・講演「地域文化を支える倉古方言—民衆の意識と学術研究をつなぐもの—」曹洞宗鳥取県宗務所第四教区護持会平成30年度総会講演会、2018年4月20日、於大学院 (鳥取県倉古市)
- ・平成29年度NHK杯全国高校放送コンテスト出展作品への電話取材2件 (山梨県立甲府東高等学校、福井県立羽水高等学校)
- ・「周辺からコアへ：若者ことば・方言から言語をながめる」2017年6月9日、滋賀大学経済学部講演会、於滋賀大学彦根キャンパス

中村 弘子

NAKAMURA, Hiroko



准教授

所属…人間形成教育センター

URL www.kankyo-u.ac.jp/~h-nakamu/

E-Mail h-nakamu@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 Intensive English

■ 研究者略歴

1985 (昭和60) 年 3月	神戸市外国語大学外国語学部英米学科卒業
1988 (昭和63) 年 3月	神戸市外国語大学外国語学研究科修士課程英語学専攻修了
1988 (昭和63) 年 8月	米国イリノイ州立南イリノイ大学大学院修士課程言語障害学科入学
1989 (平成 元) 年 6月	国際ロータリー財団の奨学金給付期間終了後帰国
1990 (平成 2) 年 4月	パルモア学院専門学校専任教員
1991 (平成 3) 年 4月	大阪外国語大学外国語学部非常勤講師
2000 (平成11) 年 4月	宇都宮大学国際学部非常勤講師
2002 (平成14) 年 4月	筑波大学外国語センター非常勤講師
2003 (平成15) 年 9月	米国コネチカット州立コネチカット大学コミュニケーション・サイエンス研究科修士課程入学
2004 (平成16) 年 6月	米国コネチカット州立コネチカット大学コミュニケーション・サイエンス研究科修士課程修了
2009 (平成21) 年 9月	鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授

Research

■ 取得学位 文学修士 (神戸市外国語大学), Master of Arts (コネチカット大学)

■ 専門分野 英語教育, 応用言語学, 言語障害

■ 現在の研究テーマ

- ・日本人のコミュニケーション不安と外国語学習不安
- ・日本人のコミュニケーション不安に関する音響学的分析
- ・言語リズムの習得と母語の干渉について

■ 受賞歴 1988年 国際ロータリー財団大学院留学奨学生

■ 所属学会 大学英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 日本音声学会, ことばの科学会

■ 資格 実用英語技能検定1級, TOEIC®スコア950点, 高等学校教諭専修免許状 (英語)

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・「大学・高専・短大生のための英文法再入門」(分担執筆), 2019年, 開拓社
- ・「文法の獲得」(分担執筆), 2007年, 『ことばの認知と仕組み—ことばの科学の最前線』三省堂
- ・「一語文期における母国語の影響に関する一考察—bye-bye vocalizationの日米比較」(分担執筆), 『ことばの心理と学習』1998年, 金星堂

【論文】

- ・「文法基礎知識と英文読解力の向上」, (2018) 『英語学論説資料』第50号 論説資料保存会
- ・「母語でのコミュニケーション不安が英語学習に及ぼす影響について」, 2016, 『ことばの科学研究』第16号
- ・「A comparative study of vocal fundamental frequency in the speech of Japanese and American hearing-impaired children」(共著), 2006年, *Logopedics, Phoniatrics, Vocology*, Volume 31, pp. 1-6.
- ・「L1 communication apprehension and L2 oral proficiency in Japanese university students」2006年, 『外国語教育論集』第28号, pp. 199-207, 筑波大学外国語センター
- ・「Effect of ambient language in the period of first words: bye-bye vocalizations of Japanese and American children」(共著), 2000年, *Asia-Pacific Journal of speech, language, and volume* 5.1, pp.35-43.

【報告書】

- ・「コミュニケーション不安と英語教育」, 2012年, 『鳥取環境大学紀要』第9号・第10号合併号, pp.127-129.
- ・「文法基礎知識と英文読解力の向上」, 2016年, 『公立鳥取環境大学紀要』第14号, pp. 89-93.

【翻訳】

- ・「人間の動機づけと感情における認知」(分担執筆), 2002年, 『感情の社会生理心理学』金子書房

【辞典】

- ・「スピーキングのモデル」「サーキットモデル」「ロゴジェンモデル」「サーチモデル」他, 2003年, 『応用言語学辞典』, 研究社

【国際会議】

- ・「FO Analysis for the Oral Presentation in English by Japanese University Students」, 2017年, Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing, International University of Health and Welfare, Narita, Japan
- ・「Communication Apprehension and L2 Learning Anxiety in Japanese, Korean, and Taiwanese University Students」(共著), 2013年, Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing, Chung Shan Medical University, Taichung City, Taiwan
- ・「L1 Communication Apprehension among Asian University Students」, 2011年, Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing, University of Canterbury, Christchurch, New Zealand
- ・「A comparative study of vocal fundamental frequency: Japanese and American hearing-impaired children」(共著), 2007年, Canterbury Conference on Communication Disorders, University of Canterbury, Christchurch, New Zealand

■ 社会貢献活動

- ・放送大学鳥取学習センター面接授業担当 (2019年11月~12月)
- ・「授業に役立つ英語音声学」, 2014年~2019年, 8月, 教員免許状更新講習
- ・「TOEICセミナー」, 2012年10月~11月, 2014年9月, 2016年, 8月~9月, 2019年, 9月, 公立鳥取環境大学公開講座
- ・第30回兵庫県高校生英語スピーチコンテスト但馬支部予選審査委員長, 2015年10月
- ・「東アジアの英語教育とコミュニケーション不安について」, 2015年7月, 鳥取大学グローバル化社会における多文化共生のための協働力育成プログラム
- ・「国際奉仕月間フォーラム」, 2014年2月, 国際ロータリー第2660地区大阪城南ロータリークラブ
- ・「東アジアの英語教育とコミュニケーション不安」, 2012年5月, 鳥取市民大学国際理解講座
- ・公益信託とりざん青い鳥基金運営委員 (2014年9月~2020年3月)

バンヴィル ショーン

BANVILLE, Sean



特任准教授

所属…人間形成教育センター

URL <https://breakingnewsenglish.com/>

Eメール banville@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目	インテンシブ英語1 (スピーキングとリスニング)、インテンシブ英語2 (リーディングとライティング)、インテンシブ英語5 (スピーキングとリスニング)
■ 研究者略歴	
1987 (昭和62) 年 6月	カーディフ大学、ウェールズ、UK 卒業 (学士: 会計学)
1993 (平成 5) 年 7月	ブリティッシュカウンシル、トルコ 卒業
1994 (平成 6) 年 1月	エンサイクロピーディア プリタニカ (神戸) 入社 (ナショナル ティーチャー トレーナー、スクールマネージャー)
1998 (平成10) 年 1月	プリンスフォード イングリッシュ カレッジ (大阪) 入社 カリキュラムデザイン、カレッジマネージャー、ティーチャートレーナー
2003 (平成15) 年 9月	バーミンガム大学 イギリス 修了 (修士: TEFL/TESL)
2006 (平成18) 年 1月	Higher Colleges of Technology ファンデーションコース チームリーダー アブダビ女子大学・カリキュラムデザイン、オンラインレッスン アラブ首長国連邦・ブレンディッドラーニング チームリーダー
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学 非常勤講師
2016 (平成28) 年 4月	鳥取大学 非常勤講師
2020 (令和 2) 年 4月	公立鳥取環境大学 人間形成教育センター 特任准教授

Research

■ 取得学位	会計学 (学士) (カーディフ大学 ウェールズ) TEFL/TESL (修士) (バーミンガム大学 イギリス)
■ 専門分野	英語教育
■ 現在の研究テーマ	How a Discourse Intonation approach can advance communicative pronunciation and communicative competence and performance.
■ 受賞歴	Nominated for ブリティッシュ・カウンシル award for Innovation in Learner Resources
■ 所属学会	Japanese Association of Language Teachers (JALT)
■ 資格	RSA CTEFLA

Data

■ 研究等活動	
【著書】	<ul style="list-style-type: none"> 「Breaking News Listening Student Book」 (共著) Nobuhiro Kumai, Stephen Timson, Sean Banville, 2010年, MacMillan Language House 「Bringing News Into The Classroom」, 2010年, Finding Your Voice: Critical Issues in ELT. TESOL Arabia Publications
【開発した教材等】	<p>Breaking News English.com</p> <ol style="list-style-type: none"> https://BreakingNewsEnglish.com 時事ニュースを基にした2,850+の4技能インタラクティブレッスンと27ページのワークシート。 https://ESLDiscussions.com 709のトピックに関するディスカッションのプリント (14180の質問含む)。 https://ESLHolidayLessons.com 世界の祝日についての199のレッスン。 https://FamousPeopleLessons.com 有名人についての167の4技能レッスン。 https://ListenAMinute.com 1分のリスニング教材を基にした479のレッスン。 http://www.NewsEnglishLessons.com http://www.FreeESLMaterials.com http://www.LessonsOnMovies.com 映画についての4技能レッスン https://BusinessEnglishMaterials.com 世界の企業についての102の4技能レッスン。 http://www.LessonsOnAmericanPresidents.com アメリカの歴代大統領についての4技能レッスン。

■ **社会貢献活動**

私は2012年から毎年、村のコミュニティプロジェクトの一環として、5月に田植え、9月に米の収穫を手伝っています。ここで収穫された米はケニアの孤児院に送られます。鳥取大学のG_FRENZクラブの学生も年に2回参加しています。私は彼らが田植えや収穫活動を楽しめるように心がけています。

今年4月より、私が住む集落の子供達を対象に毎週土曜日、ボランティアで英会話を教えています。ブリティッシュカウンシルより「Innovation in Learner Resources」(学習教材の革新)部門で受賞しました。

市丸 夏樹

ICHIMARU, Natsuki



准教授

所属…人間形成教育センター

URL <http://misc.kankyo-u.ac.jp/~ichimaru/>

E-mail ichimaru@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** 情報リテラシ1・2, プロジェクト研究1～7, (経営学部)専門演習1～3

■ 研究者略歴

1990 (平成 2) 年 3月	九州大学工学部電子工学科卒業
1992 (平成 4) 年 3月	九州大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻 博士前期課程修了
1995 (平成 7) 年 3月	九州大学大学院総合理工学研究科博士後期課程単位取得退学
1995 (平成 7) 年 4月	九州大学工学部情報工学科助手
1998 (平成10) 年 4月	九州大学大学院システム情報科学府兼任
2006 (平成18) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科講師
2007 (平成19) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻情報システム領域兼務
2008 (平成20) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科准教授
2012 (平成24) 年 4月～	鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2015 (平成27) 年 4月～	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授

Research

■ **取得学位** 博士 (工学) (九州大学)

■ **専門分野** 自然言語処理, 計算言語学

■ **現在の研究テーマ**

- ・ 統計的言語モデル
- ・ 日本語の短縮入力方式
- ・ 未知語の生成モデル
- ・ 自動要約
- ・ テキスト解析

■ **所属学会** 言語処理学会, 人工知能学会, 情報処理学会

Data

■ 研究等活動

【論文】

- ・ "Thesaurus Granularity and its effects on the Kana/Kanji Transliteration of Japanese Derivative Words", 2013年9月, In proceedings of the *International Conference of Pacific Association for Computational Linguistics* PACLING2013, Sep3-7, CDROM.
- ・ 「要約文の話題の流れの最大化による自動要約」(共著), 2005年11月, 「自然言語処理」特集号「質問応答, 自動要約」, Vol. 12, No. 6, pp. 45-61.
- ・ 「シソーラスブラウザxthesにおけるDAG構造の描画アルゴリズムとその評価」, 2005年9月,九州大学システム情報科学研究院紀要, Vol. 10, No. 2, pp. 97-102.

吉田 聡



副学長補佐（教育、研究、情報、企画・評価担当）、
情報メディアセンター副センター長、准教授

YOSHIDA, Satoru

所属…人間形成教育センター

<http://misc.kankyo-u.ac.jp/~satoru-y/>

Profile

■ 主な担当科目	微分積分学, 線形代数学, 数理基礎
■ 研究者略歴	
2003 (平成15) 年 3月	北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程 修了
2003 (平成15) 年 4月	石川県立松任高等学校臨時的任用講師
2005 (平成17) 年 8月	産業技術総合研究所・産総研特別研究員
2009 (平成21) 年 8月	鳥取環境大学情報システム学科講師
2013 (平成25) 年10月～	鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学情報メディアセンター 副センター長

Research

■ 取得学位	博士 (情報科学) (北陸先端科学技術大学院大学)
■ 専門分野	数理論理学
■ 現在の研究テーマ	・ 解析学理論の計算可能性の研究 ・ 数理的技法によるコンピュータシステムの検証に関する研究
■ 所属学会	日本数学会, 日本科学哲学会

Data

■ 研究等活動	
【報告書】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「A note on continuity properties of relations」 (共著)、2019年、Rep. Fac. Sci. (鹿児島大学)、No.52, pp.1-6. ・ 「On a certain discontinuous mapping as a continuous relation」 (共著)、2018年、京都大学数理解析研究所講究録2083, 150-155. ・ 「ソフトウェア更新システムプロトコルの様相論理S4に基づく検証」、2016年、公立鳥取環境大学紀要, vol. 14, pp.95-103.
【口頭発表】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「関係の各点連続性と点列連続性」、2020年2月、第7回山陰基礎論・解析学研究集会, 米子コンベンションセンター. ・ 「システム開発の基盤となる能力育成への大学教育の試み」、2017年9月、Tsukuba Software Science Seminar, 産業技術総合研究所. ・ 「構成的数学の体系と実践」、2017年6月、第179回数学文献を読む会、共立出版社. ・ 「様相論理S4に基づくプロトコル検証」、2016年8月、第27回代数、論理、幾何と情報科学研究集会(ALGI)、信州大学. ・ 「D-Case による SysML の説明力向上を目指して」 (共著)、2015年10月、信学技報, vol. 115, no. 281, KBSE2015-38, pp. 13-16. ・ 「構成的解析学における超関数からなる空間の位相について」、2013年9月、SLAGICS 2013、京都大学数理解析研究所. ・ 「構成的数学の体系とその実践」、2013年3月、数学の形式化に関する研究集会 (主催:九州大学数理学府グローバルCOEプログラム「マス・フォア・インダストリ教育研究拠点」)、アクロス福岡. ・ 「連続性と様相-その一般化・非古典化の数理と形而上学」 (共著)、2010年11月、科学基礎論学会研究例会、日本大学文理学部.
■ 社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥取県立八頭高等学校「探求ゼミ」講師, 2016～2019年度, 鳥取県立高等学校・大学教員交流事業. ・ 鳥取県中学生プログラミングコンテスト (主催: 鳥取県情報産業協会) 審査員, 2013～2019年度. ・ 八頭町指定管理選定委員, 2018年度. ・ 第26回代数、論理、幾何と情報科学研究集会 (2015年8月) 会場世話人.

小杉 卓裕

KOSUGI, Takahiro



講師

所属…人間形成教育センター

Profile

■ 主な担当科目 微分積分学, 線形代数学

■ 研究者略歴

- 2012 (平成24) 年 3月 東北大学理学部数学科卒業
- 2014 (平成26) 年 3月 東北大学大学院理学研究科数学専攻博士課程前期2年の課程修了
- 2017 (平成29) 年 3月 東北大学大学院理学研究科数学専攻博士課程後期3年の課程修了
- 2017 (平成29) 年 4月 日本学術振興会特別研究員 (PD)
- 2018 (平成30) 年 4月 福岡工業大学工学部知能機械工学科ポスドク研究員
- 2020 (令和 2) 年 4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター講師

Research

■ 取得学位 博士 (理学) (東北大学)

■ 専門分野 偏微分方程式論

■ 現在の研究テーマ

- ・ 最適制御から現れるような完全非線形偏微分方程式に対する粘性解理論
- ・ 筋骨格システムに対するフィードフォワード制御可能性, 受動歩行ロボットの安定歩行条件等ロボティクスに現れる力学系の解析

■ 受賞歴 2017 (平成29) 年3月 博士論文川井賞 (公益財団法人川井数理科学財団)

■ 所属学会 日本数学会, 日本ロボット学会

Data

■ 研究等活動

【論文】

- ・ [Equivalence of viscosity solutions between obstacle and gradient constraint problems], 印刷中, Funkcialaj Ekvacioj
- ・ [Stability conditions of an ODE arising in human motion and its numerical simulation] (共著), 2019年, Results in Applied Mathematics
- ・ [経由点を有する1リンク2筋骨格システムにおけるポテンシャル解析] (共著), 2019年, 第24回ロボティクスシンポジウム講演論文集
- ・ [On the rate of convergence of solutions in free boundary problems via penalization] (共著), 2018年, Journal of Mathematical Analysis and Applications
- ・ [Maximum principle for Pucci equations with sublinear growth in Du and its applications] (共著), 2017年, Nonlinear Analysis
- ・ [Remarks on the comparison principle for quasilinear PDE with no zeroth order terms] (共著), 2015年, Communications on Pure and Applied Analysis

■ 社会貢献活動

- ・ 高岡第一高等学校特別進学コース進路講習会 講師 (2018年9月14日)

久保 奨

KUBO, Susumu



准教授

所属…人間形成教育センター

s-kubo@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 情報リテラシ2、データ・マイニング

■ 研究者略歴

2003 (平成15) 年 3月	東京大学工学部物理工学科卒業
2005 (平成17) 年 3月	東京大学大学院数理科学研究科数理科学専攻修士課程修了
2005 (平成17) 年 4月	総務省 (統計局, 総合通信基盤局など~2020年6月)
2007 (平成19) 年 7月	内閣府 (大臣官房政府広報室~2009年7月)
2018 (平成30) 年 3月	東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了, 博士 (学術)
2018 (平成30) 年 4月	独立行政法人統計センター (総務部経営企画課など~2019年2月)
2020 (令和 2) 年 7月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授

Research

■ 取得学位 博士 (学術) (東京大学)

■ 専門分野 オペレーションズ・リサーチ, 応用数学, 統計学

■ 現在の研究テーマ
・ マックスプラス代数を用いたスケジューリング問題の理論的研究
・ マックスプラス代数の性質に関する研究
・ 公的統計に関する研究

■ 所属学会 日本応用数理学会, 日本数学会

Data

■ 研究等活動

【論文】

- ・ [Basic r-symmetric tropical polynomials], 2019年, Journal of Pure and Applied Algebra, Volume 223
- ・ [Applications of max-plus algebra to flow shop scheduling problems] (共著), 2018年, Discrete Applied Mathematics, Volume 247

【報告書】

- ・ [Re-engineering the Japanese Statistical System] (共著), 2012年, The OECD Statistics Newsletter, Issue 57

【口頭発表】

- ・ [max-plus代数とスケジューリング問題] (共著), 2018年, 日本応用数理学会年会
- ・ [max-plus代数における基本的な対称式], 2015年, 神戸大学神戸可積分系セミナー
- ・ [The Quality Assurance Framework in Japan] (共著), 2012年, European Conference on Quality in Official Statistics (Q2012)
- ・ 「代数方程式の超離散化」, 2009年, 青山学院大学青山数理セミナー
- ・ 「小地域推計と労働力調査への適用」 (共著), 2006年, 統計関連学会連合大会

■ 社会貢献活動

- ・ 「消費生活に関するパネル調査研究会」メンバー, 2015年, 公益財団法人家計経済研究所

TUES

Tottori
University of
Environmental
Studies



公立鳥取環境大学

Tottori University of Environmental Studies

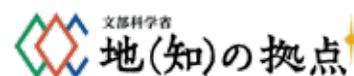
環境学部 環境学科 経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科

〒689-1111 鳥取市若葉台北一丁目1番1号
TEL 0857-38-6700(代表) FAX 0857-38-6709
E-mail info@kankyo-u.ac.jp

※研究者の略歴・研究等活動の詳細および研究シーズ集は本学webページを
ご参照ください。

研究者詳細 <https://www.kankyo-u.ac.jp/about/publication/#soran>

研究シーズ集 <https://www.kankyo-u.ac.jp/research/contract/seeds/>



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

